

12TH NIPPON AGONOREE 第12回日本アグーナリー 報告書

会期 | 平成28年8月12日(金)~16日(火)

場所 | 静岡県・富士山麓山の村



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟

SCOUT ASSOCIATION OF JAPAN



12TH NIPPON AGONOREE 第12回日本アグーナリー

会期 | 平成28年8月12日(金)~16日(火)

場所 | 静岡県・富士山麓山の村



目次

C o n t e n t s

秋篠宮殿下のおことば	3
来賓挨拶 静岡県知事、文部科学副大臣、議連会長	4
日本連盟挨拶 開会式/奥島理事長	7
フォーラムアピール	8
日本連盟挨拶 閉会式/膳師運営本部長	10

12NAアルバム (写真頁)

8月11日(木・祝) 本部スタッフ集合・運営本部準備・事前研修	12
8月12日(金) 参加隊到着・設営・お成り・開会式	14
8月13日(土) 場内プログラム・国際交流の夕べ	16
8月14日(日) 場内プログラム・フォーラム	18
8月15日(月) 場外プログラム・富士の夕べ	20
8月16日(火) 閉会式・撤営	22

I 大会の実施概要 25

II 大会のプログラム

第1日 8月12日(金) 設営、開会式	44
第2日 8月13日(土) 場内プログラム、国際交流の夕べ	45
第3日 8月14日(日) 宗教儀礼/スカウトOWN、 場内プログラム、フォーラム	46
第4日 8月15日(月) 場外プログラム、ドリームアワード授与式、 富士の夕べ	47
第5日 8月16日(火) 閉会式	48

III 大会運営本部報告

インフォメーションセンター	50
総合サービスセンター	54
生活サービスセンター	60
活動サービスセンター	80
チャレンジクルーセンター	88
実行委員会	97

IV 参加者の声

参加者から届いた手紙	101
会場でのインタビュー	103
参加隊長アンケート集計	105
チャレンジクルー(未成年スカウト)アンケート集計	116

8月12日(金)

富士山麓山の村

開会式

秋篠宮殿下の おことば



本日、豊かな自然に包まれた「富士山麓山の村」において、第12回日本アグーナリーの開会式が開催され、皆様とともに参加できましたことを大変うれしく思います。

日本アグーナリーは、1973年に愛知県で第1回が行われて以来、国の内外から参加したスカウトたちが、キャンプ生活によって得られた経験を通して、積極的に社会生活に参加することを目的として開催されてまいりました。

一定期間にわたって継続的なテーマが設定されておりますが、このたびは、「We Can! 富士からともにはばたこう」のもと、多くの活動が計画されていると伺っております。

参加されたスカウトの方々には、富士の大自然の中、普段の生活では体験できない共同生活や交流活動を通じて、自然・人・社会が共生することの大切さを体感していただきたいと思います。そして皆様が、それぞれの国や地域に帰られた後も、今回得た経験を活かし、お互いを尊重し、支え合う多様な社会の実現を目指して、更に発展していかれることを期待いたしております。

終わりに、この大会が皆様にとって、実り多いものとなるよう祈念いたしますとともに、これまでボーイスカウト日本連盟が、スカウト活動を通じて、我が国における青少年教育に寄与してこられたことに心から敬意を表し、私の挨拶といたします。

8月12日(金) 開会式

来賓挨拶



静岡県知事

川勝 平太

ボーイスカウト静岡県連盟
連盟長

秋篠宮殿下、眞子内親王殿下の御臨席を仰ぎ、第12回日本アグーナリーが、ここ“ふじのくに”静岡県で盛大に開催されることをお慶び申し上げます。

また、国内外から参加される多くのスカウトの皆さんをはじめ、関係の皆様を、県民を代表して心から歓迎いたします。

さて、今回の大会は、世界文化遺産に登録された「世界の宝」富士山の麓で行われます。自然豊かな、すばらしい環境に恵まれた、この地での5日間にわたるキャンプ生活は、皆さんにとって大変有意義な体験となることでしょう。

現在、本県は、「個人として自立し、人との関わり合いを大切にしながら、よりよい社会づくりに参画し、行動する人」、すなわち、「有徳の人」の育成を教育の基本目標に掲げ、様々な取組を進めております。

キャンプ生活を通して、自らの役割を果たしつつ、相互の理解を深め、お互いの人格と個性を尊重し支え合う本大会は、正に「有徳の人」づくりの実践の場であると言えます。

この5日間の充実した生活により、皆さんが、大会テーマ「We Can! 富士からともにはばたこう」の通り、国内はもとより、世界の仲間との交流を深められ、広い視野と高い志を持って、富士山のように大きく成長し、世界に向けて羽ばたくことを期待しています。

結びに、第12回日本アグーナリーを開催するにあたり、大会を主催する公益財団法人ボーイスカウト日本連盟をはじめ、開催の準備にあられた多くの関係の皆様に対し、深く敬意を表しますとともに、スカウトの皆さんの御健勝と御活躍を祈念いたしまして、私の歓迎のあいさつといたします。

8月12日(金)開会式

来賓挨拶



文部科学副大臣
義家 弘介

第12回日本アグーナリーの開催にあたり、一言、お祝いを申し上げます。

日本アグーナリーは、昭和48年の第1回大会は愛知県で始まり、12回目となる今大会はここ静岡県立富士山麓山の村で、秋篠宮殿下、眞子内親王殿下のご臨席を仰ぎ、盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

静岡県立富士山麓山の村は、北にはすぐ目の前に富士山がそびえ立ち南には駿河湾が一望できる豊かな大自然に囲まれた、大変素晴らしいところに立地しております。

大会のテーマである「We Can! 富士からともにはばたこう」の通り、スカウトの皆様には日ごろの活動成果を十分に発揮し、ここで出会った仲間とともにこれから始まるキャンプ生活を通して自ら考え、そして積極的に行動しながらそれぞれの目標を達成されることを期待いたしております。

そして、この大会に参加して、得たものをそれぞれの地域で行う日ごろの活動にいかしていただき、スカウト運動の更なる発展に貢献することを願っております。

今回も多くの海外スカウトの皆様にもご参加をいただいております。ようこそ日本にお越しくださいました。大会期間中を通して、多くの交流が図られると思いますが、ここで集まったスカウトの皆さんとともに今日から始まる5日間を思う存分楽しんでください。

最後になりますが、本大会開催にご尽力された公益財団法人ボーイスカウト日本連盟をはじめ、関係の皆様に敬意を表しますとともにますますのご発展を心からご祈念申し上げます、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

8月12日(金) 開会式

来賓挨拶



衆議院議員

逢沢 一郎

ボーイスカウト振興国会議員連盟
会長

スカウトの皆さんこんばんは！
元気ですか。本当に元気ですね。

第12回日本アグーナリーの開催、本当におめでとうございます。

心からお祝いを申し上げます。

秋篠宮殿下、そして眞子内親王殿下、ご臨席本当にありがとうございます。

心から感謝を申し上げます。

素晴らしいアグーナリーになりますね。オーストラリアはじめ、海外からもたくさんスカウトの仲間、友達がこのアグーナリーに参加をいただきました。

そして、さっき最初にそれぞれの地域のスカウトの方が、その中には障がいのある方もおられましたけれども、堂々と入場行進、本当に嬉しく感じました。

日本の全国各地から、この富士山麓に仲間が、スカウトが集まった。健常者の方もいるし、少し障がいのある方もおられる。ボーイスカウトになってあまり時間の経ってない若いスカウトの方もいれば、少しベテランの方もいらっしやる。もちろん指導者の方もたくさん参加いただきましたね。

We Can！富士からともにはばたこう、素晴らしいテーマであります。

挑戦、交流、そして共に生きる、こういうテーマをしっかり受け止めていただきながら、5日間、素晴らしいアグーナリーキャンプになることを心から期待をいたします。

そして、皆が勇気を持つこと、そして自信をもって未来に挑戦することそのことを心から期待をいたします。

世界には今いろんな問題がありますね。貧困も克服していかなければならない、そして震災や紛争の無い平和な世界や地球を作っていかなきゃいけない。気候変動という新たな時代に私たちはしっかり向き合い、そういったことが発生する問題を乗り越えていく、そういう英知を結集していきたいと思います。

スカウト活動を通して、平和で豊かな、そしてお互いの違いを受入れ認め合いながら素晴らしい未来を作っていく、そういう未来を作る大きな力がこのアグーナリーから生まれてくることを心から期待いたします。

私たちボーイスカウト振興国会議員連盟の議員の我々仲間はスカウトの皆さんと一緒にこれからもしっかり活動してまいります。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、第12回日本アグーナリーの盛会を心からお祝いを申し上げますとともに、ボーイスカウト振興国会議員連盟を代表してのご挨拶といたします。おめでとうございます。楽しんでください。ありがとうございました。

8月12日(金) 開会式

日本連盟挨拶



大会長

奥島 孝康

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟
理事長

皆さんこんばんは。

元気ですか。

この大会期間中元気にキャンプができますか。

良いキャンプでなきゃいけない。

君たちがこの富士の麓で毎日朝夕、富士山を眺めながら新しい希望と新しい目標に向かって大きく飛びかかっていくことを心から祈っております。

できますか。

ボーイスカウトの最初の総長でありました後藤新平という方はボーイスカウトそのものの有する精神を体現した人でした。

その方がおっしゃった言葉の中に自治の三訣という言葉があるのをご存知ですか。

「人のお世話にならぬよう、人のお世話をするよう、そして報いを求めぬよう」というこの3つの言葉が、自治の三訣といわれる後藤新平初代総長の言葉であります。

まず、人のお世話にならぬよう。君たちはここで仲間と一緒にこれから困難に向かって自分の足で立ち自分の力で未来を切り開く、そういう決意を大いに友人の間で語り合い、決意を固めていただきたい。

これが第一。できますか。

人のお世話をするよう。君たちはボーイスカウトです。ボーイスカウトであるということは、人のお世話をすること。人の役に立つことです。君たちはできますか。

そして、報いを求めぬよう。つまり君たちは奉仕の精神を身につけて世のため人のために汗を流し涙を流し、そして奉仕するのです。できますか。

それでは、この会期中はみんなで楽しみましょう。そして楽しんで、大いに仲間を作り、そして大いに自らもリフレッシュし、そして新しい未来に向かってふたたびこの富士の高みからこれからの未来に向かって飛び立つところといたしましょう。できますか。

それでは、大いに楽しみましょう。

ありがとう。

8月16日(火)

フォーラムアピール

テーマ アグーナリーに参加して楽しかったこと

岐阜県連盟多治見第1団 カブスカウト | 富井 睦子

私が、アグーナリーで楽しかったことは4つあります。

1つ目は、場外プログラムで朝霧メイプルファームの牛舎を見学したのが楽しかったです。2つ目は場内プログラムです。私は、一番カローリングが楽しかったです。3つ目は、富士のタベです。いろいろなブースで遊んだり、食べたりすることが楽しかったです。4つ目は自由交歓です。外国人やいろいろな友達、同じ障がいのある子などに名刺、記念品やサイン交換をしたのも楽しかったけど、その友達としゃべるのも楽しかったです。このアグーナリーに行って、とっても楽しかったので、また4年後も行きたいです。そして将来、チャレンジクルーのスタッフになってみたいです。そのため、これからのスカウト活動でたくさんのバッジを集めたいです。



テーマ アグーナリーでできるようになったこと

奈良県連盟奈良第20団 カブスカウト | 小橋 和之

アグーナリーでできるようになったことは、3つあります。1つめは、場内プログラムの中にあった、アマチュア無線機で音を拾って物を探ることができるようになりました。2つ目は、富士山に登ったことです。富士山に登って雨が降ったりやんだり、レインコートを脱いだり着たりするのが一番大変でした。最後のここで出ようと思ったのは、交流会の時に誰も手を挙げなかったので、自分がやってみようかなって感じになって、それで手を挙げてここに出ました。



テーマ 将来の夢

兵庫連盟尼崎第25団 ボーイスカウト | 炭谷 珠李

僕の夢は、東京オリンピック・パラリンピックの開会式でプラカードを持って行進をすることです。そのためには、ボーイスカウトでいろんなことを頑張りたいと思います。



テーマ

アグーナリーで学んだこと、これから活かしていきたいこと

千葉県連盟松戸第7団 ベンチャースカウト | 佐藤 直樹

僕がアグーナリーで学んだことは、外国人のスカウトたちとコミュニケーションをとることの大切さです。まず、僕は過去2回、アグーナリーに出ています。その時も外国人スカウトが参加していましたが、まだ英語とかもできなくてあまり話しかけられなかったのですが、今回は絶対外国人のスカウトと話したいと思いました。そして今回のアグーナリーで、外国人のスカウトと名刺を交換したりあいさつを交わしたりしました。そして改めて、英語だったり他の外国語を学ぶことの大切さを学びました。これから、まだあと何回アグーナリーに出るかはわかりませんが、その時もまた外国人の人と話したいし、このアグーナリーだけでなく、他のこの先の将来でも英語やその他の外国語を使う機会が増えてくると思うので、また活かしていきたいと思います。ありがとうございました。



テーマ

なぜチャレンジグループとして参加したか

大阪連盟高槻第4団 ローバースカウト | 小馬 加奈子

今回チャレンジグループとして、なぜ、参加しようと思ったのかというと、私は大学で聴覚障がい専門に勉強していて、その勉強したことを活かしたいなと思ってここにきました。残念ながら、あまり聴覚障がいのスカウトとは関わることができませんでしたが、障がいのある子、ない子、障がいのある外国人のスカウトの方、そういった方々で構成された団の方々と交流することができて、共生社会というものについていろいろと考えることができました。今回、こうやってアグーナリーを開いてくれて、ボーイスカウトだけでなく、これからの学びにもすごい役立ったなと思います。ありがとうございました。



大阪連盟大阪第140団 ローバースカウト | 小傳茂 元貴

僕は、アグーナリーというものが開催されていることを今回の大会で初めて知ったんですけど、なぜ参加したかということ今まで障がいのある方たちと関わる機会ってというのはものすごく少ないものでして、一度、こういう機会があるのであれば参加してみても良い体験ができるかもしれないということで参加しました。実際に参加してみるとやはり障がいのある方たちと関わってみると、事前に思っていた想像とはやはり違うところ、困惑したところがかなり大きかったところも様々ありますが、実際に学べることもかなり大きかったと思います。これから、その学んだことを活かして、より良い社会人を目指して頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。



8月16日(火) 閉会式

日本連盟挨拶



運営本部長

膳師 功

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟
理事・日本連盟コミッショナー

こんにちは。

皆さん、いい天気になりましたね。皆の日ごろの行いが良かったからだと思います。

今日、富士山見えましたが、「(はーい)」良かったですね。それでは、振り返って見ましょう。私が今から言うことが、自分で『できた』と思ったら「おー！」と言いましょ。

富士山みたぞー！ 「おー！」

雨にも、霧にも負けずに頑張ったぞ！ 「おー！」

友達できたぞ！ 「おー！」

いっぱい楽しんだぞ！ 「おー！」

今日から、富士を羽ばたこう！ 「おー！」

はい、ありがとうございます。

振り返ってみて皆さんから、大きな声で返事をいただいて、本当に運営本部長として嬉しく思います。

本当に、雨と、霧と、色んな天候の中、皆頑張ってくれたと思っています。

多くの方が、1人のために頑張り、1人がみんなのために頑張った、本当に素晴らしいアグーナリーの大会であったと思います。

先ほども言いましたように、本当にいい天気で、富士山からプレゼントをしていただきましたので、ここからみんなで大きく羽ばたいていきたいと思っています。

最後になりますが、この大会を支えてくださった隊長の皆さん方、スタッフの皆様方、開催をいただきました静岡県連盟に対し、厚く御礼を申し上げまして、閉会にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。



Album



本部スタッフ集合

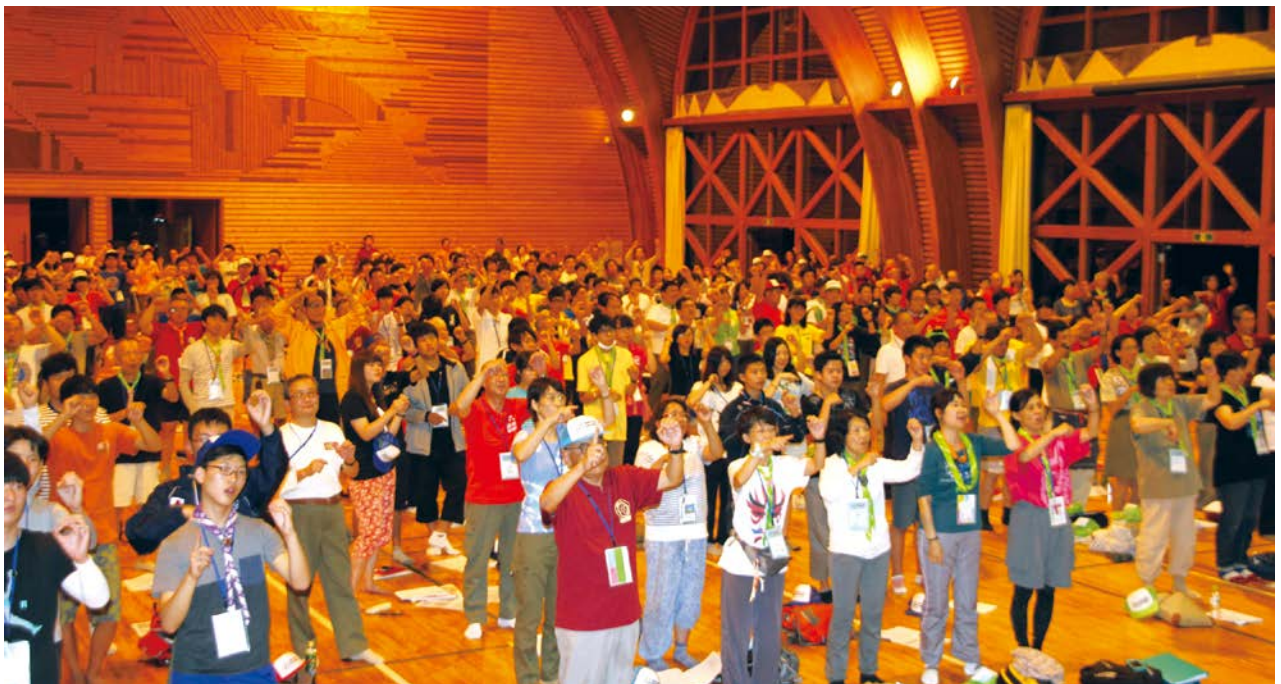


運営本部準備





事前研修



参加隊到着



設営



お成り



開会式



場内プログラム



国際交流のタベ



場内プログラム



フォーラム



場外プログラム



富士の夕べ



閉会式





撤営



We Can!

Smile



I 大会の実施概要

1 開催の趣旨

日本アグーナリーは、4年を周期に、障がいのあるスカウト（特別な配慮を必要とするスカウト）が相集い、海外を含めた多くのスカウトたちとのキャンプ生活を通じて、スカウト仲間としての心の触れ合いと共通体験の中から、明るい希望を持って積極的に社会生活に参加することを目的に開催されてきた。第8回大会までは、障がいのあるスカウトの大会としていたが、第9回大会では、単に障がいのあるスカウトのためだけの大会ではなく、参加するすべてのスカウト・指導者が、期間中の諸活動を通じて共に生きることを学ぶ「学習の場」とし、第10回大会以降は、障がいの有無や老若男女にかかわらず、相互に人格と個性を尊重し支え合う「共生する社会」を実現するという社会のニーズに応えることを目指して開催する。

2 大会の目的

第12回日本アグーナリーは、キャンプを通じて、自信と勇気に満ちた生活態度を身につけ、発達障がいを含めた障がいについての理解を深め、人格と個性を尊重し支え合う社会の実現を目指すことを目的に、「挑戦・交流・共に生きる」のコンセプトに基づき開催する。

3 大会の目標

- (1) 国内外の特別な配慮を必要とする青少年が相集い、自信と勇気に満ちた生活態度を自ら獲得し、社会参加の促進を目指す。
- (2) 障がい者への理解を深め、適切な配慮や実践を行い、障がいの有無や老若男女にかかわらず、相互に人格と個性を尊重し支え合う社会の実現に寄与する。
- (3) 富士山麓の豊かな自然の中でのキャンプ生活を通じて、自然・人・社会との共生の大切さを体感し、持続可能な社会への取り組みに寄与する。

4 コンセプト

「挑戦・交流・共に生きる」のコンセプトを、大会の運営・生活・プログラム等に反映させる。

- ・ 挑 戦：何事にも、自ら進んで、チャレンジして積極的な態度を養う
- ・ 交 流：さまざまな人々との交流を促し、互いに支え合う態度を身につける
- ・ 共に生きる：持続可能な社会や共生社会の実現のために貢献する

5 大会のテーマ

「We Can！ 富士からともにはばたこう」

「We Can！（私たちは、できるのだ）」は世界スカウト機構が、各国スカウト組織の指導者を対象として“健康や障がいについての意識”を高めていくために発行したプログラム資料の名称であり、世界的なボーイスカウト運動の中でも「障がい（者）」に対する意識を考

える標語ともなった。この言葉は、第8回、第9回ではサブテーマとし、第10回では、参加者それぞれが仲間と一緒に何ができるか、何をすべきかを考えるようこの言葉をテーマに設定し、今回も第10回、第11回に引き続き、この言葉をテーマとした。

そして、富士山麓の豊かな自然の中での生活や活動を通しての学びや感動が、それぞれの地域に戻って、更に活かされ、取り組んでいけるようにと「富士からともにはばたこう」をサブテーマとした。

6 主 催

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

7 後 援

文部科学省、厚生労働省、静岡県、静岡県教育委員会、富士市、富士市教育委員会、富士宮市、富士宮市教育委員会

8 協 力

アイコム株式会社、赤城乳業株式会社、アスラテック株式会社、株式会社アテナ、公益財団法人日母おぎゃー献金基金、キヤノン株式会社、富士通株式会社、ミズノ株式会社、株式会社ヤクルト本社、富士宮市消防本部、富士宮警察署

9 開催期間

平成28(2016)年8月12日(金)～8月16日(火)

本部スタッフは8月11日(木・祝)に入場し、16日(火)に退場

10 会 場

静岡県立富士山麓山の村(標高約1,100m)

富士山麓山の村は、静岡県富士宮市の富士山南麓一合目の国有林の中にあり、富士山頂最高峰、剣ヶ峰(3,776m)が北にそびえ、東に愛鷹山、西に南アルプス、南には駿河湾が一望できる場所にある。生活棟は全部で10棟あり、木造でロッジ風の建物になっている。その他にも多目的ホール、野外炊飯棟、浴室棟などがあり、全施設を借り切って利用した。



11 日程および基本日課

	前日 8月11日(木・祝) 研修・準備	第1日 8月12日(金) 集合・開会式	第2日 8月13日(土) プログラム	第3日 8月14日(日) プログラム	第4日 8月15日(月) 交流日	第5日 8月16日(火) 閉会式・解散	
6:00		起床	起床	起床	起床	起床	
7:00		朝食	朝食・朝礼	朝食・朝礼	朝食・朝礼	朝食・朝礼	
8:00							
9:00		本部スタッフ (業務準備) チャレンジクルー (事前研修)	プログラム 1日目 午前の部	信仰奨励	プログラム (場外) 3日目	環境整備	
10:00				プログラム 2日目 午前の部		閉会式	
11:00				参加隊 集合・受付		昼食・休憩	昼食・休憩
12:00							
13:00		本部スタッフ 集合	プログラム 午後の部	プログラム 午後の部	隊の時間		
14:00		本部スタッフ (業務準備)				設 営	
15:00							
16:00	チャレンジクルー (事前研修)	隊の時間	隊の時間	隊の時間			
17:00	夕食	夕食	夕食	富士の夕べ (夕食含む)			
18:00							
19:00	全体会議	開会式	国際交流の夕べ	フォーラム			
20:00	業務別会議 準備作業	連絡会議	連絡会議	連絡会議	連絡会議		
21:00		就 寝	就 寝	就 寝	就 寝		
22:00	消 灯	消 灯	消 灯	消 灯	消 灯		

基本日課

起床 …………… 6:00	午後の活動 …… 13:30～16:00
朝食 …………… 7:30	夕食 …………… 17:00～
国旗掲揚 …… 8:30	国旗降納 …… 18:00
午前の活動 …… 9:00～11:30	夜の活動 …… 19:00～20:00
昼食 …………… 12:00	連絡会議 …… 20:00～21:00
休憩 …………… 13:00～13:30	就寝 …………… 21:00
	消灯 …………… 22:00

12 人数規模

(1) 参加人員 943人

① 参加隊 512人

内訳	国内	424人
	外国	39人 (オーストラリア、マレーシア、シンガポール)
	ガールスカウト	20人
	一般	29人

② 本部スタッフ 431人 (※日本連盟役職員含む)

役務別内訳	大会本部	14人
	インフォメーションセンター	13人
	総合サービスセンター	57人
	生活サービスセンター	85人
	活動サービスセンター	105人
	チャレンジクルーセンター	157人 (内、未成年 112人)
所属別	国内スカウト	389人
	外国スカウト	32人 (アイルランド、台湾、韓国)
	ガールスカウト	2人
	一般	8人

(参考：所属別参加者一覧)

所属	参加隊 (512人)		本部スタッフ	計
	スカウト・児童生徒	指導者・引率者		
国内スカウト	255	169	389	813
外国スカウト	20	19	32	71
ガールスカウト	11	9	2	22
一般	15	14	8	37
計	301	211	431	943

(2) デイビジター 531人 (13日120人、14日117人、15日294人)

※いずれも未就学児および開催地県連盟枠を含む

(3) 大会運営協力者

場内外プログラム、富士の夕べ等でご協力をいただいた。

「富士の夕べ」参加団体

ボーイスカウト静岡県連盟、御殿場小山地区、富士地区、富士宮地区、清水地区、
ボーイスカウト愛知連盟、ボーイスカウト岐阜県連盟、ボーイスカウト三重連盟、
ガールスカウト静岡連盟富士宮地区第21団、第54団、富士地区、御殿場小山区第33団、
第34団、富士市レクリエーション協会、ロブソン、静岡県、富士宮市

(4) 来賓

期間中、多くの来賓、招待者および来訪者があった。

<主な来賓の方々>

大臣・国会議員	義家 弘 介 逢沢 一 郎 塩谷 立 渡辺 周 望月 義 夫	文部科学副大臣 ボーイスカウト振興国会議員連盟会長 ボーイスカウト振興国会議員連盟副会長・事務総長 ボーイスカウト振興国会議員連盟理事 ボーイスカウト振興国会議員連盟会員
文部科学省	有松 育 子 土肥 克 己 倉本 光 正 野角 豪	生涯学習政策局長 青少年教育課長 青少年教育課長補佐 青少年教育課庶務係長
静岡県	川勝 平 太 鈴木 洋 佑 木苗 直 秀 増田 吉 則	静岡県知事 静岡県議会議長 静岡県教育長 静岡県障害者政策課長
富士市	小長井 義 正 影山 正 直 山田 幸 男	富士市長 富士市議会議長 富士市教育長
富士宮市	須藤 秀 忠 村瀬 旬 徳 池谷 眞 徳	富士宮市長 富士宮市議会議長 富士宮市教育長
関連団体	木下 裕 子 渡邊 明 男 齋藤 祐 幸 坪井 辰 哉 岡田 克 明	ガールスカウト静岡県連盟理事 富士市レクリエーション協会会長 静岡県立富士山麓山の村所長 静岡県立富士山麓山の村主事 世界救世教宗家
次回大会 開催地関連	佐川 正 人 笠原 聡 進藤 哲 也 齋藤 公 弥 兼田 芳 宏 荒川 昭 典	福島県教育庁社会教育課参事兼課長 福島県教育庁社会教育課社会教育主事 国立磐梯青少年交流の家所長 国立磐梯青少年交流の家企画指導専門職 猪苗代町教育委員会生涯学習課長 猪苗代町教育委員会生涯学習課社会教育主事

※役職等は大会当時



(5) 県連盟別参加人数内訳

所属	参加隊		本部スタッフ	合計	
	スカウト	指導者			
北海道			5	5	
青森			1	1	
岩手			1	1	
宮城			3	3	
秋田	1	2		3	
山形	1	1		2	
福島			1	1	
茨城			12	12	
栃木			1	1	
群馬	1	1	3	5	
埼玉	6	7	9	22	
千葉	12	14	28	54	
神奈川	53	10	29	92	
山梨			5	5	
東京	22	13	43	78	
福井			3	3	
長野			8	8	
岐阜	5	7	6	18	
静岡	9	2	43	54	
愛知	12	17	57	86	
三重	1	1	1	3	
滋賀	38	15	6	59	
京都	20	9	7	36	
兵庫	10	17	24	51	
奈良	8	7	16	31	
和歌山			5	5	
大阪	6	4	35	45	
鳥取			2	2	
島根	4	2		6	
岡山	4	4		8	
山口	6	14	2	22	
徳島			1	1	
香川	1	1		2	
愛媛	3	9	3	15	
福岡	28	9	12	49	
佐賀	4	3		7	
熊本			1	1	
ガールスカウト	11	9	2	22	
外国	20	19	37	76	
一般	静岡枠	13	12	7	32
	全国枠	2	2	1	5
日本連盟			11	11	
合計	301	211	431	943	

(6) 参加隊人数内訳

所属		スカウト								指導者 (介添者含む)			小 計		合計		
		CS		BS		VS		RS		うち 配慮	男性	女性	うち 配慮	スカウト		指導者	
		男	女	男	女	男	女	男	女								
秋田	秋田第46団	1									2			1	2	3	
山形	寒河江第1団	1								1	1			1	1	2	
群馬	大泉第5団		1							1		1		1	1	2	
埼玉	蓮田第3団	2	1		1					2	2	2		4	4	8	
	秩父第1団		1							1	1	1		1	2	3	
	坂戸第1団					1						1		1	1	2	
千葉	松戸第7団	1		2	1	4		2		8	9	2	2	10	11	21	
	浦安第2団					1				1	2			1	2	3	
	柏第2団			1							1			1	1	2	
神奈川	横浜第88団			2							1			2	1	3	
	横浜第123団					1					1			1	1	2	
	横浜第62団		3	5							2			8	2	10	
	横浜第30団	15	3	13	8			1			1	3		40	4	44	
	横浜第19団			1							1			1	1	2	
	横浜第92団			1							1			1	1	2	
東京	八王子第1団			2	3		1				1	2		6	3	9	
	小金井第1団	8									4	2		8	6	14	
	杉並第11団	1		5	1						1	1		7	2	9	
	八王子第12団			1							1	1		1	2	3	
岐阜	美濃加茂第1団	2			1	1				2	2	3		4	5	9	
	多治見第1団		1							1	1	1		1	2	3	
静岡	静岡第26団			6		3					1	1		9	2	11	
愛知	名古屋第95団			3	1	1	1			1	6	3		6	9	15	
	名古屋第100団	2		2							2	3		4	5	9	
	名古屋第87団						1	1		1	1	2		2	3	5	
三重	鈴鹿第11団				1					1	1			1	1	2	
滋賀	草津第14団	1										2		1	2	3	
	大津第15団			1						1	1	2		1	3	4	
	大津第20・21団	2	1	7	3						1	1		13	2	15	
	蒲生第2団	8		4							1	1		12	2	14	
	東近江第2団											1			1	1	
	犬上第1団			1	1							1			2	1	3
	甲賀第1団			4	1							1	1		5	2	7
	彦根第1団	1		2								1			3	1	4
京都	栗東第8団			1							1			1	1	2	
	向日第1団			6	3	1	1			2	3	1		11	4	15	
	京都第23団			3	4	1				1	3			8	3	11	
	京都第82団			1							1	2		1	2	3	
兵庫	尼崎第25団		1	1	1		1	2	2	9	8	5	2	8	13	21	
	神戸第77団			1							2	1		1	3	4	
	神戸第60団							1		1	1			1	1	2	
奈良	奈良第8団			1							1			1	1	2	
	奈良第20団	4		1	2					1	3	3		7	6	13	
大阪	吹田第23団	3		1	1					2		3		5	3	8	
	摂津第1団					1						1		1	1	2	
島根	宍道第1団・松江第1団				3	1				1	2			4	2	6	
岡山	浅口第2団	2		2						1	1	3		4	4	8	
山口	県派遣団			1		1		4		6	10	4	4	6	14	20	
香川	高松第6団			1						1	1			1	1	2	
愛媛	四国中央第2団	1								1		1		1	1	2	
	松山第36団							2		2	5	3	5	2	8	10	
福岡	北九州第37・50団	3		2		2	2	3			5			12	5	17	
	筑紫第2団											1			1	1	
	福岡第19団					4	1	1			1			6	1	7	
	北九州第46団				1							2		1	2	3	
佐賀	那珂川(発団準備)	1	1		1	5		1						9		9	
	佐賀第1団	1			1		1				1			3	1	4	
	佐賀第3団				1							1		1	1	2	
一般	有田第1団											1			1	1	
	ガールスカウト				8		3			1		9	3	11	9	20	
一般	外国			12	8						11	8		20	19	39	
	静岡枠			9	4					8	6	6		13	12	25	
一般	全国枠					1	1			2		2		2	2	4	
	合計	60	13	97	56	28	12	18	2	51	114	83	16	301	211	512	

(7)本部スタッフ人数内訳

県連盟	大会本部	インフォメーションセンター	総合サービスセンター	生活サービスセンター	活動サービスセンター	チャレンジクルーセンター		合計
						成人	未成年	
北海道				2	2		1	5
青森					1			1
岩手				1				1
宮城			1	1	1			3
福島			1					1
茨城			3		4		5	12
栃木					1			1
群馬					2	1		3
埼玉			2	2	4		1	9
千葉			3	10	6	2	7	28
神奈川		1	3	5	3	9	8	29
山梨			1		1		3	5
東京		2	6	4	28	1	2	43
福井			1		2			3
長野				3		1	4	8
岐阜				2	2	1	1	6
静岡	1	2	17	2	11	8	2	43
愛知		1	2	15	13	8	18	57
三重			1					1
滋賀			1	1	3		1	6
京都	1	1	3			1	1	7
兵庫			2	3	7	2	10	24
奈良				9	2		5	16
和歌山			2		3			5
大阪	1		3	10	4	5	12	35
鳥取				1		1		2
山口					1	1		2
徳島						1		1
愛媛			1	2				3
福岡			2	1	3		6	12
熊本							1	1
ガールスカウト						1	1	2
外国				11		3	23	37
一般	静岡枠	6	1					7
	全国枠		1					1
日本連盟	11							11
合計	14	13	57	85	105	45	112	431

(8) 配慮を必要とする参加者数

※参加確定申込書で申告のあった情報に基づき集計

※食物アレルギーや花粉症は除く

配慮内容	区分	人数
身体障害者手帳1級・ペースメーカー	参加隊指導者	1
腰椎圧迫骨折	参加隊指導者	1
発達障がい	参加隊スカウト	8
	参加隊スカウト（外国）	1
知的障がい	参加隊スカウト	19
	参加隊一般子供	3
	参加隊スタッフ	10
	本部スタッフ	1
視覚障がい	参加隊一般子供	1
	参加隊スカウト（外国）	2
聴覚障がい	参加隊指導者（外国）	1
	本部スタッフ	1
難読症・識字障がい	参加隊スカウト（外国）	1
自閉症	参加隊スカウト	5
	参加隊スカウト（外国）	1
	参加隊一般子供	2
	参加隊指導者	1
ダウン症	参加隊スカウト	5
	参加隊スカウト（外国）	1
	参加隊一般子供	3
	参加隊指導者	1
足に障がい	参加隊スカウト	1
起立性調節障がい回復中	参加隊スカウト	2
ハンディキャップあり	参加隊スカウト	1
精神発達遅滞・障がい	参加隊スカウト	2
筋ジストロフィー（車椅子）	参加隊スカウト	1
手足指欠損	参加隊スカウト	1
脳性麻痺（車椅子）	参加隊スカウト	1
	参加隊スカウト（外国）	3
	本部スタッフ	1
階段乗降苦手	参加隊スカウト	1
重度心身障がい（車椅子）	参加隊スカウト	1
	参加隊一般子供	1

てんかん	参加隊スカウト	1
人工肛門装具	本部スタッフ (VS)	1
一型糖尿病	本部スタッフ (VS)	2
起立性低血圧	本部スタッフ (VS)	1
全般性強直間代発作	本部スタッフ (外国RS)	1
抗がん剤治療後遺症による手足のしびれ	本部スタッフ	1
循環器投薬治療中	本部スタッフ	1
難聴	本部スタッフ	1
脊柱管狭窄症	本部スタッフ	1
日常生活全般における見通しの指示が必要	本部スタッフ	1
右股関節人工骨頭置換手術 (4級)	本部スタッフ	1
メニエール病	本部スタッフ	1
高次脳機能障がい (右手足マヒ)	本部スタッフ	1
四肢不自由、車椅子	本部スタッフ	1
障がい (車いす使用)	本部スタッフ	1
透析	本部スタッフ	1
計		102

(参考) 年代別配慮を必要とする参加者数

年代	参加隊			本部スタッフ		計
	BS・GS	外国連盟	一般	BS・GS	外国連盟	
指導者	14	1		14		29
スカウト (子供)	49	9	10	4	1	73
内 訳	(CS)	12	2			14
	(BS)	13	1	5		19
	(VS)	11	4	3		18
	(RS)	13	4		1	18
小計	63	10	10	18	1	102
計	83			19		
合計	102					

13 大会役員

(1) 名誉役員

大会役務	氏名	役職
顧問	逢 沢 一 郎	BS振興国会議員連盟会長
顧問	中曾根 弘 文	BS振興国会議員連盟副会長
顧問	河 村 建 夫	BS振興国会議員連盟副会長
顧問	塩 谷 立	BS振興国会議員連盟副会長・事務総長
顧問	小 坂 憲 次	BS振興国会議員連盟副会長
顧問	井 上 義 久	BS振興国会議員連盟副会長
顧問	高 木 義 明	BS振興国会議員連盟副会長
顧問	松 本 剛 明	BS振興国会議員連盟副会長
顧問	渡 辺 周	BS振興国会議員連盟理事（静岡）
顧問	上 川 陽 子	BS振興国会議員連盟（静岡）
顧問	宮 澤 博 行	BS振興国会議員連盟（静岡）
顧問	望 月 義 夫	BS振興国会議員連盟（静岡）
顧問	岩 井 茂 樹	BS振興国会議員連盟（静岡）

(2) 大会本部役員

大会役務	氏名	役職
大会長	奥 島 孝 康	日本連盟理事長
副大会長	松 平 頼 武	日本連盟副理事長
副大会長	水 野 正 人	日本連盟副理事長
運営本部長	膳 師 功	日本連盟理事・日本連盟コミッショナー
副運営本部長	仲 田 始	静岡県連盟副理事長
副運営本部長	津 田 繁	日本連盟指導者養成委員

(3) センター長

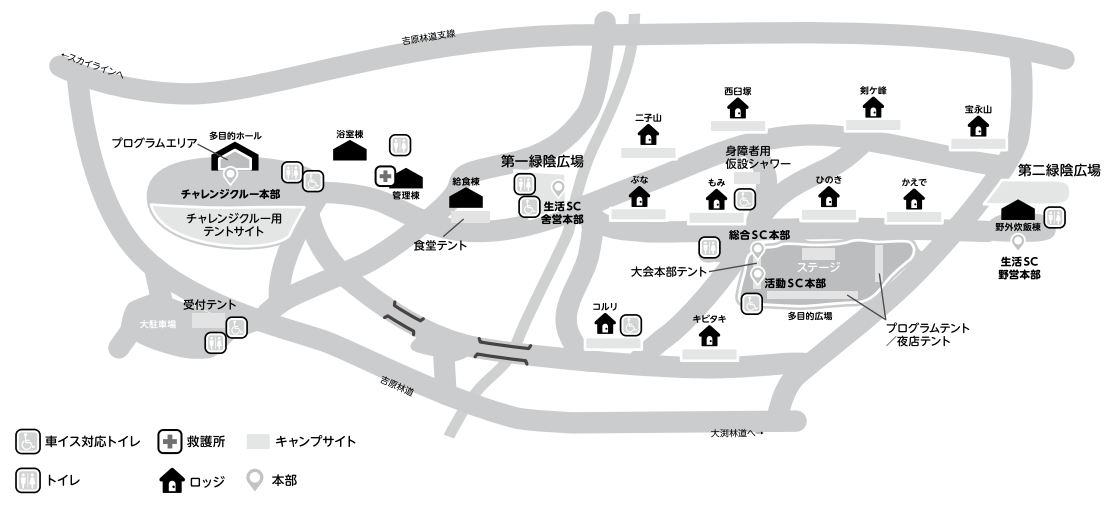
大会役務	氏名	役職
インフォメーションセンター長	櫻 井 康 博	12NA実行委員（東京連盟）
総合サービスセンター長	村 松 武 博	12NA実行委員（静岡県連盟）
生活サービスセンター長	西 田 俊 幸	12NA実行委員（大阪連盟）
活動サービスセンター長	村 山 大 介	12NA実行委員（東京連盟）
チャレンジクルーセンター長	安 藤 正 紀	12NA実行委員（神奈川連盟）

14 大会のプログラム

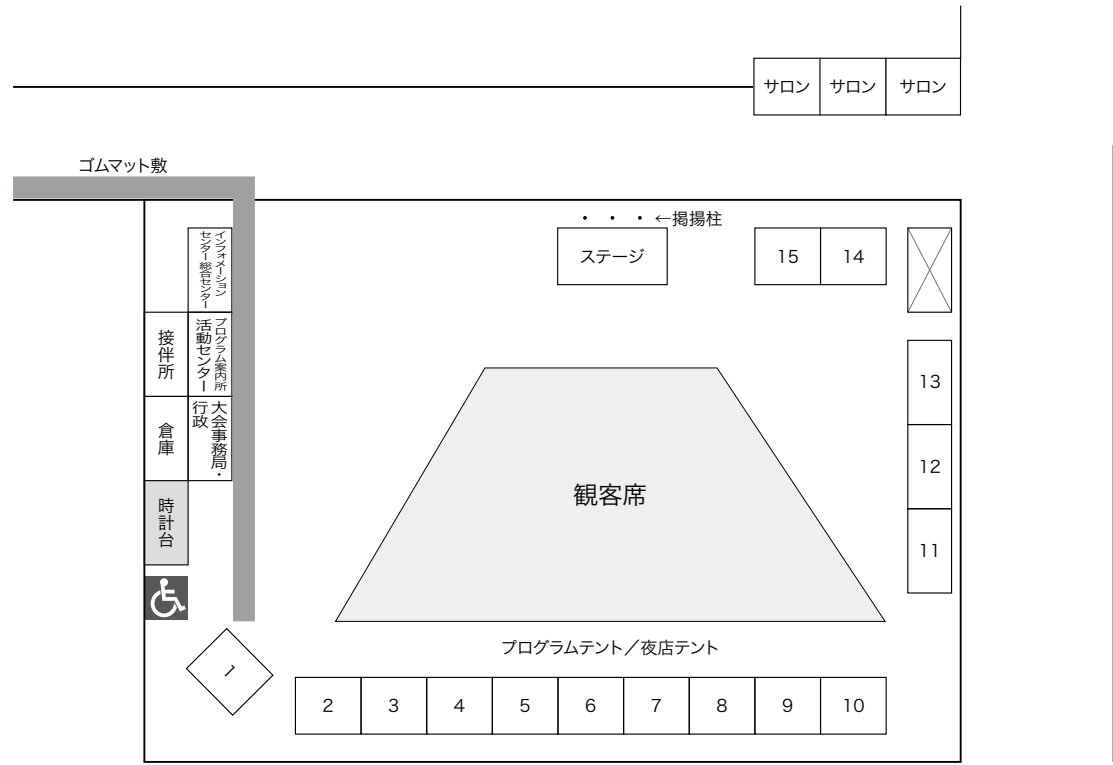
項目	プログラム	8/12	8/13		8/14			8/15		8/16	
		(金)	(土)		(日)			(月)		(火)	
		夜	AM	PM	夜	AM	PM	夜	日中	夜	AM
全体行事	みんなで参加	開会式	○								
		国際交流の夕べ				○					
		富士の夕べ								○	
		閉会式									○
デイリープログラム (隊長認証)	自由交歓プログラム	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	スカウトOWN	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	奉仕プログラム	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
フォーラム	アグーナリーフォーラム						○				
場内プログラム	1	スキルオラマ					○				
	2	レザークラフト		○	○		○	○			
	3	パソコン教室とフォトコンテスト		○	○		○	○			
	4	アイロンプリント		○	○		○	○			
	5	日本の伝統・文化		○	○		○	○			
	6	すその水餃子		○	○		○	○			
	7	アマチュア無線		○	○		○	○			
	8	キャップハンディ		○	○		○	○			
	9	レスキュー & ボリス		○	○		○	○			
	10	ポイントラリー		○	○		○	○			
	11	ハガキを作ろう		○	○		○	○			
	12	展示コーナー・落書きコーナー		○	○		○	○			
	13	みじかなロボット			○		○	○			
	14	星空さんぽ(雨天のため中止)							○		
	15	木工教室		○	○		○	○			
	16	つり橋にチャレンジ			○		○	○			
	17	ヤクルトおなか元気教室		○	○		○	○			
	18	みんなで作る大きなアート		○	○		○	○			
	19	カローリング		○	○		○	○			
	20	Let's cooking		○			○				
場外プログラム	A	富士山のおへそ回りを歩いてみよう!							○		
	B	第13回世界ジャンボリーの地めぐりと牧場体験							○		
	C	富士山、やっほー!と叫ぼうと大自然の中で遊ぼう							○		
	D	世界遺産と盲導犬に出会う旅							○		
	E	世界遺産に出会う旅～ステキな絵馬に願いごとを～							○		
	F	「子どもの国」で元気に遊ぼう!							○		
	G	キラキラ宝もの作りと高速道路の秘密を見てみよう							○		

15 大会会場図

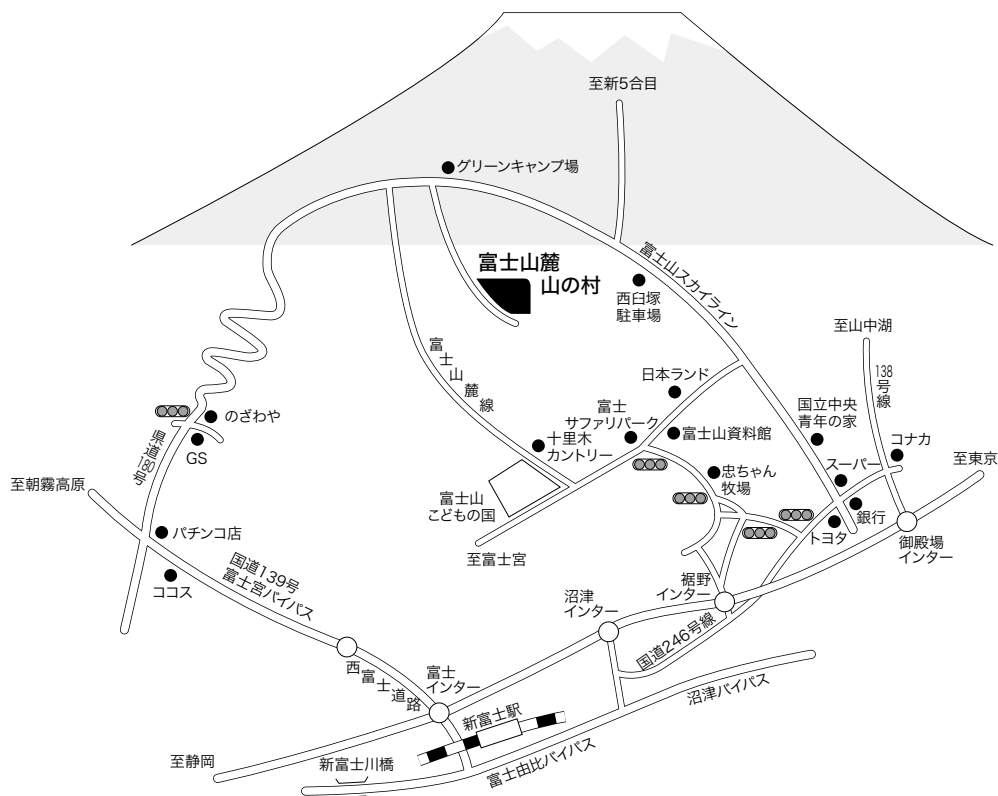
(1) 全体図



(2) アリーナ地域



(3) 会場までの交通案内



●アクセス等について

① 駐車場

会場内の駐車場スペースが狭いため、場内駐車場は、業務用車両および障がいのある参加者車両のための留め置きとし、本部スタッフおよび参加者の車両は、場外に確保した駐車場への留め置きとした。場外駐車場として、会場ゲートから富士山寄りに約2km先にある静岡県が管理する西白塚駐車場の一部（約200台分）を使用した。

② シャトルバス

会場ゲートから受付までの進入路が約2kmあるため、路線バスで来場する参加者のために、大会で手配したシャトルバスを運行し、参加者の利便性を図った。集散時および解散時は、路線バスの増便とあわせてシャトルバスも増便した。

また、場外の西白塚駐車場に留め置きした参加者用シャトルバスも運行した。

③ 交通管制

会場ゲートから場内駐車場までの約2kmにおよぶ進入路は道幅が狭く、片側通行しかできないため、GPS信号を設置し、交通管制を敷いて一方通行とした。

16 生活

(1) 宿泊

① 舎営

舎営を希望する参加隊および業務上または身体的事由等のある一部の本部スタッフに、10棟のロッジの宿泊部屋を割り当てた。

②野営

野営を希望する参加隊には、各ロッジ前の広場および第1緑陰広場を割り当てた。

また、本部スタッフの野营地として、第1および第2緑陰広場、ロッジ前広場、多目的ホール裏等を割り当て、集会用天幕を展張貸与（1張に6人想定）した。なお、チャレンジクーラーは交流広場を宿营地とし、エコテント（1張に3人想定）を貸与した。

(2) 食事

食堂を仮設し、参加隊および本部スタッフとも、期間中を通じて朝食および夕食を食堂での給食（8月15日の「富士の夕べ」の夕食のみ弁当食を配給）とした。昼食は弁当食を配給とした。

<基本献立>

	8/12 (金) 集合・設営 開会式	8/13 (土) 場内プログラム 国際交流の夕べ	8/14 (日) 場外プログラム	8/15 (月) 場内プログラム 富士の夕べ	8/16 (火) 閉会式 撤営・解散
朝食		給食	給食	給食	給食
		コッペパン イチゴ&マーガリン アンサンブルエッグ マカロニサラダ 千切りキャベツ コンソメスープ バナナ オレンジジュース	ごはん 照り焼きチキン スパゲッティサラダ 千切りキャベツ 味噌汁 きゅうり漬け かつおふりかけ	コッペパン はちみつ&マーガリン ハンバーグ スクランブルエッグ 水餃子 バナナ リンゴジュース	ごはん 塩鮭 ウインナー マカロニサラダ 千切りキャベツ 味噌汁 かつおふりかけ しば漬け
昼食		エビフライ弁当 ・お茶	おにぎり弁当 ・お茶	とんかつ& ハンバーグ弁当・お茶	幕の内弁当・お茶
		焼きそば 牛肉コロッケ ひじき煮 ミニゼリー ジャンボ餃子	白米・ふりかけ マカロニソテー チキンロールフライ 卵ロール ミートソースかけ 金平ごぼう ミニゼリー	梅おにぎり 炊き込みおにぎり わかめおにぎり エビフライ 鶏から揚げ チリソースボール 竹の子かか煮 スパソテー オレンジ、漬物	ゆかりおにぎり 鮭わかめおにぎり 梅おにぎり チキン竜田揚げ 依野菜コロッケ ごぼうの胡麻酢和 漬物
夕食	給食	給食	給食	弁当	
	ごはん カレー 福神漬け ポテトサラダ 千切りキャベツ お浸し ブチパフェ	ごはん 甘エビのかき揚げ ねぎ 黒はんぺん揚げ 肉団子 シーフードマリネ 千切りキャベツ 味噌汁 オレンジゼリー	ごはん 静岡おでん だし粉 アジフライ ポテトサラダ 千切りキャベツ ブドウゼリー	おこわ 三島コロッケ 焼肉 千切りキャベツ シューマイ お浸し さくら漬け お茶	

(3) 入浴

参加隊および本部スタッフごとに利用時間を定め、既設の大浴場を利用した。また車椅子用の仮設シャワーをバリアフリー宿泊棟（もみ棟）裏に1棟設置した。

(4) トイレ

既設トイレの他に、仮設トイレ（全て洋式）を第1緑陰広場に11棟（うち、車椅子用1棟）、多目的広場に車椅子用1棟、交流広場に3棟、大駐車場に車椅子用1棟、ゲートに1棟設置した。また、バリアフリーの宿泊棟2棟のトイレをウォシュレットトイレに入れ替えた。

(5) 水道

野营地での洗面等のために流し台を交流広場に2台（蛇口6口）、第1緑陰広場に2台（蛇口6口）を設置した。

17 大会のシンボルマーク

ホームページ等を通じて広く一般に募集し、全国から27点の作品の応募があり、12NA実行委員会で選考を行った結果、入選1点、佳作1点を選定した。

入選：ペンネーム 山口 類 (一般)
(大阪在住のグラフィックデザイナー)

佳作：中嶋広志 岐阜県連盟美濃加茂第1団団委員

「日本一の山である富士山と参加する若人の笑顔を表現した」作品が、大会のシンボルにふさわしいとのことから入選とした。

入選作品については、これまで同様、大会シンボルマークとして、大会参加章（ワッペン）や大会記念品等のデザインとして採用した他、大会の印刷物等にも使用した。



18 大会の準備

事前の準備は、平成27年度に実行委員会（膳師功委員長）を3回、平成28年度に3回開催し、同委員会のもとに4つの専門部会を編成して各部会とも会議を4回開催し、具体的な諸準備を進めた。

また、平成28年4月に「現地説明会」を開催し、参加予定の隊長等への説明と意見収集を行い準備にあたった。また、事後には次回大会に向けた評価を行うための実行委員会を1回開催した。

19 会期前後・会期中の動き

【8月11日（木・祝）／曇】 スタッフ集合、研修会

大会前日である11日は、全国より約400人のスタッフが集合し、大会の準備を進めた他、未成年のローバースカウトおよびベンチャースカウトで編成するチャレンジクルーを対象とした障がい等への理解を促進する研修会とスタッフ全員を対象とした研修会を実施した。



【8月12日（金）／霧・曇】 集合、開会式

全国より参加隊が集合し、設営を行い、開会式を行った。また、開会式は秋篠宮殿下、眞子内親王殿下にご臨席いただき、殿下よりお言葉を賜り、またキャンプサイトのご視察や代表スカウトとご懇談いただいた。



【8月13日（土）／晴のち雨】 場内プログラム、国際交流の夕べ

参加スカウトは、場内20種類のプログラムを体験。夕刻からの「国際交流の夕べ」は雨天のため、多目的広場から多目的ホールへ会場を変更し、実施した。「国際交流の夕べ」では、6の国と地域からの参加スカウトのパフォーマンスの他、ゲストパフォーマーによる歌等が行われた。



【8月14日（日）／雨・霧】 場内プログラム、フォーラム

13日と同様に場内プログラムを体験した他、各隊の代表スカウトが集まり、日ごろの活動や大会等について部門にわかれて話し合うフォーラムを実施した。



【8月15日（月）／雨・霧】 場外プログラム、富士の夕べ

場外プログラムとして7つのコースにわかれて、それぞれ体験等を行った他、静岡県連盟主催の「富士の夕べ」を開催した。出店や縁日など地元企業の他、多くの団体等に協力いただき、雨天にもかかわらず、会場は大いに盛り上がった。



【8月16日（火）／晴】 閉会式

雨の多い大会の中で、唯一富士山が顔を覗かせた。閉会式では、様々なプログラムの表彰を行った他、全員で大会ソングを合唱。感動のうちの閉会となった。



20 関係機関の協力

(1) 静岡県

準備から事業実施に至るまで教育委員会社会教育課に支援・協力していただいた。会場利用に関しては、富士山麓山の村を管轄している教育委員会高校教育課に便宜を図っていただき、効果的な利用が可能となった。

また、秋篠宮殿下、眞子内親王殿下のお成りにあたって、社会教育課を中心に調整を進められ、静岡県警による円滑な警備体制が講じられた。

(2) 富士山麓山の村

施設の貸切利用や予約、会場利用に関しても、十二分な便宜を図っていただき、当初予定人員から大幅な増員となったにもかかわらず、機能的かつ効率的な会場設計ができ、各施設を有効に利用することができた。

21 レンタル品

(1) レンタカー

人員輸送用としてキャラバン2台、車椅子対応の福祉車両2台、資材運搬用として商用バン5台、パワーゲート付きトラック1台の計10台を総合サービスセンター輸送班管理のもと業務に使用した。

(2) 資機材

①通信

会場がドコモ以外は圏外となるため、ドコモ回線の携帯電話およびWiFi、トランシーバーを配分して使用した。

携帯電話33台

(内訳) 正副運営本部長 3台

インフォメーションセンター 3台

総合サービスセンター 9台 (広報、本部、ゲート、駐車場等)

生活サービスセンター 6台 (本部、救護、給食、野営・舎営本部)

活動サービスセンター 5台 (本部、多目的ホール、炊事棟)

チャレンジクルーセンター 5台、大会事務局2台

WiFi 4台 (大会事務局、広報、管理棟、多目的広場)

トランシーバー 30台 (協力：アイコム株式会社)

②その他資機材

- ・ゲートから駐車場までの片側通行の進入路が約2kmあるため、GPS信号機において交通管制を行った。
- ・会場内の通行路は砂利で傾斜があるため、一部に人工芝を敷き、車椅子での移動労力の軽減を図った。

22 一般参加者

今大会では、静岡県教育委員会の協力のもと、県内の一般青少年へ参加促進していただき、静岡県連盟により一般参加者の募集を行った。日本連盟では、県外の一般参加者の募集を行い、県内外を合わせて計37人の参加があった。

今回は従来と異なり、一般の参加者も加盟員と全く同じ日程（参加隊は4泊5日、本部スタッフは5泊6日）での参加とした。

また、一般参加グループへの支援は、インフォメーションセンターがその任にあたり、スタッフを配置した。なお、一般参加グループには、識別帽および大会ネッカチーフを配布し、識別がしやすいように配慮した。

23 総括（膳師 功 12NA実行委員会委員長／日本連盟コミッショナー）

第12回日本アグーナリーは、静岡・富士山麓山の村で、秋篠宮殿下、眞子内親王殿下をお迎えしての開会式を行い、大会が始まりました。その後の4泊5日、参加者たちは貴重な体験を経て、喜びのうちに、無事、閉会することができました。

これも、文部科学省をはじめ、開催地である静岡県、関係各市、静岡県連盟、そして多くの関係指導者、スタッフの皆様方のご尽力の賜物と深く感謝いたしております。

今回は、加盟員以外の方々にも多く参加していただき、友情を育むすばらしい大会となりました。期間中は、あいにくの霧と小雨に見舞われましたが、そのおかげで苦境にも打ち勝つ精神が醸成され、参加者たちはテーマの「We Can！」を合言葉に各プログラムにチャレンジしたように感じました。富士山も最後には、皆さんの努力と優しさに対し、微笑みをもって「みんなよく頑張ったね」と顔を見せてくれました。

ドリームアワード受賞時のクシャクシャとした笑顔、閉会式後に人垣アーチをくぐり抜けていく顔は、満足感と感動に溢れていました。

皆さん、参加してくれてありがとう。元気をありがとう。思いやりをありがとう。涙をありがとう。

次回も元気に福島県猪苗代で再びお会いしましょう！



8月12日（金） さあ、はじめよう！

1. 設営

参加隊がぞくぞくと入場し、設営が始まった。

秋篠宮殿下、眞子内親王殿下のお成りを賜り、西田生活サービスセンター長の先導のもと、第1緑陰広場において参加隊の設営をご視察され、スカウトたちとともにテント設営も体験いただき、スカウトにお声がけいただいた。

その後、多目的ホールにて、代表スカウトと親しく御懇談を賜った。

2. 開会式 19:00～20:00 多目的広場特設ステージ

- | | |
|----|---------------------------------|
| 次第 | 1. オープニング |
| | 2. 開式の言葉 |
| | 3. 国旗掲揚・国歌斉唱 |
| | 4. 連盟旗、大会旗、ガールスカウト旗、外国旗（全参加国）掲揚 |
| | 5. 連盟歌斉唱 |
| | 6. 隊旗入場 |
| | 7. 開会宣言 |
| | 8. 大会長挨拶 |
| | 9. 秋篠宮殿下のお言葉 |
| | 10. 来賓紹介 |
| | 11. 来賓挨拶 |
| | 静岡県知事 川勝 平太（ボーイスカウト静岡県連盟連盟長） |
| | 文部科学副大臣 義家 弘介 |
| | ボーイスカウト振興国会議員連盟会長 逢沢 一郎 |
| | 12. 大会歌「かがやけアグーナリー」合唱 |
| | 13. 閉式の言葉 |

静岡県連盟静岡第26団ベンチャー隊 杉浦遼真スカウトの開会宣言により、第12回日本アグーナリーが開幕した。

大会旗や参加国旗、そして、ステージは参加隊旗により鮮やかに染まり、静岡県連盟静岡第26団トランペット隊の演奏が開会式を盛り上げた。

秋篠宮殿下、眞子内親王殿下に御臨席いただき、秋篠宮殿下からはスカウトへのおことばを頂戴した。

また、義家文部科学副大臣、川勝静岡県知事、逢沢ボーイスカウト振興国会議員連盟会長をはじめ、多くの来賓にご出席いただいた。

8月13日（土）チャレンジ！

1. 場内プログラム 9：00～11：30、13：30～16：00

場内では各種プログラムが行われた。スカウトたちはドリームアワードの獲得に向け様々なプログラムへの挑戦が始まった。場内プログラムは14日（日）も展開した。

プログラム名	参加者				会場
	13日		14日		
	スカウト	指導者	スカウト	指導者	
スキルオ・ラマ	－	－	37	22	多目的広場ステージ
レザークラフト	144	60	19	11	多目的広場
パソコン教室とフォトコンテスト	60	29	47	23	多目的ホール
アイロンプリント	84	37	54	25	多目的広場
日本の伝統文化	102	36	34	22	多目的広場
すその水餃子	125	58	38	22	多目的広場
アマチュア無線	54	9	44	17	多目的広場
キャップハンディ	67	17	49	25	多目的広場
レスキュー&ポリス	115	57	27	14	多目的広場
ポイントラリー	38	21	60	18	会場全域
はがきを作ろう	56	21	41	29	多目的広場
展示コーナー・落書きコーナー	43	44	39	15	多目的広場周辺
みぢかなロボット	60	31	72	49	多目的ホール
星空さんぽ	－	－	0	0	(雨天のため中止)
木工教室	29	20	51	24	管理棟木工室
つり橋にチャレンジ	56	19	48	25	多目的広場
ヤクルトおなか元気教室	40	22	50	31	多目的ホール
みんなで作る大きなアート	75	33	63	36	多目的ホール
カロリーリング	123	54	53	35	多目的ホール
Let's Cooking	28	23	49	26	野外炊事棟

2. 国際交流の夕べ 19：00～20：00

各参加国それぞれの伝統的な歌や踊りなどを披露し合う「国際交流の夕べ」が開催された。当初、多目的広場のステージを予定していたが、雨が降り続いたため、多目的ホールでの開催に切り替え、実施した。

8月14日（日）たすけあい

1. 宗教儀礼、スカウトズオウン 9:00～10:00

スカウトの信仰心を育むため、宗教儀礼ないしスカウトズオウンを実施した。スカウトズオウンは隊で決めた時間にそれぞれ実施し、宗教儀礼はいくつかの教宗派が、それぞれの教宗派単位で集まりを持ち、実施した。



2. 場内プログラム 9:00～11:30、13:30～16:00

13日（土）に引き続き、場内プログラムを展開した（参加人数等は13日の項で一覧表に記載）。多くの参加者は翌日の場外プログラムを残してドリームアワードの課題をほぼ終了した。



3. フォーラム 19:00～20:00

フォーラムは多目的ホールで行った。各参加隊の代表スカウトがスカウト活動のことやアグーナリーのことを、カブスカウト部門、ボーイスカウト部門、チャレンジクルー部門、指導者・保護者部門のグループに分かれて話し合った。



8月15日（月） 発見！

1. 場外プログラム

この日の日中は、7つのコースに分かれて場外プログラムに参加した。雨および乗車するバスの故障などがあり、出発時に多少時間の乱れはあったが、それぞれ予定通りのプログラムを実施して夕方会場に戻った。

No.	プログラム名	内 容	参加数	バス台数
A	富士山のおへそ回りを歩いてみよう！	・富士山5合目より宝永山遊歩道散策	91人	2台
B	第13回世界ジャンボリーの地めぐりと牧場体験	・「白糸の滝」見学後、第13回世界ジャンボリー開催記念碑見学 ・「朝霧メイプルファーム」にて酪農場見学・体験	45人	1台
C	富士山、やっほー！と叫ぼうと大自然の中で遊ぼう	・富士山ビューポイント「柚野の里山」 ・「新稲子川温泉ユー・トリオ」川遊び、ますのつかみ取り	47人	1台
D	世界遺産と盲導犬に出会う旅	・白糸の滝や人穴神社巡り ・富士ハーネスにて盲導犬を知り、ふれあう	39人	1台
E	世界遺産に出会う旅 ～素敵なお絵馬に願いごとを～	・白糸の滝、村山浅間神社、山宮浅間神社、富士宮浅間大社の富士山世界遺産構成地を巡り、「富士宮浅間大社」での説明・清流の見学	41人	1台
F	「子どもの国」で元気に遊ぼう！	・「富士山子どもの国」で遊ぶ ・水プロではイカダやカヌー、草原プロでは、アスレチックや動物と触れ合い、オリエンテーリング、工作	130人	3台
G	キラキラ宝もの作りと 高速道路の秘密を見てみよう	・「富士山かぐや姫ミュージアム」にて万華鏡作りなどの体験 ・「NEXCO中日本コミュニケーション・プラザ富士」にて高速道路資料館の見学	56人	2台

2. ドリームアワード授与式

場外プログラムからの帰着時、多目的ホールの入り口付近にて、膳師運営本部長／日本連盟コミッショナーほか大会役員らによるドリームアワードの授与式が行われた。参加スカウトは課題をクリアしたことを示す各プログラムのスタンプや隊長のサインを集めたドリームパスポートを提示して、それぞれアワードを首にかけてもらい、弥栄のエールを受けた。

3. 富士の夕べ

静岡県連盟静岡第26団のトランペット隊によるオープニングの演奏によりボーイスカウト静岡県連盟主催の富士の夕べがスタートした。ポップコーン、蹄鉄投げ、焼きマッシュマロ、ふき玉、揚げせんべい、ストラックアウト、割り箸鉄砲、竹笛とブンブンゴマ、富士宮焼きそば、紙飛行機とシャボン玉遊び、魚釣り、落書きせんべい、輪投げ、飲み物コーナー、ところてん、マンカラゲーム、キムスゲーム、スーパーボールすくい、射的、金魚すくい、綿菓子、伊勢うどん、チーフリング作りなどの夜店の他、行政からは静岡県や富士宮市の観光PR、呈茶の出展もあり、祭りを大いに盛り上げた。

ステージでは、スンプレンジャー（ご当地戦隊）ショーや太鼓のショーが催され、サロン会場では、ゆるキャラショーも行われた。櫓のまわりでは、法被や浴衣を着た参加者が盆踊りを踊り、祭りが最高潮に達した。

8月16日（火） さようなら また会おう！

閉会式 10:00～11:00 多目的広場特設ステージ

- 次第
1. スカウトアピール（フォーラムの部門ごとの発表）
 2. プログラム表彰式
 3. 外国参加隊への感謝の盾贈呈
 4. （開式）代表スカウト2名による「別れの言葉」
 5. 来賓紹介
 6. 運営本部長挨拶
 7. 大会旗引継ぎ
 8. 合唱「かがやけアグーナリー」
 9. 外国旗、諸旗、日本国旗降納
 10. 閉会の言葉
 11. 友情の輪～弥栄三唱

雨続きだった今大会の最終日、閉会式会場ではようやく雲が切れて富士山が望めた。

閉会式会場である多目的広場のメインステージ脇には、場内プログラム「みんなで作る大きなアート」で多くの参加者が力を合わせて一緒に描いた5メートル四方の巨大な大会ロゴ布幕が掲示され、閉会式の雰囲気が高まった。

式の冒頭では、14日に行ったフォーラムの部門ごとに発表した。

続いて、以下の3つの場内プログラムについて、優秀グループ・個人の表彰が行われた。

- カローリング
1位 埼玉県連盟蒲生第2団
2位 東京連盟・小金井第1団
3位 神奈川連盟・横浜第92団
- ポイントラリー
1位 京都連盟向日第1団
2位 滋賀連盟大津第20団
3位 神奈川連盟横浜第30団
- フォトコンテスト
1位 京都連盟北星第82団 倉貫洋人
2位 京都連盟向日第1団 川本純恋
3位 神奈川連盟横浜第30団 大山泰生



表彰に続いての「別れの言葉」は、神奈川連盟横浜第30団 矢島銀太カブスカウト、大山泰生ベンチャースカウトによって行われた。

富士市レクリエーション協会会長 渡邊昭夫様、静岡県立富士山麓山の村所長 齋藤佑幸様をはじめとする来賓は、会場の入口付近に並んだ来賓席にてご紹介した。

また、膳師運営本部長挨拶に続いて、12NA開催地の静岡県連盟コミッショナー 戸田正明氏より、膳師運営本部長を経て、次回13NAの開催予定地である福島連盟理事長 増子恵二氏へ、大会旗の伝達を行った。日本アグナリーは近年、閉会時に次回開催地が決まっていることがなく、初めてのハンドオーバー（受け渡し）セレモニーとなった。

諸旗降納後は、参加者全員で3重の輪を作り、津田副運営本部長の発声により、弥栄を三唱して大会を終えた。

閉会式会場からの退出においては、全スタッフによるアーチの退場路をスカウト全員が1人ずつ通っていった。スタッフ・スカウト全員が、大会の感激と相互への感謝を確かめ合い、「次回また会おう」と約束した。



インフォメーションセンター

1. 役割と目的

I インフォメーション機能

10NAで新設され、11NAから総合SCとの連携を図りながら、

- ①参加者の抱く全ての質問や相談、不安や不満に対して即時・適切に支援すること
 - ②特別な配慮を要するスカウトを導く指導者に情報提供を行い、障がい児スカウティングの推進に寄与すること
 - ③参加者の交流を支援すること
- を目的に、インフォメーションセンターを運営する。

II 一般参加者支援機能

一般参加された、障がい児、家族、高校生や大学生を参加団と同様に組織化し、NAを楽しめるよう支援すること。なお一般参加については、10NAで試行されているが、12NAで初めて全日程の参加、そして参加希望者数も多かったため、組織的に対応する必要が生じ、インフォメーションセンターの用務に加えることになった。

2. 準備

第2回実行委員会において、総合SCと連携し、インフォメーションセンターを立ち上げることが決まり、センター長が第2回、第3回総合SCの会議に出席し、連携の在り方を協議した。

また第6回実行委員会において一般参加者支援機能を付与することが確認された。

大会直前の7月20日にはインフォメーションセンター正副センター長が集まり、事前の打ち合わせも行った。

3. 運営要項

I インフォメーション機能

(1) 開設時間 7:00～20:00 (①7:00～13:00 ②13:00～20:00)

(2) 業務担当者

- ①統括：櫻井実行委員（インフォメーションセンター長）
- ②補佐：宮崎副センター長
- ③総合SC総務班が運営にあたる。常時2人以上の配置とする。
- ④各SC副センター長が情報提供などにあたるためインフォメーションセンターテントに常駐することを求める。
- ⑤必要な場合は各SC本部に応援を求め、運営スタッフは少ないがサービスの質を維持する。

(3) 業務方法

- ①交代しながら2人以上の運営スタッフで対応する。
- ②インフォメーションセンター長不在の折は、必要に応じ携帯で呼び出す。
- ③各副センター長が不在の折は、必要に応じ各SC本部へ応援を求める。
- ④インフォメーションボードの管理を行う。各SCへ活用の依頼をする。
- ⑤サロン（常時お茶が飲め、休めたり交流できる場所）の活用。（お茶は生活SCに依頼、湯飲みなどは総合SCに依頼）
- ⑥業務日誌の記録

(4) その他

- モットー：Say Yes！ 出来る事は何でもします。
『即時性と機動力』『最新の情報と適切な判断』
スローガン：全ての来場者に笑顔で！！ 『笑顔と温かさ』

II 一般参加者支援機能

一般参加者（募集人数：静岡50人、全国20人、最大合計70人）の申し込み状況に応じた対応を行うことを確認した。実際の参加者（本部スタッフ8人は除く）は29人（うち、配慮を要する青少年は10人）であった。

(1) 運営・支援体制

- 本部：仲田副運営本部長
チーフマネージャー：櫻井インフォメーションセンター長
隊長（サブマネージャー）：柴田副センター長
本部スタッフ4人

(2) 実際の参加方法の確認

- ①参加日程：全日程
- ②識別や安全を考慮し、帽子およびネッカチーフを配布する
- ③プログラムは参加者と同じ（活動SC）
- ④食事は参加者と同じ、生活は1か所に集める（生活SC）
- ⑤未加盟だが参加団と共に行動を希望しているケースもあり

(3) プログラム

- ①集団意識の醸成
活動SCへ依頼済み（13日午前名刺作り、14日午後リング作り）
日本連盟への依頼事項（ネッカチーフ、ネームペンを各自に支給、サイン集めゲーム）
- ②NAを楽しめるように
交流、ソング、仲間意識、友達作り、アワード、場外プロ
- ③チャレンジ内容は各参加者の状況や希望をうけて対応する。
- ④菓子、ジュースなどを事前に購入（総額2万円程度）する。

4. 実施状況

毎晩、正副センター長と本部スタッフによる会議を設け、振り返りと翌日の打ち合わせを行った。特に一般参加者個々に対する支援や配慮の共通理解に努めた。14日からは参加スタッフ5人も加わった。

I インフォメーション機能

11日にセンターを設置し、インフォメーション業務は12日午後から始める。またインフォメーションボードは予定を変更し1か所設置した。

<問い合わせ内容>

- 8月12日
- ・アグーナリーの意味は
 - ・シャトルバスの時刻
 - ・開会式のリハーサルの服装
 - ・殿下接見について 他
- 13日
- ・帰路の宅配便の扱い
 - ・「参加隊指導者の手引き」に調整中という記載内容について
 - ・落とし物
 - ・場内プログラムの場所 他
- 14日
- ・宗教儀礼に関して
 - ・帰路の交通手段について
 - ・落とし物
 - ・プログラム実施場所 他
- 15日
- ・「離れるとアラーム」の貸与
 - ・宅配便伝票配布
 - ・デイビジターの過ごし方や食事等
 - ・奉仕プログラムの幹旋 他

II 一般参加者支援機能

8月11日 組織づくり

センター長、副センター長2人、本部スタッフ4人、そして一般参加者5人（高校生1人、大学生4人）をスタッフとする。

チャレンジクルーは役務の内容から参加を求めないことに変更する。

12日 参加予定10組のうち8組来場。オリエンテーション、場内散策、仲間作り
開会式 他

*会場になれることや、キャンプ生活、設営（1組は野営、他は舎営）を支援した。

13日 2組の参加があり全員集合する。朝礼、場内プログラム参加、奉仕プログラム、国際交流の夕べ（自由参加） 他

*休憩時に1人の参加者が行方不明となり、すぐに捜索態勢を設けたところ発見できた。全般的に引率の保護者に疲れがみられる。

14日 朝礼、場内プログラム参加、他

*一般参加者と保護者、スタッフの信頼関係が段々醸成されチームワークが良好となる。参加者はプログラムに積極的に参加するなどNAを楽しめている。シンガポールとの交流会実施。夜中1人大発作、その後の容態から入院、そのまま退村となる。

15日 朝礼、場外プログラム、アワード全員授与、富士の夕べ

*個々が選択したコースで場外プログラムに参加。スタッフの引率はしない

ことを原則とした。一般参加者スタッフには、交流の場を用意した。

16日 朝礼、解散式、閉会式

*自信をつけた参加者と保護者、貴重な体験・研修となった参加スタッフ、やり遂げた奉仕スタッフ、それぞれ立場は異なるが充実感と達成感、仲間意識などを胸に解散式を行った。別れを惜しむ姿が印象的であった。

5. 評価と課題（センター長 櫻井康博）

I インフォメーション機能

参加者を支える機能は果たすことができた。また会場の環境から、心配されていた行方不明になる参加者への対応も、2件事案が起こったが事前に確認されていたマニュアルにそって対応ができ、すぐに発見することができた。

IINAに比べコンパクトにまとまった会場の配置であったため、総合SCや各SCの応援を最少限にして運営することができた。

II 一般参加者支援機能

初めての取り組みであったが無事に終わることができた。参加者の満足度等の事後調査に取り組めておらず、今後の在り方については検討が必要に思われる。

- ①7月に行われた副実行委員長、正副センター長、日連担当者での打ち合わせはとても有効であった。
- ②4人の本部スタッフが、経験そして指導力に優れており、隊長（副センター長）を中心に組織的に運営がなされ、無事に順調に取り組めた。今後も継続する場合は、人材を事前に確保する必要がある。
- ③一般参加者の姿から満足度は高いことが推測される。
- ④一般参加スタッフである5人の高校生・大学生の、参加にあたっての目的や課題ははっきりしていた。大会期間中、プログラムなどの活動や本部スタッフとのやり取りを通して、その目的や課題にせまることができていたようだ。BS活動に関心をもて新たに加入し取り組みたいとの声も聞かれた。



総合サービスセンター

1. 準備状況

次の通り専門部会を開催し、事前の打ち合わせを行った。

第1回 平成27年12月19日（土）13：30～16：00 静岡県青少年会館
センター長他委員7人

主な協議事項 ▶ 部会の編成と役割、業務について他

第2回 平成28年4月2日（土）10：30～16：00 富士山麓山の村
センター長他委員8人 参席1人

主な協議事項 ▶ 業務運営要領、現地説明会について他

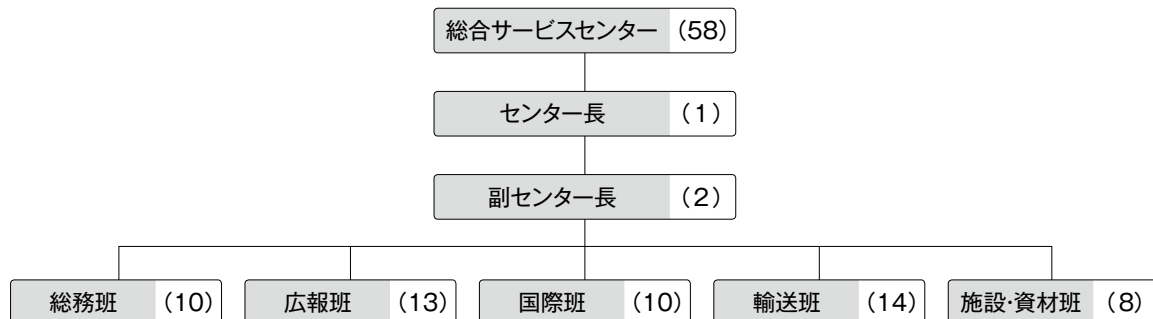
第3回 平成28年6月12日（土）13：00～17：00 静岡県青少年会館
センター長他委員7人 参席2人

主な協議事項 ▶ インフォメーションセンターと本部テントについて、
各班の人員配置について他

第4回 平成28年7月9日（土）13：00～17：00 静岡県青少年会館
センター長他委員8人

主な協議事項 ▶ 人員配置、車両関係について他

2. 組織



3. 各班の報告

(総務班)

(1) 参加者受付と奉仕者受付

- 参加者受付業務については、事前に班員には業務内容と流れを説明し、参加隊代表者からの提出物（到着報告書と健康調査書）受領、参加隊リストのチェック、駐車場留め置き票の記入依頼、宿舍受付場所への案内（会場図渡す）等を行った。12日は参加隊到着が重なって混雑もみられたが、スムーズに行えた。
- 参加隊の備品を多く積んできた車が会場内に入れないことで、当事者から苦情を受けたが、ルールに則して輸送部のレンタカーに積み替えてもらって会場に持ち込んだ。
- 宅急便で荷物がまだ届かないという問い合わせがあったが、本人と配送業者とで連

絡を取ってもらい、あとで荷物はあったと報告を受けた。

- ・事前リストにはない奉仕スタッフが数人いたが日本連盟職員に聞いて配属は確認できた。
- ・参加者受付は翌日以降の遅参があり、初日に到着していない等の問い合わせがあった（一般参加）が、受付ごとにチェックしてインフォメーションセンターに連絡し、すべての参加が確認できた。

(2) 来賓受付、報道受付（12日開会式）

- ・特別来賓以外の来賓者受付を来賓リストで行い、駐車場留め置き票へ記入いただき、会場への案内図を渡し案内を口頭で行った。（来賓者IDカードは本人に送付済み）
- ・この日の報道受付は、別の場所で県庁職員による直接対応だったため、こちらでは車両留め置き票記入と会場への案内を行った。

(3) 来賓接待業務

- ・多目的広場サロンでお茶接待（ペットボトルお茶、紙コップ）に女性2人で、12日～14日までの午前午後行った。
- ・12日のみ、管理棟で来賓夕食時のお茶接待に女性2人と、報道受付で女性1人がメディアキット（資料）配布を行った。
- ・受付担当が、偏らないよう（皆が経験できるよう）総務班を二つのグループに分けて、接待係を含め交代で行うことにした。

(4) デイビジター受付（13日～15日富士の夕べ）

- ・デイビジターバッジを着けているか受付で確認し、車両留め置き票へ記入してもらい、会場への案内図を渡した。
- ・デイビジターはインターネットで基本予約済のため追加は無し。
「何かやってるから来た」方はお断りし、ただし障がい者の方は入場OKとした。
- ・日ごとのデイビジター来場者数と留め置き車両の台数をカウントして報告した。

(5) その他の業務

- ・14日に一般参加者が体調不良で救急搬送となった。富士宮市立病院まで総務班スタッフが付き添って、病院への引継ぎと父親への引継ぎを行い、戻った。
- ・15日は参加者が場外プログラムへ出かけるため、大駐車場が大型バスの出入りと、当日デイビジター来場者の車と富士の夕べ担当者の車で混雑するため、総務班は受付業務以外に手の空いた人が輸送班の手伝い（交通整理）を行った。今までで一番天候が悪く、霧と雨で富士の夕べが心配された。
- ・富士の夕べ担当者の車は多目的広場裏の林道へ留め置きとなり、受付で別の地図を渡して案内をした。
- ・16日撤営日はヤマト宅急便受付が設置されることとなり、発送伝票を預かった。
- ・シャトルバス発車時刻表を総務に置いた。（問い合わせが多いため輸送で対応）
- ・16日撤営日は輸送の手伝いで、一部受付係を置いて交通整理にあたった。
- ・総務班の業務に「日報の回収」があったが、日本連盟からはフォーマットを印刷して渡すと聞いていたが、気が付いたときはすでに3日目位で、日報の用紙は自分で冊子からコピーし「申し訳ないが…」と総合サービス各班には書いてもらった。この業務は総合サービスだけの話か各部全体の話か、事前に説明されず、何のための日報なのかわからない。
- ・管理棟の使用管理、多目的広場のサロンの夜の使用管理が、総務班の業務と言われた

が、実際は問い合わせ無しだった。

- その他細かい問い合わせ等あったが、その都度関係する班につなぎ大きなトラブルにはならなかった。

(広報班)

- 夜のプログラム取材後の新聞作成だったが、作業を工夫し、早く終われる日もあった。
- 備品、準備物など、事前に要望を出していたのに当日反映されていないものがあり、事前に連絡をもらえれば、こちらで対応ができたので連絡をしてほしかった。
- 新聞配付に際して、ロッジ、野営とも、宿泊隊や人数が資料と違っており、当日聞き取り調査をしても、最後まで正確に把握できなかった。(参加者が、勝手に移動している事が原因と考えられた)
- 場外プログラムでの取材者の同行に対しての要望を依頼していたが、センター間の連携がスムーズでなかったように思われた。
- 広報班の役割であった①報道記者対応②HPおよびSNS掲載 の2つの業務は、ほとんど対応できなかった。報道記者対応は、日本連盟の広報部門で対応したものと思われるが、次回の大会では、当初より明確にすべきと考える。
- アグーナリーニュースの英語版発行の要望が多くあり、今回は1号および2号の一部の発行を試みた。今回程度の発行であれば、国際班の協力が得られれば、なんとか可能であるが、全号の英語版発行には、英語が堪能な専任メンバーが必要である。

(国際班)

【活動内容と成果】

国際班は、外国参加隊（オーストラリア・シンガポール・マレーシアの3か国）の世話係として活動。

3人ごとの3チームを編成して各国の専任チームとし、食事・プログラム（場内・場外・全体）の全てに同行しサポートを行った。

常時行動を共にすることで、細かな要望にその場で判断し迅速に対応することができた。また、ベテランと若手を組み合わせたチーム構成にしたことで、チーム内での役割分担もスムーズに行われ連携の取れたチーム活動ができていた。

外国参加隊は、場内・場外プログラムや全体プログラム、日本のスカウトや一般参加者との交流を十分に楽しんだようで、「参加して楽しかった。素晴らしいホスピタリティに感謝します。」とのコメントを各国指導者からいただいた。また、事故・怪我・病気の発生もなく全員が元気に会場を退出することができ、12NAはほぼ成功であったと言える。

【提案事項】

(1) 大会運営ノウハウの継承・過去の反省が活用できていないことに対して

- NAに外国隊が参加する意義は大きく、今後も積極的に参加を促すべきである。外国隊の継続的な参加に備え、毎回の大会関連資料の英文ファイルを作成し保管すべき。ベースの資料を一度作成すれば以降は部分的な修正だけで対応できるので、英文資料を提供するための作業負荷はさほど大きくはならないはずである。
- 外国隊との連絡・事前準備は、距離的・時間的な制約や言葉の問題で手間がかかるので、事務局だけで対応するのは難しいと思われる。国際班のような対応部署をで

きる限り早く編成し、英文資料の作成（翻訳）・外国隊指導者との交信・他部署の準備作業面の外国隊への配慮状況チェックなどを担当してもらうべきであろう。これらの事前準備を正確に行うことが、国際班の大会本番での業務円滑化・負担軽減となるため、こうした事前準備への協力を得ることは可能。

(2) 外国隊への配慮が欠如していることに対して

- ・国際班のメンバーを早期にアサインし、英文資料（手引き・ドリームパスポート・プログラム内容など）の作成を分担して作業してもらい、事前に外国隊に送付する。事前申込も期限を設け、期限遅れには対応できない旨を明確に伝えるべき。（ルールと条件などは是非々をはっきりと事前に伝えておく）
- ・国際班は、大会前日もしくは前々日に会場入りし、①場外プログラムの外国隊参加ルート of 事前下見 ②会場内施設の英語表示看板の設置（業者の看板ではなく、コピー機で印刷した紙をラミネート加工して掲示する程度でも十分）等を行う。
- ・開会式等の式典では、観光地のガイドが利用しているワイヤレスのイヤホンガイドを使用して同時通訳を行う。（完全な通訳でなくても、全く英語での説明がない現状より親切な対応）
- ・広報班には、英会話ではなく英文を書ける能力に長けたスタッフを配属すべき。このスタッフは会場に常駐する必要はなく、ネット環境を整備すれば自宅で英文を作成し送信することで対応出来る。
- ・参加隊以外の外国奉仕隊についても、最低1人の通訳担当（外国隊の世話係）を配置すべき。

(3) 外国隊との交流について

- ・「隊の時間」を、参加隊と外国隊の交流の時間に利用すべきだったと反省。食堂やインフォメーションの掲示板に、各外国隊が希望する交流の日時を掲示し、参加隊からの申し込みを受け付けるように工夫すべきであった。そうすれば、外国隊との交流の機会をもっと増やすことができた。また、ワッペンなどの交換も食事時に集中し、外国隊が食事をゆっくり取れない場面が散見された。「隊の時間」や「国際交流の夕べ」の一部にワッペンなどを交換する時間帯を設けるのも一案である。

(4) アグーナリーとしての配慮（障がい者に優しい環境作り）について

- ・障がいのある参加者に配慮した式典のあり方・内容を工夫し短時間な式典にすべき。
- ・パンの昼食が何故なかったのか？ジャンボリー式に、朝食時にパン、ジュース、フルーツを持ち帰るようにすれば、食堂への行き来は2回で済む。移動は必要最低限に留めるべき。

(輸送班)

場所的にもっと人員が欲しかったと考える。駐車場の管理と出入りの管理だけしかできず、業務車両の管理や運転等の業務を他の班員にお願いしたり、交通整理などにもお手伝いいただく事になってしまい迷惑をお掛けした。

その中でも全体的には事故もなくうまく運営できたと考える。

(1) 参加隊の人員輸送に関すること

- ・グリーンキャンプ場に着いた参加隊・スタッフの輸送が少し手間取ってしまい、待たせることがしばしば起きてしまった。
- ・帰りの臨時便を増便したが、申し込み予定より少なくバスが余った。

- (2) 駐車場の管理と運営に関すること
 - ・駐車場の見取り図を作成して駐車スペースを決めて、夜間は留め置きのないようにしたのが良く、うまく運営できた。
- (3) 交通誘導に関すること
 - ・取り付け道路はすれ違いができない為、当初より困難が予想されたので信号機を設置したが、設定が思うようにできず、待ち時間が長くなってしまった。携帯をゲートと駐車場入口に持たせ信号との併用を行い管理したことでスムーズになった。
 - ・駐車場内の誘導は大変良くできたと考える。
- (4) シャトルバス、プログラムバスの配車に関すること
 - ・プログラムバスの出入りに関しては1台故障車が出て少し混乱したがうまくできた。
 - ・シャトルバスの運航は時間を決めていたが、信号機などの関係から、バスが繋がってしまったりして少しうまくいかなかった。
- (5) 業務用車両（本部車両を含む）の手配・調整・連携に関すること
 - ・車両の管理・運営については福祉車両を含めて良くできた。

（施設・資材班）

（1）施設資材班業務

- ・事前の資材の把握については、残念ながら最終リスト（完全な物ではなかった）が手元に届いたのは出発の前日となり、事前に業務の段取りができなかった。
- ・8月10日に先々発で入り、備品払い出し準備を実施したのは良かった。
- ・レンタカーを「払い出し箱」としてSCごとにパッキングしたのが効率的だった。
- ・業者からのレンタル品が物資集積テントになく、プログラムエリアに置かれていたので一気に回収したが、業者⇒各SC貸出は直接払い出し、残り品は最初から物資集積テントに置いておく運用をするべきだった。机や椅子も同様であった。
- ・日本連盟備品、レンタル備品、購入備品について、事前の整理ができていなかったことにより、各SCが要望した備品の貸し出しができなかったのは、申し訳なかった。
- ・撤収、備品回収もレンタカーを貸し出し、時間指定をしたが、現場の都合で持参してきたものを全てそのまま受け入れた。運用は概ねうまくできた。
- ・備品不足が多々あったので、事務局担当職員の確認のうえで追加購入するルールを作り、運用したのが良かった。特に経費管理につながった。
- ・貸出票通りに回収を依頼したが、バラバラ混在していたので確認に苦労した。
- ・借り手側（各SC）での施設資材係を設定していただき受け側の一括管理をお願いしたが、実際には情報と実態の確認さえできない状況であった。
- ・構築関係では、車椅子用トイレのスロープ改修があったが、専門職メンバーの力で完結できた。
- ・給油作業が業者ドラム缶への給油、班員詰め替え、班員移送給油作業だったので、手間が掛かったり、漏れがありバンの車内が軽油臭くなった。
- ・電気、水道等の修理等はなく、山の村側で対応していただいた部分も多かった。

（2）施設資材班組織運用

全体の前段取りができなかったため、班員の業務分担が事前にできず迷惑をかけた。

- (3) 人数的には適切だったかと思われる。点検や清掃等があったら不足だったと思う。

(4) 施設資材班その他

できれば、ジャンボリー同様、電気・水・ガス・危険物の有資格者、構築作業（主として木工）に通じた方（専門家）を、最低1人は配置した方が良いと考えた。特にコンプライアンスの点で、今後は必須になると考える。

4. 総括（センター長 村松 武博）

アグーナリーという場で、障がいのある方々と共に生活できたことは、新鮮な体験であり、障がいということに対して新しい認識が芽生えた。これからのスカウト活動に必ず有意義な体験であったと思う。

このアグーナリーに限ったことではないが、事前準備と情報の不足した中で、スタッフの情熱と努力のおかげにより、何とか任務を終えられた。皆さんに感謝申し上げる。

- ・施設・資材や外国隊への対応などは、以前の経験からのノウハウが示されれば、もっと効率的な仕事ができたと考える。今回の資料を、次回アグーナリーに活用できるよう、しっかり管理していただきたい。
- ・各センター間、日本連盟それぞれの情報の共有が大切であると感じた。
- ・これだけの外国からの参加者がある場合、国際班でなく、国際サービスセンターとして独立の部署を設けてもよかったのではないか。
- ・気象と地形はどうにもならないことであるが、収容能力以上の人数とそれに伴う車両の交通管制に苦労した。
- ・会場への集散方法については、事前に参加者、奉仕者とも正確な情報を収集する必要がある。
- ・夏のこの時期、いろいろな行事があり、奉仕者の確保も大変である。

アグーナリーだけではないが、大会に参加する奉仕者について、例えば以下のような区分の検討も今後必要ではないか。

大会準備奉仕	大会が始まる前に、会場に入り大会に必要な備品・運営の為の準備を行う（担当する部署に関係なく奉仕するメンバー）今回の施設資材班など
大会期間中の奉仕	主に大会の運営（プログラム班・救護班・配給など）行うスタッフ。
大会終了後の奉仕	大会終了後の片づけを行うスタッフ（借用した施設・場所を元に戻して返却する）



生活サービスセンター

1. 事前準備状況

①専門部会

- 第1回専門部会 平成28年12月12日（土） 静岡県立富士山麓山の村
 - ・ 専門部会の体制や編成内容、業務の役割、部会の準備内容、会場利用計画、生活場所について協議をした。
 - ・ 出席者：6人
- 第2回専門部会 平成28年3月5日（土）大阪 難波別院南御堂 会議室
 - ・ 第一回に引き続き、会場利用計画、運営要領、安全対策、献立等について協議をした。
 - ・ 出席者：7人
- 第3回専門部会 平成28年6月11日～12日 静岡県立富士山麓山の村
 - ・ 各班の準備状況・調整事項の確認、今後の予程と準備内容について協議した。
 - ・ 食堂利用方法、献立内容の調整、野営場所についての調整、「生活サービスセンター業務運営要領」と「参加隊指導者の手引き」の読み合わせを実施した。
 - ・ 出席者：8人
- 第4回専門部会 平成28年7月18日（土）大阪 難波別院南御堂 会議室
 - ・ 大会の準備状況の確認、各班の準備状況・調整事項の確認、各班に必要な備品の最終確認を実施した。また各参加者が快適に生活するために必要な要件（トイレ、ゴミ収集、入浴方法等）について協議した。
 - ・ 出席者：7人

②各班会議の実施

- 班別作業部会 平成28年6月4日（土）大阪 難波別院南御堂 会議室
 - ・ 各班の準備状況、各班の役割分担の確認、各班の進捗状況の確認、生活SC業務運営要項（案）に協議した。
 - ・ 出席者：13人
- この会議とは別に、舎営管理班、野営管理班については、参加者の宿泊場所として、テント設営場所や宿泊部屋の確認をするために、別途合同での班会議を7月後半に実施した。

③生活サービスセンター業務運営要項の作成

生活サービスセンター要員の方々への業務内容の詳細をお伝えできるように、組織図および担当業務の具体的な内容を記載した要項書を作成した。

[目 的]

第12回日本アグーナリー生活サービスセンターは、「12NA大会本部の組織と業務」に定められた業務を実施するため、大会本部各センターおよびチャレンジクルーと連携して、本大会の円滑なる運営を行うことを目的とする。また、参加者にとって有意義な大会となるよう、参加者への必要な援助を行う。

【業務】

- ①大会の野営に関すること。
- ②大会の舎営に関すること。
- ③大会の救護衛生に関すること。
- ④大会会場の生活施設、設備の運営に関すること。
- ⑤本部食堂の運営と配給に関すること。
- ⑥その他

【組織】

担当	役割概要	人数
生活サービスセンター長	全般総括	1人
// 副センター長	野営、舎営担当	1人
// 副センター長	食堂、救護、庶務担当	1人
庶務&救護班	庶務班：センター事務管理全般、事務処理全般。入浴時間割作成、拾得物、紛失物の管理等に関すること全般。	7人
	救護班：参加者の健康管理の指導に関すること。保健室の設置、管理、運用に関すること。患者の受入、連絡等に関すること。	9人 ^{※1}
食堂班	本部食堂の企画立案、運用、調整に関すること。本部食堂の管理、衛生に関すること全般。	20人+ 11人 ^{※2}
舎営管理班	舎営生活指導、宿泊施設利用に関すること全般	16人
野営管理班	野営生活指導、管理、警備、宿泊地各施設の管理、衛生に関すること全般	17人

※1 表は支援いただいた医師を含む延べ人員総数。
上記奉仕者以外にチャレンジクルー（前半・後半ごとに1日あたり約6人）の応援を得て業務を遂行した。
このチャレンジクルーの支援は、救いとなった。

※2 アイルランドローバースカウトの参加
上記食堂班には、アイルランドローバースカウト11人に最初から最後まで奉仕参加いただいたことで食堂での業務が活気づき、明るく元気な食堂運営ができ、充実した班運営となった。



2. 期間中の実施状況

①庶務&救護班

(ア)庶務班

- センター事務管理全般（安全管理を含む）
- 事務処理全般（センター内日報の管理を含む）に関すること
- 配布物、資料の管理に関すること
- 諸会議の招集事務全般に関すること
- センター業務の案内に関すること

- センター業務の変更、決定事項の伝達に関すること
- 初日の受け入れ時の生活受付、舎営・野営の振り分けに関すること
- 風呂の時間割の作成に関すること
- 落とし物、捜し物の対応に関すること
- その他各班業務に属さないこと

(イ) 救護班

- 参加者の健康管理の指導に関すること
- 救護所の設置・管理・運用に関すること
- 患者の受け入れ、連絡等に関すること
- 参加者の健康調査書の管理に関すること
- 患者統計作成に関すること
- 部外病院、衛生支援機関との連絡、調整に関すること
- 救急車両の運用に関すること

② 食堂班

- 本部食堂の献立および利用方法の企画立案・運用・調整に関すること
- 本部食堂利用者への食券の発行、給食に関すること
- 本部食堂での衛生・管理に関すること
- 食材業者との連絡調整に関すること
- 臨時食・非常食の手配と配給に関すること
- プログラム時における弁当食の手配に関すること

③ 舎営管理班

- 舎営生活の指導に関すること
- 宿泊施設の利用計画と割り当てに関すること
- 宿泊施設を含む周辺の警備および火災・盗難防止に関すること
- 宿泊棟内各施設の衛生管理・指導に関すること

④ 野営管理班

- 野営生活の指導（指導者・スカウトの規律と安全）に関すること
- 宿営地域の管理・警備および火災・盗難防止に関すること
- 迷子処理に関すること
- 宿泊地各施設の管理・衛生指導に関すること
- 会場全域の塵芥処理、分別に関すること
- テントや野営用具（マーキー、ベット）等の利用計画と管理・割り当てに関すること
- 宿営地の利用計画ならびに管理棟との連絡調整に関すること
- 会場全域の野外トイレ消耗品の管理・調達に関すること

3. 各班の活動報告

①庶務&救護班

(ア)庶務班

●受け入れ

生活サービスセンター奉仕スタッフの受け入れを行った。

参加者の受け入れを行い、舎営・野営への案内を行った。また入浴希望時間の受け付けを行い、食堂利用時間案内および食券、各班からの注意事項などを配布した。

生活SC奉仕要員の受入れ状況

(単位：人数)

	8/11	8/12	8/13	8/14	8/15	8/16
正副センター長	3	3	3	3	3	3
庶務&救護班	15	16	16	16	16	16
食堂班	20+11	20+11	20+11	20+11	19+11	19+11
舎営管理班	6	6	7	7	7	7
野営管理班	16	16	16	16	16	16
合計	17	17	17	17	17	17

受付業務としては、各班に対応いただき、毎日の班長会議において確認を実施した。班の業務日誌に毎日の奉仕者の人数を報告いただくことで確認を行った。

食堂班の+11人はアイルランドローバースカウトである。

●チャレンジクルーの受け入れ

チャレンジクルーは、以下の表のように、日単位で8～9人の受け入れがあった。各班の業務内容の一部を担当いただき、それぞれのプロジェクト目標の達成に向けて、支援を行った。各班ではチャレンジクルーの支援により、楽しく役務遂行できたように思う。

チャレンジクルーの受け入れ状況

(単位：人数)

	8/12		8/13		8/14	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後
庶務班						2
救護班		2	2		2	
舎営管理班	3		3		2	
野営管理班	3		3		3	

●安全管理（安全担当、副部長）

安全管理について、生活サービスセンター各部署との連絡調整を行った。

安全管理に対する基本的な考え方とし、①安全はすべてに優先する②絶えず基本を確認する③中途半端な意思表示はしないをスタッフに示し、各班に安全係を配置し、野営参加隊・舎営参加隊には安全管理者および安全係の選任をお願いした。

●生活支援

ゴミステーションのゴミ分別および回収をし、ゴミ集積場所へ運んだ。

参加者の入浴時間の受け付け、割り振りを行い、舎営管理班の協力のもと浴室の点検・清掃を行った。仮設トイレのサニタリーボックスの設置や浴室・トイレの案内

掲示をした。

生活サービスセンターのインフォメーションセンターとしての業務を行った。
特に、遺失物・拾得物の受け付け、遺失物の管理、連絡・引き渡しを行った。

遺失物届出集計

No.	物 件	点数
1	IDカード（食券・名刺等含む）	9
2	チーフリング	7
3	財布	3
4	ボールペン	3
5	スマートフォン	2
6	ヘッドライト	2
7	水筒	2
8	タオル	2
9	その他	7
合計		37

上記のうち、11件は、後に見つかったという報告を受けた。また、8件は拾得物として届けがあり、遺失者に返還できた。

拾得物集計

No.	物 件	点数
1	チーフリング	25
2	ボールペン	10
3	IDカード（食券・名刺等含む）	6
4	キーホルダー・ストラップ	6
5	ワッペン・ブッチ	5
6	懐中電灯・ヘッドライト	4
7	扇子・うちわ	4
8	スマートフォン	3
9	時計	3
10	水筒	3
11	プレスレット	3
12	帽子（キャップ）	2
13	ハットのベルト	2
14	スニーカー	2
15	めがね	2
16	その他（浴室以外）	29
17	その他（浴室）	45
合計		154

上記のうち、持ち主に返還できたものは68点（受領書数）。記名のあるものは、名簿を参考に持ち主の宿泊地を探し連絡をとり返還をした。浴室での拾得物はほとんど持ち主が現れず、記名がないため返還できなかった。

● インフォメーションセンター支援

今回は、大会本部の各センターが近くに配備されたことから副センター長が分担し

て支援を実施した。アリーナ入口付近にインフォメーションセンターを設置したことから、気軽に立ち寄られ話し合いのできるコミュニティーセンター風の運営ができたのではと思っている。今後も全体を掌握した担当者が常駐して、参加者からの問いかけに答える体制が出来れば、インフォメーションセンターとしては最適と考える。

● 奉仕プログラムの集計

奉仕プログラムについては、それぞれの部署で簡単に奉仕できる業務を整理してプログラムとして提供した。実際に受けた奉仕プログラムに参加した人数は下表の通りであった。一般参加者の方もこのプログラムに参加をされ、食堂での奉仕プログラムを担当されている。

奉仕プログラムの参加状況表

(単位：参加者数)

		8/12		8/13		8/14		合計
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	
食堂	食券回収/残飯分別			22 ^{*1}		9 (2隊)		31
舎営	宿泊棟周辺の掃除					9 (4隊)		9
野営	野外トイレ清掃		2 (1隊)			6 (1隊)		8
庶務	ゴミステーション整備					5 (2隊)	9 (2隊)	14
合計			2	22		29	9	62

※1 一般参加者：参加されている方々を取りまとめて奉仕プログラム参加

(イ) 救護班

11NAに引き続き、生活サービスセンター配属の医療関係者を中心とするスタッフが運営するという形となった。

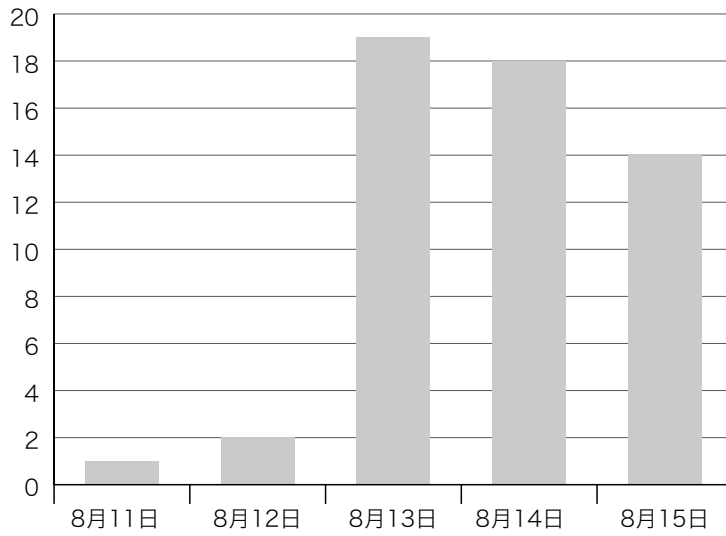
救護所の場所としては、「管理棟」内の保健室（ベッド数7床）を使用することができた。また、場内巡回、全体プログラムの際にはアリーナのマーキーテントに出張救護所を設置した。

その他、チャレンジクルーの受け入れ、場外プログラム時の車椅子スカウトの送迎なども行った。



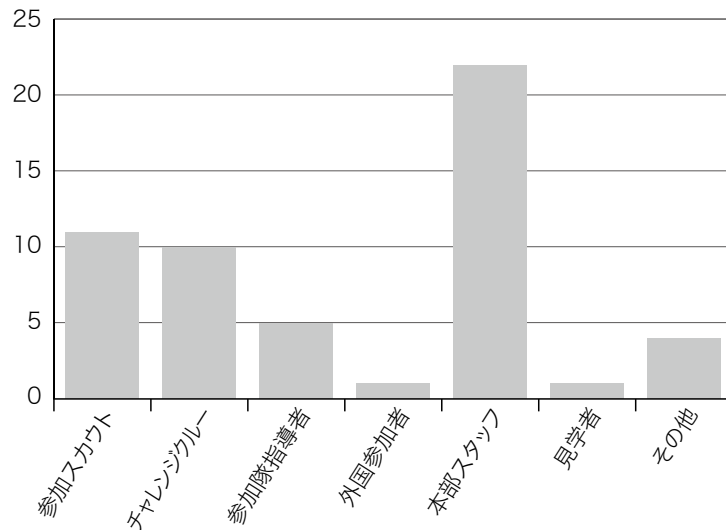
● 受診記録（再診含む）

日別発生状況



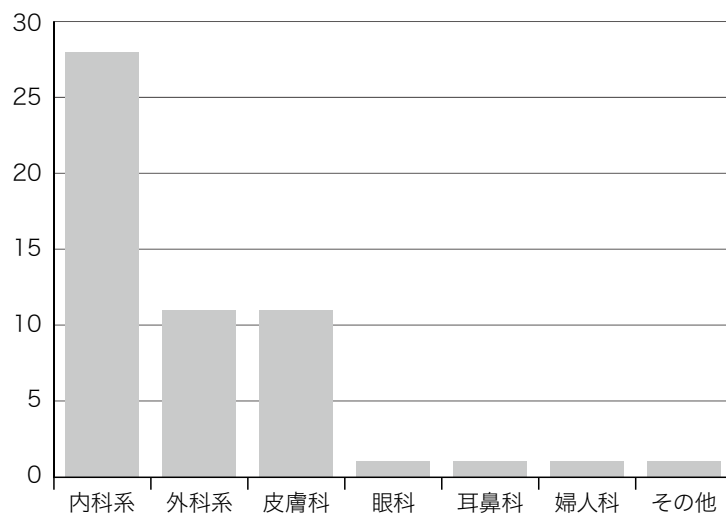
日程	人数
8月11日	1
8月12日	2
8月13日	19
8月14日	18
8月15日	14
合計	54

所属別状況



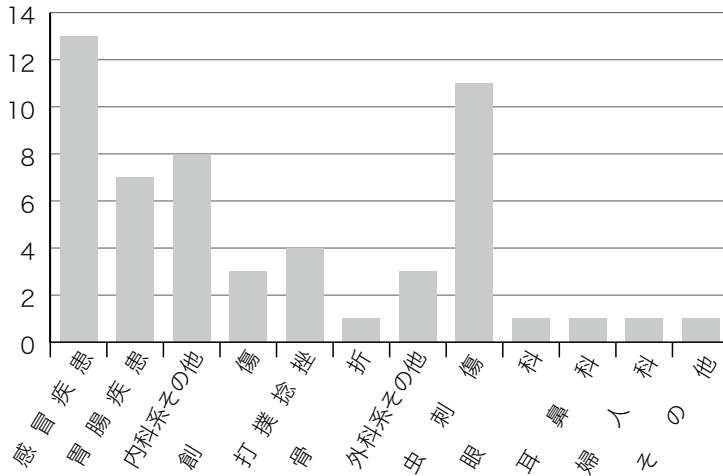
所属	人数
参加スカウト	11
チャレンジクルー	10
参加隊指導者	5
外国参加者	1
本部スタッフ	22
見学者	1
その他	4
合計	54

受診科別



所属	人数
内科系	28
外科系	11
皮膚科	11
眼科	1
耳鼻科	1
婦人科	1
その他	1
合計	54

疾患別発生状況



所属	人数
感冒疾患	13
胃腸疾患	7
内科系その他	8
創傷	3
打撲捻挫	4
骨折	1
外科系その他	3
虫刺傷	11
眼科	1
耳鼻科	1
婦人科	1
その他	1
合計	54

受診患者は54人におよび、特に虫刺傷が11人と比較的多かった。また、メンタル面での受診者もあったが、全体として、比較的軽症で退室している。上記のような状態であるが、本部スタッフの受診が多かった。

救護所来診者日報集計

(8月11日～8月15日)

区分	疾患種	参加スカウト	チャレンジクルー	参加隊指導者	外国参加者	本部要員	見学者	その他	合計	うち再診者	診療後			
											隊復帰	経過観察	場外病院	救急搬送
内科系	感冒疾患	5	6					2	13	1	10	3		
	胃腸疾患		1	1		4		1	7	2	6	1		
	熱中症													
	高血圧症													
	糖尿病													
	その他		2				5		1	8		3	2	
	計	5	9	1		9		4	28	3	19	6		
外科系	創傷	1		2					3		3			
	火傷													
	打撲捻挫	3				1			4	1	4			
	骨折			1					1		1			
	その他		1			2			3		3			
	計	4	1	3		3			11	1	11			
皮膚系	湿疹・かぶれ													
	虫刺傷			1		9	1		11	2	11			
	日焼け													
	その他													
	計			1		9	1		11	2	11			
眼科					1			1		1				
耳鼻科	1							1		1				
歯科														
泌尿器科														
婦人科	1								1		1			
その他						1			1					
	合計	11	10	5	1	22	1	4	54	6	44	6		

②食堂班

● 食堂運営

- ・ 班長以下20人とアイルランドローバースカウト11人で対応した。早朝からの勤務となるので勤務シフトを工夫してオーバーワークにならないように配慮した。
- ・ 特別来賓の食事の給仕や場外プログラム時の駐車場での弁当配給など、全員で対応を協議し、それぞれの役割に責任をもって業務を進めることができた。食堂職員のご理解とご協力により、問題が発生した時にもすぐにご対応いただき、大変スムーズな運営ができた。食物アレルギーやハラール食も問題なく対応出来た。なお、事前に施設管理者や食堂職員の方と施設設備の利用について、および献立や配膳についての打ち合わせが充分に行えたので、それぞれの役割分担が明確になって満足のいく食堂運営ができたものと考えている。
- ・ 参加者数が1,000人程と見込まれ、500人収容の施設でそのための食事の提供が行えるように食堂の施設、設備、資材、配膳方法などを検討した。
数的不足に対応するため日本連盟からの什器調達を検討したが、そもそもそれらの食器類を管理する（洗浄、保管などの）設備がないことなどから、
 - (1) 紙皿、紙コップなどの使い捨て食器を使用すること。
 - (2) 通常はロッジごと（50人規模）で行われていた配膳を、調理場前の駐車スペースに仮設のマーキー（200人収容）を立てて食堂とすること。
 - (3) トレイは、10棟のロッジ備え付けのものを回収して（500枚）それを使い回すこと。
 - (4) 水道の蛇口が不足しているので、食前の手洗いはアルコールスプレーで行うこと。
 - (5) ゴミの分別については（大量に発生することが予想されるので）別途検討し、施設や行政と協力して処理を円滑に行えるように必要な施設、資材、システムを準備すること。などの方針のもと準備を進めた。

● 配給

- ・ 氷の配給については、曇りや雨天が続き、気温が低かったこともあり、特に大きなトラブルもなく、予定通りに配給を完了することができた。
- ・ 弁当についても、特に問題なく配給ができた。
- ・ 場外プログラム実施日は、雨天時にバス出発間際の弁当配給となったが、大きな混乱もなく無事に配給を行うことができた。
- ・ アイスキャンデー（ガリガリ君）1,000本も、溶けることなく配給できた。
- ・ 配給の段取りについてはローバー年代の本部スタッフが主体となって立案計画を行った。無事に遂行できて良い経験となったと思う。
- ・ なお、弁当食を含め、献立の内容については、通常の施設で提供している定食類ではなく、静岡の特産品を盛り込んだオリジナルのメニューを提案したところ、施設側の調理担当業者の協力を得て、この大会にふさわしいメニューができ上がった。事前に十分な協議を行うことができ、試食もさせていただいて「味」はもちろん、「量」や「おかず」について大変満足のいくものとなった。

● 食堂利用者の状況

8月11日

	朝	昼	夕	
食券回収枚数	—	—	426	<ul style="list-style-type: none"> アレルギー、ビーガン対応 手洗い：アルコールスプレー（入り口） 車いす席（2テーブル） ごはんのうたの歌唱指導
カウント数	—	—	390	

8月12日

	朝	昼	夕	
食券回収枚数	434	425	903	<ul style="list-style-type: none"> 秋篠宮様ご一行の食事の給仕（6人） ハラール食：26（マレーシア・シンガポール） 解凍に時間がかかり大幅に遅れる。 おかわりなし（以後希望により：盛りを選ぶ） ホワイトボード（案内板）設置
カウント数	437	438	920	

8月13日

	朝	昼	夕	
食券回収枚数	920	924	907	<ul style="list-style-type: none"> 早番、遅番体制（6：00～／7：00～） 昼食弁当チケットなしの対応（業者など26） 安全衛生会議開催（中川副センター長/棚橋RS） 危険箇所の安全対策（給茶場所横に仕切柵） 配膳棟と食堂テントの間の通路に雨よけシート 一方通行の誘導表示
カウント数	924	881	909	

8月14日

	朝	昼	夕	
食券回収枚数	905	840	899	<ul style="list-style-type: none"> 野外料理プログラム（カレー）対応 ガリガリ君配給（昼食時：1000本） 翌朝の弁当配給のための対策会議
カウント数	906	802	—	

8月15日

	朝	昼	夕	
食券回収枚数	850	895	869	<ul style="list-style-type: none"> RSチーム、駐車場で弁当配給 富士の夕べの弁当配給（雨のため食堂開放）
カウント数	824	—	849	

8月16日

	朝	昼	夕	
食券回収枚数	876	388	—	<ul style="list-style-type: none"> メッセージボード設置 撤営
カウント数	869	—	—	



②舎営管理班

- ・参加者および舎営希望の奉仕スタッフについては、「宿泊棟」の宿泊受け入れを行った。また参加者の舎営の注意事項について「舎営生活について」の文書を配布およびロッジ内に掲示し管理を行った。
- ・事務局と調整し、宿泊部屋割りの調整を行った。特に、外国参加隊の宿泊調整、バリアフリーのある部屋の調整を行った。宿泊室の団号の表示やシャワールームやトイレなど施設の案内表示および危険個所の注意喚起を行った。また、ロッジ内ゴミ集積所の管理を行った。

③野営管理班

●資材レンタル品管理の実施

事前申し込みをされた内容に従って授受管理を徹底して実施した。

●野営管理業務の実施

宿営地域における入退場の制限や夜間パトロール等を通じて野営地域の秩序や安全に配慮した管理を実施した。

●夜間警備の実施

夜22時の消灯を厳守するように指導助言を行った。夜間における野営地域の入退場の制限を実施した。

●紛失物管理の実施

今回の大会では特に落とし物等が多く発生している。生活サービスセンター本部マーケットに展示していることを野営実施者へ展開することで、早期に返却できるように工夫を実施した。

4. 評価・反省

①事前準備の状況

【庶務&救護班】

- ・参加人数と浴室の設備や湯量との関係で、毎日の入浴は難しいと予想されたため、期間中3日間の浴室利用希望調査票を事前に配布した。しかし、参加者の確定が遅れたことで、各参加者への食事時間の告知が当日となり、希望入浴時間と重複する可能性があった。結局、各参加者には、受け入れ時に再度調査票を見直してもらうことになり二度手間となってしまった。
- ・救護については、医療関係奉仕者の方々を中心に、事前の準備段階から、スタッフ間で連絡を取り合いながらご協力いただいた。

【食堂班】

- ・献立については施設で普段提供しているメニューを参考にしながら、静岡の名物を入れたアグーナリーのオリジナルを提案したところ、前向きに検討していただき、試食会は大変満足 of いくもので本番への期待が高まった。
- ・配膳の段取りについては現場を計測し、ライン配置のプランを立て、施設の食堂職員と何度も打ち合わせて検討を行った。
- ・食堂の配置（テーブルと座席数）については最後まで詳細が分からず、入場者の動線を決めかねたが、ロッジ単位の200人程度でシフトを分け、30分×5クールで900人の

参加者に食事をしていただけるようにプランを立ててみた。最終的に300席になるとのことで、シフトはこのままにして座席に余裕をもたせた。

- 水の配給については富士宮市内の業者に依頼することにしたが、会場までの配達はできないとのことで、こちらから取りに行くことにした。このため、事前に予約を受け付けた分だけ大会の初日および3日目に取りに行き、食堂で配給（販売）することにした。また猛暑が予想されるので、追加にも対応できるように少し多めに在庫を用意していただくようお願いした。
- 食券は毎回の食事の時に切り離して小片を渡せるように、切り込みを入れたものを作った。小片は同日の朝昼夕を間違えないようにフロントと背景色を変え、メニューも紹介するようにした。

【舎営管理班】

- 宿泊棟のロッジは10棟3種類の間取りがある。その内バリアフリーの棟が2棟あり部屋割りをするにあたり、事前に参加隊アンケート調査を実施した。参加者個々のニーズは多様である事が分かった。アンケート調査により要望を把握することができたので前もって対応できる事が多くあった。
- 調査項目は多く詳細にした方がよりサービスの向上に繋がるがその分複雑になる為、必要項目と、自由に記入できる欄で要望調査をした方が良かった。
- 宿泊室は4人の小部屋から26人の大部屋がある。個室また少人数部屋希望などが多く、男女別に部屋割りを配慮した為、間取りの大きいロッジの使用に思慮した。

【野営管理班】

- 配属スタッフ（17人）の諸大会参加や野営経験などの調査を事前に行い大会本番までに配属スタッフを3つの係に分けた。ある程度は適した係に配置することができたと思う。
- 各ロッジ前の広場を利用してサイト割りを行った。砂利が多くテントを張るには不向きであった。
- 参加隊で野営希望の隊は下見時に設営場所を確認されていたのか問題も出なかった。

②設営時の状況

【庶務&救護班】

- 受け入れ時、参加者一覧表から各隊の宿泊場所を探し出すのに少々時間を要した。これは参加者一覧表には舎営or野営としか記載されておらず、宿泊場所を探すためには、別途、舎営管理班作成の一覧表、野営管理班作成の一覧表でチェックしなければならなかったためである。そもそも参加者一覧表を見れば事足りるようになる必要があった。しかし、これについては参加者確定が遅く、舎営地・野営地の確定は開催直前となり、参加者一覧表に落とし込む時間がなかったからである。
- 入浴時間についても、前述のように、再度、受け入れ時に確認していただく必要が出たため、参加者には手間をかけることとなった。
- 参加者の確定は速やかに行うべきであり、また、速やかに行えるように申し込み時点での調査を充実すべきである。
- 資材は、発注していた文具等が未着であったが、手持ちのものを活用して対応できた。
- 救護班は、救護所の設置、運用手順の確認など、医療関係スタッフ主導ですすめた。

【食堂班】

- 配膳テーブルを準備するため、資材部にテーブル4脚の追加をお願いした。さらに、食堂のテーブルを4脚回した（24席減）。配膳は3つに分けて、おかず、ごはん、汁物の順にトレイで受け取ってもらうように配置した。
- 後でハラル食用の配膳テーブルを追加した。
- また、給茶用のテーブルが準備できなかったため、備え付けの木製ベンチに置いて対応した。お茶を汲みやすいように高さを考え、スペースを作るなど、後で工夫しながら改善していった。
- 食後のトレイの回収と残飯処理のために、大型のペールを準備してもらった。
- なお、水切り用にロッジからザルを借りておいた。
- 残飯等のゴミの回収袋は90リッターの大型のものを準備してもらったが、1回の食事で10袋くらい出ることが分かり、後でゴミ袋を追加してもらった。
- ゴミの分別とトレイの回収は食堂の出口付近で行ったが、雨天時には食堂マーキーにスペースを作って、そこでゴミ処置用を行った。食事用のテーブルを配膳用に回したため、約250～260席になったので、北側のマーキーにそうしたスペースを作ることができた。
- スタッフの寝所として調理棟の裏手にマーキー3張を設置した。男女の寝室と休憩場所、資材置き場にした。

<反省点>

- 配膳機のレイアウトや動線については入場からゴミ処理・退場まで、設営時に修正・調整できたが、給茶やハラル対応などについては事前の検討が不十分で、あるもので対応せざるを得なかった。
- お茶汲みの場所、および食後のトレイ回収とゴミ処理場所についてはマーキーなどで屋根をかけておくべきだったと思う。
- ゴミ袋やお茶っ葉などの消耗品についての読みが浅く、結果的に後になってあわてて追加することになってしまった。

【舎営管理班】

- 第3回専門部会にて調査した場所に予定どおりの場所に集会テントは設置してあった。テーブル、椅子、ホワイトボード等備品を設置し、受付準備作業を行う。
- 参加者宿泊施設のロッジには入口に各隊の部屋割り表を掲出し、指導員室、宿泊室内の不必要なテーブル等の備品を押し入れに収納する。また、トイレ等にイラスト表示の案内板、ロフト等の危険場所に注意喚起看板を設置した。

【野営管理班】

- 班内に3つの係を作り業務を分担した。2つの係は24時間勤務で場内巡回を実施し、1つの係は班の受付など庶務的な業務をしていただきスムーズな運営ができた。
- マーキーテントは予定の数より多く張ってあったのでアイルランドスカウトの寝所に回すことができた。
- 依頼していた資材関係が一部なく、探すのに時間を要した。センターごとの資材集積場所を設置してほしかった。
- 野営希望隊の受付は業務・設営場所などで離れた場所にあり不便をかけた。到着受付業務は舎営希望隊と同じ場所ですべきだった。

③期間中の対応

【庶務&救護班】

- ・庶務班のスタッフは様々な大会での奉仕実績のある方が多数おられたため、業務内容をすぐに理解し、臨機応変にまた適材適所で役務を分担して業務に励んでいただけた。庶務班ということで、雑多な問い合わせや要望が寄せられるなか、当初の業務を超え、女性7人で奮闘した。ただ、男性浴室の点検・清掃や仮設トイレの扉の修理、ゴミの運搬等、舎営管理班の男性に協力いただいた。やはり男性スタッフも数人は必要かと思う。
- ・遺失物・拾得物については、氏名の記載のあるものは参加者一覧表から宿泊場所を調べ、届けた。また、庶務班前での掲示や声かけ、最終日には食堂前でも声かけをするなど、持ち主に返す努力をした。氏名を記載するのはもちろんのことであるが、所属の記載があると、よりスムーズに持ち主を見つけることができただろう。特に浴室の遺失物は傾向としてチャレンジクルーや成人のものが多かった。年齢が上がるにつれ記名をしなくなること、そして参加スカウトの場合は指導者が浴室を出る際にチェックするからだと思われる。
- ・救護班は、医師が少なく、連日、相当なご負担をおかけした。
- ・一般参加者に救護への連絡方法等が周知されていなかった。また参加者やスタッフに対しても周知が不足していた。例えば、薬を要求する参加者が多かったこと、感染性廃棄物（インスリンの使用済み針）の処理の依頼があったことなどである。後者については、今回はスタッフである医師に持ち帰っていただくことで対応できたが、今後の検討が必要な点である。

【食堂班】

- ・11日は初顔合わせということで、アイルランドローバーを交えて業務内容についてミーティングを開き、1日の流れ、期間中の予定、食堂業務の内容について説明した。その後、各担当部署に分かれて事前の打ち合わせ、作業内容の確認と訓練などを行い、当日の夕食の配膳に備えた。
- ・初めてのミーティングの機会に、食事前に「ごほんのうた」を楽しく歌ってもらえたらとの希望（こだわり）があることをお伝えしたところ、みなさんから賛同をいただき、スタッフ全員でソングの指導にあたることを快諾してもらった。
- ・また、吉岡スタッフ（大阪）の提案で、折り紙で箸置きを作って参加者のみなさんに楽しんでもらおうと折り紙や千代紙をたくさん準備してきたところ、これも全員の賛同を得て参加者（900人）に渡せるように協力して折ることになった。

<チーム編成と業務分担について>

- ・30人のチームを2つに分け（ピカチューチームとセーラムーンチーム）、それぞれ早番、遅番を交代で行うことにした。これは、食堂の業務が早朝（6：00～9：30）および夜間（16：00～19：30）におよぶため、通常の勤務にすると拘束時間が超過する（昼食弁当の配給を入れると10時間になる）ので、早番は朝夕のみとし、遅番は朝夕の出勤時間をそれぞれ1時間遅らせて、その分を昼食弁当の配給（11：00～13：00）にあてることで、それぞれ7時間の業務（拘束）時間にした。なお、朝食の片付け後に30分～1時間のミーティングを開いて、業務上の修正点や諸々の作業を行ってコミュニケーションを図った。

- それ以外の時間はオフタイムとして、めいめいでアグーナリーを楽しんでもらう時間とした。また、開会式や閉会式などのイベントにはそれぞれ時間調整のうえ、極力参加してもらうように呼びかけた。
- 食堂の業務は3つのパートに分けて、「キッチン」、「ホール」、「バックヤード」として、それぞれ配膳、チケット回収とカウント、座席案内と給茶、トレイ回収と残飯処理、ゴミの分別を担当してもらった。チームのメンバーがそれぞれ交代して3つの業務を体験してもらうことを考えていたが、チームの話し合いの中で、業務は固定して深めていくことになったようだ。
- こうしたチーム編成については、メンバーのほとんどがローバー年代なので、彼らが自発的かつ主体的に動いてもらえるようにベテランの成人指導者がサポートする体制を取った。すなわち、ピカチューとセーラームーンのチームリーダーはそれぞれ吉岡さん（大阪）、開内さん（愛知）にお願いしてメンバーをまとめて生活面も支援してもらうようお願いした。
- またキッチン担当（主任）を渡辺さん（千葉）と栗林さん（千葉）、ホール担当を大古さん（兵庫）、バックヤード担当を加藤さん（静岡）にお願いして、それぞれの業務運営を指揮してもらった。
- また全員で食堂の職員の方（芥屋さんと宇津木さん）とも顔合わせをして、お互いに協力して業務運営を行うことを確認し合った。

<業務遂行の状況>

- こうしてチーム編成と業務分担を行い、勤務シフトを確認したうえで、夕食の配膳の準備にかかってもらった。特に問題となるのは配膳の動線を決めることで、入り口から食堂テーブルに至るまでの限られたスペースの中でどのように配膳を行えばスムーズに動けるのかを全員で検討した。
- 一つの意見として配膳テーブルを斜めに置くと、流れもつかえないしスペースも多く取れるとの意見が出ると、障がい者の多くは安定感のない状態を非常に不安に感じるし、斜めになったテーブルを見てパニックを起こす可能性があるとの若いローバーからの指摘を受けてレイアウトを再度修正するなど、前向きな意見と積極的な関わりでどの業務もうまく回り始めていった。
- この日の夕食は本部スタッフ（チャレンジクルー含む）350人分の配膳なので、本番（900人分）のシミュレーションになった。実際にやってみると、いろんなところをつかえてくることが分かった（例えばご飯を盛る作業とか、バットを入れ替える作業、お茶の給湯など）。
- そうした所を逐次修正してスムーズに運ぶように話し合いがなされ、翌日の朝食に備えた。一番悩ましかったのは、盛りつけの量が一定せず、後になって余ったり足りなくなったりすることへの不安だった。やってみなければ分からないものだが、極力サンプルを見て、それに近いボリュームで盛りつけるようにするしかなかった。結果的にはキャベツが足りなくなったり、ポテトサラダが余ったりすることがあったが、繰り返しやっていくうちに慣れてきて、精度が高まったようだ。
- 宿泊については調理室裏手にマーキーが設営されているが、12日の開会式に特別来賓が来られる関係で、そこが報道陣の待機場所になるということなので、それまで（12日の夜に特別来賓が会場を出られるまで）使用しないことにして、第1緑陰広場のマー

- キーを個人装備の仮置き場所・就寝場所にした。
- ・なおアイルランドローバーが寝袋を持ってきていないということで、急遽山中野営場から毛布を運んできてもらって1枚ずつ配給した。(翌日にさらにもう1枚ずつ配給した。寒かったようだ。)
 - ・山中野営場までの資材運搬に時間がかかったが、ロッジには毛布も布団もあったので、これを利用できなかったのか疑問が残る。
 - ・12日は参加者が入場して夕方から開会式が始まる。秋篠宮殿下と眞子内親王殿下もいらっしゃるということで、場外の交通規制などもあって、配給に支障が出ないように態勢を整え、食堂の職員の方とも打ち合わせを十分に行った。
 - ・秋篠宮殿下ご一行の食事(カレーライス)の給仕に食堂班から4人出すように言われていたが、いろいろ検討して6人出すことにした。全員ローバーで、1人はアイルランドローバーを指名した。
 - ・関係者との事前の打ち合わせや段取りの調整もあったが、本番になると突発的なことも多く大変だったようだが、うまく采配ができたようだ。指名したローバーのうち、何人かは以前にジャンボリーの奉仕などで良い動きをするところを見ているので、今回もリーダーシップを発揮してうまく仕切ってくれると信じていたが、期待どおりの働きをしてくれたようだ。機会を得て経験を重ねるごとに良い奉仕ができていくローバーの姿を見ると実に頼もしい限りで、良い関わりができたことを誇りに思い、また彼らがこれからより良いスカウティングを進めて人生を楽しんでくれることを心から願うばかりである。
 - ・特別来賓の給仕に若手6人を手配したので、本番の夕食の配膳はとても忙しくなった。ただ、昼間のミーティングではそうした経緯を説明し、人員不足をカバーすべく、全員が納得したうえで万全の協力体制を取られることになったので、リーダーを中心にうまく業務運営が進められた。
 - ・この日のカレーライスがことの外美味しかったためでもないだろうが、おかわりや大盛りを求める参加者も多かった。(もともとチャレンジクルーやローバーからも食事の量が足りないとの苦情もあったようだ。)現場でその都度対応することは難しく、また公平にしなければならないので、今後の検討をお願いしなければならないと感じていたところ、そうした要望も考慮して、ご飯の量を増やすことになった判断と指示に現場は喜び、またモチベーションも大いに盛り上がった。
 - ・900食を配膳するときには、主菜やごはん、汁物が50人分程度のバットで小分けに入れられて調理室から出されてくるので、入場人数とバットのはけ具合が分かれば(できれば数えておけば)、見込みが分かって余剰や不足が起こる可能性が少なくなると考え、チケット回収場所で同時にカウンターを使って通過人数を数えて配膳担当に報告するようにした。「今400人を越えた」と知らせ合うことで状況が分かり、うまく対応できるようになった。

<安全管理と業務改善について>

- ・12日まで曇り空でもっていた天候だが、13日からは雨がよく降るようになって、入場待ちや食後の片付けなどでの雨天対応に迫られた。自分たちの業務運営上の安全を考えるだけでなく、来場者に対する安全の配慮も考えて対策を練った。
- ・初日の全体ミーティングで中川副センター長(安全管理担当)より、班ごとに安全衛

生担当者を選ぶように言われていたが、最年少者（18歳）のローバーを担当に指名した。もちろんやり方がわからないので、安全衛生パトロールや危険予知訓練などを指導して実践するように促した。

- 13日のミーティング時に中川副センター長から安全に対する基本的な考え方について話しを聞き、食堂を運営するうえで何か気になったこと、危険を感じたことなどを話し合い、対策を検討した。
- その中では、地面が砂利で微妙な凸凹があるので車いすの走行に注意する必要があること、トレイに食器をのせて歩く時につまずきそうな箇所があるので危険を感じていることなどの意見が出された。
- 中川副センター長から、危険を感じたらメンバーで共通認識して即是正するようにとの指示があり、配膳場所から食堂への動線について検討し、危険箇所に侵入禁止のガードレールを設けて誘導することにした。
- また雨天対策として、入場待ちで並んでいる時に雨に濡れないように、通路の一部にシートで屋根がけをしてなるべく屋根の下に入れるように待機場所を工夫した。
- 食後のゴミの分別場所も屋根がなかったなので、雨が降りそうな時には食堂マーキーの一部のテーブルを撤去してスペースを作った。
- 14日の昼の弁当配給時にガリガリ君（アイスキャンデー）を配るとのことで、関係先といろいろと検討を行った。結果的には冷凍車で持ってきてもらって、そこから逐次小分けに取り出すことにして、予定数（1,000個）を凍ったまま配給することができた。
- 15日早朝の場外プログラム出発時のお弁当の配給について、メンバー全員で話し合っただ段取りを検討した。ローバーのスタッフがイニシアティブをとって人員配置や作業の進め方について話し合った。
- その一方で、西田センター長を通じて総合サービスセンターの村松センター長に協力を要請した。配給場所となる駐車場でのお弁当の受け渡しをスムーズに行えるように、バスの行き先と乗車人数、駐車場所などの情報を教えてもらって、作業の流れを話し合った（バスごとに配給用のテーブルを借用した）。
- 朝食の配膳と駐車場でのお弁当配給との時間が近接しているために、少ない人員でうまく回せるように、時間を見計らって動くように段取りを行った。
- 15日の朝も雨天で、お弁当の配給が危ぶまれたが、前日の打ち合わせに従って、多方面からの協力もあり、段取りよくお弁当を配給することが出来た。

<ゴミの分別について>

- 入場から配膳、食事テーブルへの案内など、食堂業務の流れを見ると、目立った混雑もなく比較的スムーズに動いていた。これは食後の片付け（残飯やごみの分別とトレイの回収）も同様であったが、ゴミ処理を完全に終わって食堂を閉めるまでに非常に時間がかかった。
- チケットやカウンターから、まだ食事に来られていない方が何人かいらっしゃるので、その方の食事を取り置きしておかなくてはならないし、一方で調理室の職員の方が洗いや片付けをするために待機していただいているので、片付けの見切りを付けなければならず、最終処理の決断に苦労した。
- これはゴミ処理も同様で、残飯やカップ類などのゴミを分別するのに加えて鍋やバットの残り物もすべてビニール袋に入れて残飯として処理しなければならず、バック

ヤード担当はその見極めがつくまで待機しておかなければならなかった。もちろん、もったいないのでなるべく食べてもらえるように最終処理を決断するまでにはしばらく時間がかかった。

- ・夕食時の残り物などは、チャレンジクルーのベンチャーや、活動サービスセンターのローバーに夜食として一部を差し入れたが、それでもかなりの量を残飯として処理しなければならなかった。
- ・平均すると1回の食事で90リッターのゴミ袋が10袋くらいになった。
- ・なお、ゴミの回収については期間中は行われなかったことになって、保管倉庫が満杯になることが危惧された。
- ・バックヤードのスタッフは、なるべくコンパクトにゴミを取めるようにいろいろと努力をしてもらった。
- ・トレイはロッジからかき集めてきた500枚で900人の参加者に対応するために食後に回収したものを洗浄（アルコール消毒）拭き取りして、2時間半の食事時間中にほぼ同数を再度使い回すことになった。
- ・そんなに大きな汚れはないが、回収時に拭き取りと除菌（乾燥）を行うと結構な負担になる。（次に使う人のために丁寧に拭き取りをしていただいたので余計に時間がかかってしまった。）
- ・この点にも、キャパをオーバーした弊害が出て、スタッフの業務に余計な負担がかかっていたように思う。使い回しは最終手段として、事前に良い方法を検討すべきであった。
- ・期間中はごみステーションの開設時間を決めて、その時間以外は受け付けないことになっていたが、時間外でも三々五々ゴミを捨てに来られるので、担当スタッフは時間外でも現場に張り付いていなければならなかった。ゴミ処理の段取りなど、関係各所と連絡調整のうえ、周知を図る必要があった。

【舎営管理班】

- ・定期的にロッジ周辺およびロッジ内の共用場所の点検を行った。
- ・トイレ2か所に詰まりが発生し水浸しになっていた為改修すると共に適切な使用方法を指導する。
- ・案内板の増設・改善を行った。

【野営管理班】

- ・場内を期間中巡回したが大きな事故もなく良かった。ただ、野外炊飯棟でローバースカウト数人が深夜まで話をしていたので注意をした。
- ・食堂で食事をする順番を待つ方たちが少しでも濡れないように食堂班より依頼があり雨除けのためシートを張る。
- ・仮設トイレの男子・女子トイレの目隠し用仕切りの設置。
- ・「富士の夕べ」終了時の沿道警備

④撤営時の対応

【庶務&救護班】

- ・参加者の退出報告を庶務班では受けなかったもので、かえってスムーズに運んだ。
- ・受け入れ時は総合サービスセンターと生活サービスセンターの庶務班、そして舎営or野営班でと3度も受け入れ作業をしている。しかし、総合サービスセンターでの受け入れ時に宿泊場所を伝え、庶務班では場所がわからない方への案内ぐらいにすると、

入場がより円滑になり、参加者の負担も減ると思われる。

- 持ち主の現れなかった拾得物をまとめ、日本連盟に引き継ぎをした。
- 使用した資材備品については返却をすませ、撤営は時間通りに完了できた。
- スタッフ個々の努力と一同の協力で庶務班業務を無事に終えることができたことに、本当に感謝したい。
- また、救護スタッフには、個人参加の医師・看護師・薬剤師の方々がおられたため、事前準備を含め、救護所機能が遂行できた。ご協力とご奮闘には心より感謝申し上げたい。
- 組織をスリム化することには異論はないが、庶務と医療を同一の班にくくってしまうことにそもそも無理がある。今後、救護所の開設にあたっては、個人参加の医療従事者に頼るのではなく、日本連盟の医療関係者を中心に班には組み込まず、ひとつの独立した組織として救護体制を整えるべきではないかと思う。

【食堂班】

- 備品リストに従って借用物の回収、撤収を行った。
- 配膳台に使っていたテーブルの返却、食堂の椅子とテーブルの原状復帰、寝室マーキアの撤収、ベッドの返却など、それぞれ分担して、安全に留意して作業を進めた。
- ロッジから借用したトレイやザル、しゃもじなどを返却する際に、どのロッジから何をどれだけ持ち出したのかのリストを初日の時に作っておかなかったため、返却時に確認が出来ず、舎営管理に迷惑をかけた。
- ロッジの利用者が使ったり、野外料理プログラムで使ったりしたものとの区別がつかなかったため、最終確認に手間取った。
- アイルランドローバーが使った毛布が1枚足らなかったため探し回った。ロッジの押し入れに紛れていたが、荒天でテントからロッジに避難した時に、翌朝そのまま片づけてしまったと思われる。
- 資材の借用については、そうした例外的な措置をしていただいた場合に、大変ありがたいことだったが、原則に従ってきちんと受け渡しの確認をしておかないと返って後で迷惑をかけることになる、いつも反省するのだが今回も本当に申し訳なかった。

【舎営管理班】

- ロッジ退出についての案内を前日に配布しスムーズな撤収に努める。
- スタッフ用天幕、サービスセンター備品の返納作業を進めながらロッジ指導員室の備品を定位置に戻し、掲出物の回収を行うと共に各宿泊室の点検および確認を行う。
- 撤収要領を事前配布したことにより各隊が撤営要領を共通認識しスムーズな撤営作業が行えた。

【野営管理班】

- 場内設置物の撤収などの係と参加隊野営地の撤営点検係に班員を分担し作業がスムーズに行われた。
- 支援作業とした参加隊からの申し出で宿営地から乗車場所まで荷物の移動を行う。

5. 総評（センター長 西田俊幸）

生活サービスセンターとしてご奉仕いただいた皆さん一人ひとりの対応が、センター全体のサービスに活かされた大会でした。素晴らしい自然環境の中、参加者には若干の不便

さにはありましたが、参加者へのご支援をスタッフ全員が楽しく、また快く実施して頂きました。個々の班の活動の評価・反省は記載の通りです。今回は施設設定の人数より大きく上回る参加者で、奉仕スタッフにはご負担をおかけしましたが、施設の関係者、特に食事を提供していただいた関係者の方々には、多大なるご支援を頂き、大会期間を乗り切ることができました。本当に感謝申し上げます。センターの各班長にも、事前準備から開催期間中を含め、各班のスタッフをまとめていただき、しっかりとしたサービスが提供できたと思います。センター内では毎日、遅くなくても欠かさず班長会議を行い、意思疎通、共通理解を行ったことが、センター全体のチームワークにつながったと考えています。また、今回は初めての本部スタッフ、若い世代のスタッフの参加があり、次につながる大会であったと思います。ご奉仕いただいたスタッフの皆さん、ありがとうございました。そして、日本連盟事務局にも事前準備から大会期間中、初めてのセンター長を陰ながらお支えいただき、またセンター全体の側面から多大なるご支援、ご助言をいただいたこと、心より感謝申し上げます。

弥栄



活動サービスセンター

1. 準備状況について

(1) 活動サービスセンターの準備

<平成28年2月6日（土） 第1回活動サービスセンター専門部会>

(ア) 活動サービスセンターの業務について前大会の業務運営要領に基づき確認、調整を行った。

(イ) 専門部会の編成について

全体行事班、場内プログラム班、場外プログラム班、総務班の4つの業務を行う班について確認した。前大会で理解推進班を設置したが、チャレンジクルー（ベンチャースカウト）に対する事前研修、技能章「手話章」取得の講習会を主な業務としていたため、チャレンジクルー専門部会に業務を移管する方向で実行委員会に提案することとなった。信仰奨励、アグーナリーフォーラムの運営については次回までの検討案件となった。

4業務班にそれぞれ班長、副班長を配置し、具体的な業務の企画と準備を担当することとなった。

(ウ) プログラムの考え方

- ・アグーナリーの目的やスカウト個々の目標を設定、達成できるものであること。
 - ・アグーナリーの生活全般を通して、カブスカウトの「やくそく」と「きだめ」、ボーイスカウトの「ちかい」と「おきて」を実践できるものであること。
 - ・富士の雄大な自然や地元静岡県の文化や伝統を感じることができものであること。
- 上記のプログラムの考え方をベースにプログラムの企画、計画を進めることを確認した。

(エ) プログラムの構造化 ※スカウトたちにわかりやすいプログラム

- ・ドリームパスポート、プログラムガイドブックの統合

前大会まではプログラムパスポート（ドリームアワード取得のための記録帳）、プログラムガイドブックの2冊を参加スカウトに配布していた。2冊を統合し「ドリームパスポート」とし、参加スカウトのIDカードとともに携行できるよう大きさをIDカードのケースと同寸とすることを確認した。また、ドロップレット・プロジェクトの視覚シンボルを活用し、学校等で使われている視覚シンボルを取り入れることで多くの参加スカウトがわかりやすく、取り組みやすいドリームパスポートを作成することとなった。

(オ) 場内プログラムについて

地元静岡県、富士宮市の地域資源を有効に活用すること、カブスカウト部門、ボーイスカウト部門の活動の目標や進歩課目、進級課目に関連させることをプログラム立案の方針として確認した。

(カ) 場外プログラムについて

場外プログラムの設定日が8月15日（月）でお盆期間であることから、見学、訪問が想定される施設で混雑や休業等が懸念される。

場外プログラムのコース設定を検討し、施設の状況（混雑状況、バリアフリー状況、入場料、移動経費の見積り等）を調査することとなった。今後、場外プログラムのコー

スを仮決定し、参加手続きの中で人数調整やコースの変更等を行うこととなった。

(キ) 全体行事について

全体行事は開閉会式、国際交流の夕べ、富士の夕べ（セレモニー部分）、日々の国旗掲揚・降納について企画、調整することとなった。

聴覚障害のある参加者に対する支援として、プロジェクターにより字幕を投影する方法を検討していくこととなった。

式典における鼓笛隊の参加要請等について事務局を通して進めることとなった。

<平成28年4月2日（土） 第2回活動サービスセンター専門部会>

(ア) 現地視察

(イ) 実施プログラムと会場利用について

想定される場内プログラム、全体行事と展開される場所について検討を行った。

(ウ) 場内プログラム班の準備状況について

- ・第2回活動サービスセンター専門部会の時点で18プログラムを検討。
- ・消防は起震車、警察には緊急車輛の展示を依頼する。
- ・各プログラムの経費について、経費の枠を設定し、その範囲内で準備を進めることとなった。
- ・説明会の資料準備を進める。

(エ) 全体行事班の準備状況について

前回の専門部会で分担した業務について準備状況を確認した。

(オ) 総務班の準備状況

大会期間中の物品の貸借、活動サービスセンター奉仕者の配置、宿泊等について準備を進める。

<平成28年6月5日（日） 第3回活動サービスセンター専門部会>

(ア) 場内プログラムについて

- ・第3回活動サービスセンター専門部会の時点で19プログラムを検討。
- ・プログラムの実施にあたっての外部企業、団体の協力について
 カラーリング、緊急自動車、起震車、ヤクルト菌のちから、みぢかなロボットなど

(イ) 場外プログラム

- ・第3回活動サービスセンター専門部会の時点で7コースを検討。

(ウ) ドリームパスポートの作成状況について

- ・第1回活動サービスセンター専門部会で確認した方針に沿って、部会長が準備を進める。

(エ) 参加隊指導者の手引きについて

- ・日々のテーマについては部会長が提案する。テーマに基づき各参加隊でスカウト
 OWN、隊長講話ができるよう材料を提供する。
- ・ドリームアワードの授与手続きについて確認、調整した。
- ・デイアワードの隊長認証について確認した。

(オ) 総務班から

- ・各班から必要な物品の請求状況について報告があった。
- ・業者への委託について報告があった。

(カ) その他

- ・活動サービスセンター奉仕者、専門部会員の集合時間等について決定した。

<平成28年7月3日（日） 第4回活動サービスセンター専門部会>

(ア) 現地にてハイキングコースの確認、各プログラムエリアの最終確認を行った。

(イ) 奉仕者の配置について

各班から必要な奉仕者人数、チャレンジクルーの希望配置数を集約し、活動サービスセンター奉仕希望者を各班に割り振ることとなった。チャレンジクルーについてはチャレンジクルー専門部会に希望を申し込み、必要な人数を確保してもらうこととなった。

なお、奉仕者の配置についてはローバースカウト、成人指導者、年齢構成、特技等を考慮し専門部会長が配置案を作成することとなった。

2. 実施状況について

(1) 場内プログラム

- ・各場内プログラムの参加状況についてはP45参照
- ・「カロリング」について

協力企業から実際に公式試合で使用する用具の提供を受け、多くのスカウトがカロリングというスポーツを体験することができた。競い合うことでより楽しさを感じられたことは自隊では味わうことのできない経験であった。

- ・「みんなで作る大きなアート」について

みんなで作る大きなアート」で手形・足型で大会シンボルマークに色を付けることは参加スカウトによっては取り組みに抵抗のあるプログラムであったが、少しずつアプローチすることでプログラムに参加することができ、大きな作品として閉会式で発表できた事はスカウト一人ひとりの達成感に繋がった。できれば継続的なプログラムとして次大会でも展開していくことでスカウトの継続的参加とアグーナリーへの期待に繋がるのではないかと思われる。

- ・「アイロンプリント」「木工教室」「日本の伝統・文化」「レザークラフト」等のプログラムについて

今回参加人数が多く、常にスカウトがプログラムに取り組んでいるという状況があり閑散とした感じはなかった。しかしながら本部スタッフの数が多い割には活動サービスセンターに配属される人数が少なく、支障が生じたプログラムがあった。次回の大会に向けプログラムの内容、提供数を参加スカウト数、配属者数を鑑み調整する必要がある。

- ・夜のプログラム「星空さんぽ」について

悪天候のため中止とした。夜間プログラムは通常の活動では実施が難しい面がある。アグーナリーでしかできない体験として夜間プログラムを今後の大会においても設定する必要がある。内容については開催地の特色を活かしたものとする。

- ・企業等の協力について

これまでも一部記載しているが、今回のプログラムには以下の企業や行政機関からの協力をいただき実施することができた。ここでご紹介し、感謝申し上げたい。

プログラム名	協力企業等(敬称略)	協力内容
レザークラフト	(有) マミクラフト	材料・用具等の一部提供
パソコン教室と フォトコンテスト	キヤノン(株) 富士通(株)	デジタルカメラ・プリンターの貸与 パソコンの貸与
アイロンプリント	(株) アテナ	アイロンプリントシート等の提供
アマチュア無線	アイコム(株)	無線機等の貸与
レスキュー&ポリス	富士宮市消防本部 富士宮警察署	起震車等の出展 パトカー等の出展
みじかなロボット	アストラテック(株)	ロボット体験の出展
ヤクルトおなか元気教室	(株) ヤクルト本社	教材の貸与・飲料の提供
カラーリング	ミズノ(株)	カラーリング用具の貸与

・場内プログラム班のまとめ

多種多様なプログラムを少ない本部スタッフで展開することは、本部スタッフにとって大きな負担であったと思われる。安全管理を含めてプログラム展開を行うためには参加隊指導者の協力も不可欠であった。今後、大会の参加申し込みの段階で本部スタッフの配属について、本人の希望だけでなく、希望部署ではないが人手を必要としている部署に配属できるような仕組み、取決めを検討する必要がある。チャレンジクルーの配属人数の急な変更なども課題があった。

プログラムの展開場所については、本来スカウトのプログラム展開のために必要な場所が設定されるべきである。それはプログラム参加の利便性、安全性、機材の管理という面で展開場所を設定されるべきだが、それらが十分に理解、配慮されず、大会運営業務が優先された形で場所の設定がされている施設があったことは残念であった。

一部の運営スタッフから本部スタッフに対する暴言があった。強い口調で本部スタッフに対し放った言葉でも受けとめる側にしてみれば暴言となる。セーフ・フロム・ハームの意義を十分に理解すること、その理解を通常のスカウト活動の中で実践しているかが試される。大会全体を通して、参加隊指導者、本部スタッフ、大会運営スタッフが大会の目的が達成できたのか、セーフ・フロム・ハームは実行、実践できたかについて、大会を振り返る方法(事後アンケート等)を検討するべきである。

場内プログラムは大きなトラブル、事故もなく無事終わることができた。場内プログラムに関わった本部スタッフの尽力の賜物である。多くの本部スタッフの方々に御礼申し上げる。

(2) 場外プログラム

- ・場外プログラムの各コースへの参加状況についてはP47参照
- ・場外プログラムの評価反省について

(ア) コースについて

お盆時期、また公共施設の休業日と重なり多くの施設に断られたにもかかわらず、バラエティーに富んだコース設定ができた。

障がいの種類やレベルを考慮し、静のコース、動のコースを用意できた。

(イ) プログラムについて

もう少し進歩につながるようなプログラムが用意できれば良かった。

地元の観光ガイドに協力いただいたが、大会や参加者についての説明をもっとしておく必要があった。

(ウ) 参加者対応について

参加前に、参加者全員に参加コースを告知していただいていると思っていた。そうでないことを知っていたら、隊長会議等でそれなりの対応ができたと思う。

現地到着後に参加者の判断でみんなと行動を共にしないなどの申し出があったりし、事前に参加者にプログラム内容が周知されていたら、お互いにそなえることが出来たかもしれない。

予想外に健常スカウトが多く、場外プログラムが物足りないようだった。

(エ) 引率スタッフ（活動サービスセンター内）について

希望者全員を希望コースの引率スタッフにすることが優先になってしまった。プログラム内容や参加人数に合わせ、希望とは異なるコースであったとしても適材適所で配置すべきだった。

スタッフの選定はタイミング的には仕方なかったと思うが、働きかけ（募集・結果告知・説明）はもう少し早くできたかもしれない。また、資料も準備していたものが配布されず失敗だった。

乏しい情報の中でも、現地スタッフと協力し臨機応変な対応をしていただいた。

(オ) 現地スタッフについて

お盆時期のうえ、東海4県キャンポリーと前後したこともあったが、大勢の方の協力を得られた。

大きな大会の奉仕が初めての方も多く戸惑うことも多かったようだが、臨機応変に対応していただいた。

(カ) その他

関わる人すべてが障がいスカウティングを理解しているべき。

朝、1台のバスの到着がかなり遅かった理由が故障だったが、その情報が届かなく対応が遅れた。また、急な変更で総合SCと揉めたが、様々なことを想定した危険予知を共有しておくべきだった。

出発前の集合はコース別に集合場所を分けるなどの対応をすれば良かった。

列を作って並び乗車を待っていただいたが、列の状況を把握するスタッフを置かなかったことで状況をつかめず、長い人は1時間以上雨のなか立って待っていた。

集合・出発時刻を他SCと共有していなかったため、朝食時間を急遽変更していただいた。

昼食の形態が依頼していたものと異なり、扱いに大変苦労した模様。（おむすびに漬物くらいの内容で、かばんに縦に入れても汁が出ない等の方が良かった。）

(3) 全体行事

・ 国旗儀礼（掲揚、降納）

国旗、連盟旗、世界スカウト旗、ガールスカウト旗、大会旗と参加6か国の国旗をそれぞれ2人の参加スカウトを募り、日々の掲揚と降納を行った。

掲揚時には、管理棟の前から多目的広場まで行進を行い、兵庫連盟尼崎第25団と静岡連盟静岡第26団の音楽隊に行進とファンファーレの演奏を行った。

・ 開会式、閉会式

式次第の内容の通り進めることができ、時間配分も適当であった。

開会式には秋篠宮殿下、眞子内親王殿下のご臨席を賜り、参加スカウトへの温かな励ましの言葉をいただいた。

閉会式は暑い中での式を想定し、できる限り短時間で終えるよう調整した。

式の内容、流れは事前に完成させ、現地ではリハーサル等に時間をかけるとよい。視覚的支援のための字幕投影は効果があった。事前に投影内容を完成させ、現地で最終確認を行うことが必要である。また、投影は夜間しかできないため、日中でも可能な方法を今後検討する必要がある。

式中行う国旗儀礼についてはチャレンジクルーに依頼し、式前日にリハーサルを行うことでスムーズに進行させることができた。

・国際交流の夕べ

参加隊の受付時から当日の午前中まで、演目の希望を聞き、内容と音源データを提出してもらうなどして準備を進めた。

音響・映像機材の業者と打ち合わせを行うことが業務の負担軽減につながった。

雨のため急遽、多目的ホールでの開催になったが、入退場の誘導など他班スタッフの協力によりトラブルなく展開できた。

・富士の夕べ

富士の夕べについては当初セレモニー部分を全体行事班で担当することとなっていたが、現地での調整により静岡県連盟が担当することとなった。音響業者との打ち合わせなどについては全体行事班のスタッフが担当することで円滑な運営ができた。

・全体行事班のまとめ

(ア) 参加隊への連絡などは到着時の受付、隊長会議などで早い段階で伝えることにより各参加隊に周知され、トラブルを最小限にすることができた。

(イ) 特に開会式・閉会式の次第や司会読み原稿、人員の配置については事前に作成、シミュレーションを行い、事務局と調整を済ませておくことが必要である。

(ウ) 特別来賓御台臨にあたっては、事前の準備とシミュレーションを十分に行う。

(エ) 雨天でも対応できる施設(多目的ホール)が会場内に確保できたことは良かった。

(4) 宗教儀礼・スカウトOWN

日々のテーマを設定し、テーマに基づき各隊での隊長講話やスカウトOWNに活用できるようにした。※『指導者の導き』欄は、テーマに沿った内容をスカウトOWNなどで展開するためのヒント

(5) フォーラム

カブスカウト部門、ボーイスカウト部門、チャレンジクルー部門、指導者・保護者部門のグループに分かれ、それぞれのグループに進行役の本部スタッフが入ってフォーラムを展開した。フォーラムで話し合われたことは閉会式でスカウトアピールとして発表した。

(6) 総務班

大会の全期間を通して、活動サービスセンター内の資材、貸出物品の調整、スタッフの宿泊等の手配、ドリームアワード授与の準備など多岐にわたる業務を遂行した。

日・主な活動	テーマ	スカウトの目標	指導者の導き
1日目 8月12日(金) 集合・開会式	さあ、 はじめよう!	<ul style="list-style-type: none"> アグーナリー会場はどんなところか知ろう。 仲間と協力してキャンプサイト(生活拠点)を設営しよう。 	<p>アグーナリー初日です。スカウトの体調の変化に気をつけ、安全で快適な生活の場をスカウトとともに作りましょう。</p> <p>アグーナリーの生活の流れやルールについて、スカウトと確認しましょう。</p>
2日目 8月13日(土) 場内プログラム	チャレンジ!	<ul style="list-style-type: none"> アグーナリーの生活を知ろう。 たくさんの人たちにあいさつしよう。 アグーナリーの生活を楽しもう。 いろいろなプログラムにチャレンジしよう。 	<p>アグーナリーは出会いの場でもあります。いろいろな人と交流する機会をもちましょう。あいさつの大切さをスカウトに話しましょう。</p> <p>場内プログラム第1日目です。スカウトが積極的にプログラムに参加できるよう促してください。</p> <p>アグーナリーはチャレンジ精神が大切。普段できないことにチャレンジし、達成感や成就感をスカウトたちに体験させましょう。</p>
3日目 8月14日(日) 信仰奨励 場内プログラム	たすけあい	<ul style="list-style-type: none"> 全国に友達をつくろう。 仲間の大切さを知ろう。 仲間のためになることに進んで取り組もう。 	<p>体験を共有することで友情を深めましょう。仲間と協力し合うこと、仲間のためになることに積極的に取り組むことを通して、スカウトの「ちかいとおきて」を実践しましょう。</p>
4日目 8月15日(月) 場内プログラム	発見!	<ul style="list-style-type: none"> 静岡県について知ろう。 富士山周辺の自然に触れよう。 富士山周辺の自然を大切にしよう。 	<p>場外プログラム中のスカウトの気付き(発見)を大切にしましょう。</p> <p>富士の自然に触れ、自然を大切にする気持ちを育みましょう。</p>
5日目 8月16日(火) 閉会式・解散	さようなら また会おう!	<ul style="list-style-type: none"> アグーナリーをふりかえろう。 『感謝』について考えよう。 	<p>アグーナリー最終日。アグーナリーで頑張ったこと、楽しかったことなどを振り返り、仲間とともに讃えあいましょう。</p> <p>楽しいアグーナリーに参加できたことを感謝しましょう。</p>

3. 評価・反省・展望について (センター長 村山大介)

(1) 活動サービスセンターの編成について

大会全体のスタッフ数が多かったものの必要な部署に人員が配置されていない状況があった。これは大会の奉仕についてはあくまでも個人の意志で申し込みを行うことで、個人の奉仕部署希望も尊重することの弊害がこのような状況を招いていると思われる。申し込みの段階で希望は取るが、希望通りにはいかないこともあるといった文言は「申込要領」での記載に加え、今後は「申込書」にも条件として明記することで解決できると思われる。

(2) 場内プログラムの展開場所について

場内プログラムは多目的広場、多目的ホール、管理棟の各施設を使用して展開した。プログラムの展開場所設定にあたっては、「参加スカウトにとってわかりやすく、安全に移動できること。プログラムの内容に合っている、また、目標が達成できる。安全にプログラム展開ができる。」という条件が必要である。これらの条件の基に展開場所の選定が行われるべきであるが、一部でこれらのことが配慮されずに展開せざるを得ないプログラムがあった。今後、場所の設定にあたっては、最初に場内プログラムの展開場所を条件に基づいて決定し、その後、各専門部会で必要な場所選定を行うという手順を踏むことが必要である。

(3) まとめ

世界スカウトジャンボリーの翌年実施の大会であることから、世界スカウトジャンボリーと並行して準備を進めた。短時間のうちに多くのプログラムを準備できたことは、活動サービスセンター専門部会の主要スタッフの尽力の賜物である。また、限られた条件の中で参加スカウトに安全にプログラムの提供ができたことは、スタッフのこれまでの経験とスカウト活動に対する情熱、スカウト達に対する愛情の結果である。

今大会での活動サービスセンターは「全ての参加スカウトが良い体験ができ、思い出をもち帰る」ことを大きなテーマとし、スカウトの視点に立ってわかりやすく、魅力あるプログラムを提供できるよう心がけた。視覚シンボルを活用した「ドリームパスポート」の作成、視覚支援を目的とした開会式における字幕やシンボルの投影、東京オリンピック・パラリンピックを視野に入れた障がい者スポーツ「カローリング」の導入等に取り組んだ。また、場外プログラムでは日本一の山「富士山」を体感できるよう、担当スタッフは多くの時間を費やしコース設定を行った。

今大会では障がいの有無にかかわらず、参加スカウトは多くの貴重な体験ができたと推察される。今後のアグーナリーのプログラム展開にあたっては、過去の客観的データに基づいて企画、展開していく必要がある。

最後に大会期間中、活動サービスセンターに御奉仕いただいた指導者の皆さま、チャレンジクルーの皆さま、また、専門部会主要スタッフのみなさま、改めて御礼申し上げます。今大会で得られたことを今後のアグーナリーに活かし、スカウトにとってアグーナリーが素晴らしい大会となるようにしていきたいと思えます。



チャレンジクルーセンター

1. 準備状況

以下の通り専門部会を開催して事前の準備業務を行った。

第1回 平成27年12月5日（土）東京 ボーイスカウト会館

安藤部会長 他委員2人

主な議題 ▶ 専門部会の編成／センターの組織／理解推進プログラム

第2回 平成28年4月16日（土）静岡県 富士山麓山の村

安藤部会長 他委員4人

主な議題 ▶ 会場利用計画／各班の業務内容

第3回 平成28年6月4日（土）東京 ボーイスカウト会館

安藤部会長 他委員4人

主な議題 ▶ 各班の準備状況／利用資材・備品／業務要領

第4回 平成28年7月9日（土）東京 ボーイスカウト会館

安藤部会長 他委員4人

主な議題 ▶ スタッフ・クルーの編成／クルーサイトの利用計画／
クルーハンドブック

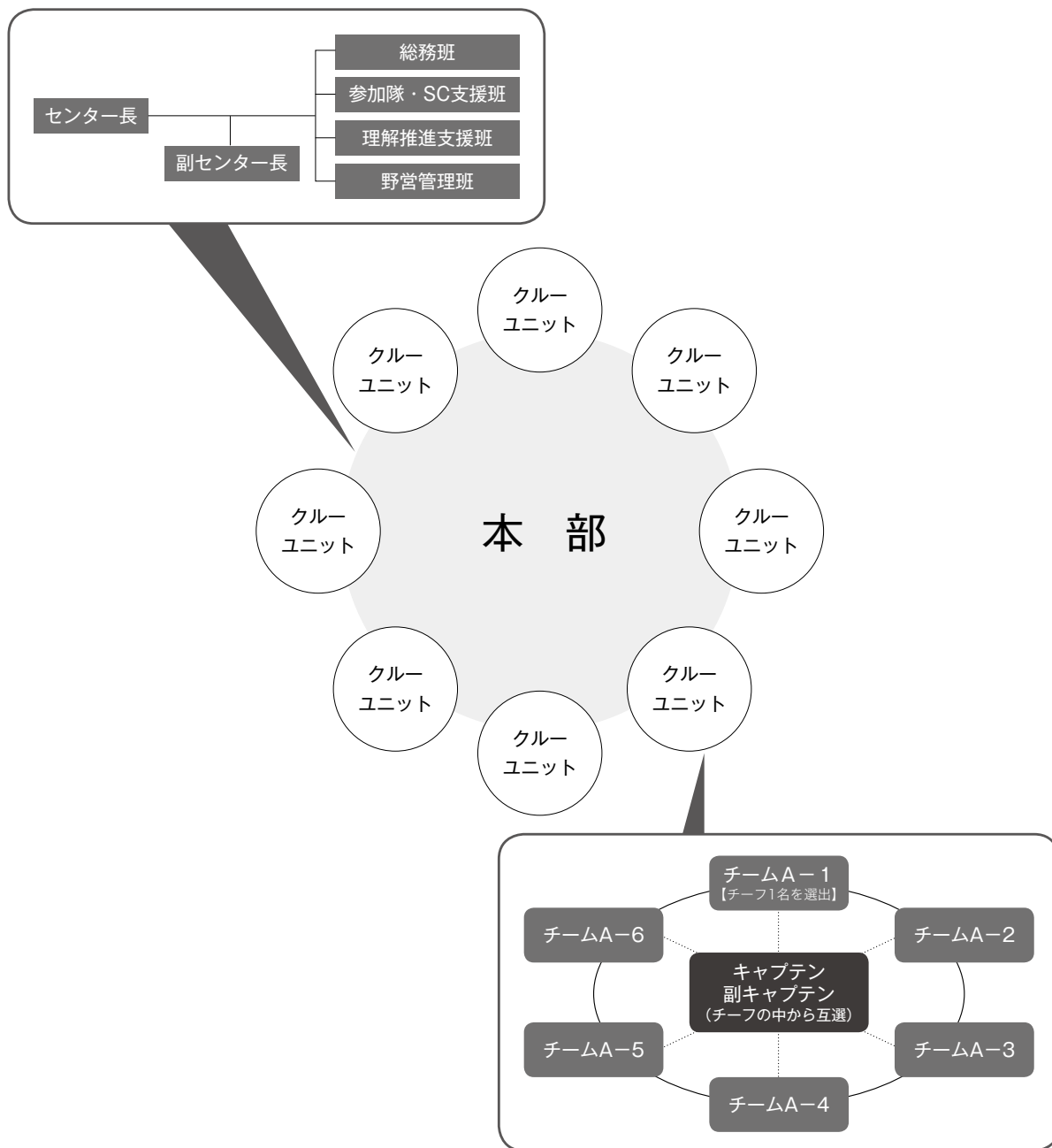
2. 組織

チャレンジクルーセンターは、ベンチャースカウトおよび20歳未満のローバースカウト・指導者で構成されるチャレンジクルーが、参加隊への支援と協働活動、各サービスセンターでの運營業務支援体験、さらに障がいのある方とのかかわりを学ぶ理解推進プログラムによって、大会主旨である共生社会の実現について理解を深めることを目的に設置された。

今大会では所期の目的を達成するため、センター本部として、センター長、副センター長、総務班、参加隊・SC支援班、理解推進支援班、野営管理班を組織し、122人のクルーと34人の成人スタッフでセンターを運営した。



チャレンジクルーの組織と編成



3. 各班の業務

総務班

業務内容

班内に庶務係と調度係の2つを置き、6人の班員で以下の業務を行った。

◆編成業務

大会当日に20歳以上であるかどうかによって、本部員とクルーにわけ、編成を行った。今回の大会では、日本連盟派遣事業のCJKベンチャープロジェクトメンバーをチャレンジクルーセンターで受け入れたが、専門部会での協議の結果、より深い交流と親善を図るため、CJKの編成を解き、完全なクルーの一員として混成編成を行った。しかし、事前にこちらの意図がCJKに全く伝わっておらず、この計画は開会式を迎える前に変更を余儀なくされた。原因は、こちら（NA大会側）が「チャレンジクルー」という参加形態についての考え方、立場、編成の意図などをうまく説明ができず、CJK側にしてみれば、派遣事業の一環で来ているのに完全にチームを解体されたことへの不安を招いたことにあると思われる。

また今回は、未成年ではあるが社会人のRSから、自分たちの立場が分からない。なぜ、子ども扱いされるのかといった疑問や不満も聞かれた。

(1) 本部員編成

事前の配属希望者の年齢構成が比較的均等であり、各班ともにバランスの良い編成を行うことができた。

各班にCJK引率指導者を配置していたが、本業務に入る前に任を解いたため、業務上の支障はマンパワーの問題以外なかった。

「センター長」、「副センター長」、「総務班」、「参加隊・SC支援班」、「野営管理班」の組織体制、役割は適正であった。

(2) クルー編成

前回同様、ユニット制（1チーム3人、6～7チームで1ユニット）を採用した。

確定申込みの時点でCJKを含めた人数が120人を超えることが確定したことから、6つのユニットを置くこととし、各ユニットには次頁の表の通り、夏の日本で観測可能な1等星～2等星の名を愛称として用いることとし、事前研修の中でクルー自身に選ばせた。

会期中は、CJKを単独チームとすることになった影響で、一度チームビルドできたチームを組み替えられるクルーが多く発生し、クルーに多大な迷惑と負担をかけてしまった。

クルーユニット名称				
テーマ：～夏の日本で観られる恒星～				
1	アンタレス	さそり座	1等星	夏に見られる
2	スピカ	おとめ座	1等星	夏に見られる
3	アルタイル	わし座	1等星	夏の大きな三角形（ひこ星）
4	デネブ	はくちょう座	1等星	夏の大きな三角形
5	ベガ	こと座	1等星	夏の大きな三角形（おりひめ星）
6	ポラリス	こぐま座	2等星	北極星
7	CJK	—	—	—

◆庶務業務

(1) 人員管理

しっかりと管理ができていた。クルーの単独行動や所在不明なども数件発生したが、早期に把握できたため、迅速な対応を取ることができ、安全を確保することができた。今大会では、大会日程の改善によって、遅参・早退がほとんどなかったことも、管理がスムーズであった。

(2) デイリーレポートの採用と運用

本部員だけでなく、クルーの意見をセンター運営に反映させるため、以下のレポートと会議によって、クルーを含めたセンター内の意思疎通を図り、運営を行った。

デイリーレポート	
ワーキング デイリーレポート	本部各班で作成し、班長会議で報告
チーム デイリーレポート	各チームで作成し、ユニット会議でチーフが報告
ユニット デイリーレポート	ユニット会議での様子をキャプテンがまとめ、班長会議で報告

会議		
ユニット会議	ユニット内のチーフとキャプテンによる会議。その日の活動報告、評価、要望の集約などを報告協議する	毎日班長会議までに実施
班長会議	センター長、副センター長、本部各班の班長とキャプテンによる連絡会議	毎日30分程度開催
クルー ミーティング	前日の班長会議での決定事項、連絡事項などを伝達する会議	毎朝の活動開始前にユニットごとに実施
班会議	班長会議での決定事項、連絡事項を伝達する会議	毎朝の業務開始前に班ごとに実施

チャレンジクルーセンターの人員

	8月10日	8月11日	8月12日	8月13日	8月14日	8月15日	8月16日
センター長	—	1	1	1	1	1	1
副センター長	1	1	1	1	1	1	1
総務班	2	6	5	5	5	5	5
参加隊・SC支援班	2	10	9	9	8	8	8
理解推進支援班	1	5	5	6	6	5	5
野営管理班	7	10	9	9	9	9	9
CJKスタッフ			3	3	3	3	3
本部員 計	13	33	33	34	33	32	32
UNIT	8月11日		8月12日	8月13日	8月14日	8月15日	8月16日
	人数	CJK	人数	人数	人数	人数	人数
アンタレス	21	3	18	17	17	17	17
スピカ	19	4	15	15	15	15	15
アルタイル	20	5	15	15	15	15	15
デネブ	20	3	17	17	17	17	17
ベガ	21	4	17	17	17	17	17
ポラリス	21	4	17	17	16	16	16
CJK			23	23	23	23	23
クルー 計	122	23	122	121	120	120	120
センター総数	13	155	155	155	153	152	152

入退場記録

		8月10日	8月11日	8月12日	8月13日	8月14日	8月15日	8月16日
入場数	本部員	13	20	0	1	0	0	0
	クルー	0	122	0	0	0	0	0
	総数	13	142	0	1	0	0	0
退場数	本部員	0	0	0	0	1	1	32
	クルー	0	0	0	1	1	0	120
	総数	0	0	0	1	2	1	152

◆調度業務

(1) 備品管理

センターで供与、貸与を受ける資材備品の調達・管理について、一元管理を行った。供与・貸与元である総合SCとの連携がうまくいかず、必要備品が入手できるのかどうか、また、入手できるとわかってからも、その確保までに時間を要した。今後の課題として、センター間での実務担当者による事前協議が必要である。

(2) 福利厚生

今大会では、本部員の福利厚生費用を捻出するための部費を徴収し、飲料・副食・親睦費・記念グッズ代などに充てた。

(3) 本部設備

今回は、クルーサイトと本部が一体化して設置できたことが何よりもよかった。

クルーサイトを含めた生活インフラについても、事前に十分な増設工事を施してもらえたため、快適な生活環境を提供することができた。

また、本部エリアも天候に左右されにくい場所を十分に確保できたので、荒天時においても混乱をきたすことなく、余裕をもち運営にあたれた。

ただ、欲を言えば、クルーにはもっと広い野営地を確保できるとよかった。

課題

▶ クルーの年齢区分

クルーは、昨今の社会情勢を鑑みても、スカウトの隊区分から見ても、18歳で区分（ベンチャースカウトのみ）するほうが、良いように思う。

▶ 別事業参加者の受け入れについて

チャレンジクルーは通常の大会参加者ではない部分が大きく、最初からアグーナリーに参加を希望するものでなければ、理解しづらい参加形態である。

今後の受け入れについては、大会参加前に十分な説明と同意が必要。安易な受け入れは避けるべき。

▶ 関係SC担当者との事前実務協議の必要性

▶ センター内の危機管理体制と行動計画の整備

大会本部との危機管理体制に問題はなかったが、問題発生時におけるセンター内の命令系統や対応マニュアルが十分策定されてなく、その場での判断で行動せざるを得なかった。

参加隊・SC支援班

業務内容

班内に参加隊支援係とSC支援係の2つを置き、10人の班員で以下の業務にあたった。

◆ 参加隊支援

各参加隊の実状に合わせ、期間を通じて活動やプログラムへの参加が滞りなく行えるように、また、クルーが啓発的体験として、これに十分関わるができるように、クルーの派遣にかかる支援・調整を主な業務とした。

◆ SC業務支援

大会を通じて、各サービスセンターの業務が円滑に行われ、クルーが啓発的体験として、これに関わるができるように各サービスセンターの実状を把握し、派遣調整業務を行った。

事前準備について

◆ 評価

参加隊および各SCに対して事前にクルーへの理解をもっと積極的に図りたかった。

- ・ チャレンジクルーの参加意義やお願い、留意事項等の事前案内
- ・ 奉仕に行った場合の受け入れ側の対応
- ・ 上記を理解してもらった前提でのクルー希望人数アンケート

参加隊についての事前情報をもっと積極的に入手すべきであった（障がいの参加者の有無、障がいの種類、など）。

宿泊場所についての情報も大会前に入手しなかった。

会期中の状況

◆評価

- ・事前の情報入手不足により、参加隊や各SCに対し、適切な配属ができなかった。
- ・スタッフが会場を巡回しながら随時本部へ情報を入れたことは臨機応編な対応につながった。
- ・一般参加、CJKの対応が難しく、調整に苦労し結果的にクルーにも負担となってしまった。

課題

- ▶参加隊や各SCへの、チャレンジクルーの参加意義の理解促進
- ▶チャレンジクルーの参加意義を理解したうえでの、事前アンケートの実施。
- ▶チャレンジクルーの参加意義を理解したうえでの、配属先でのジョブマッチングの状況把握。
- ▶参加隊・SC支援班スタッフにはチャレンジクルー経験者が必要。

理解推進支援班

業務内容

班内にカウンセリング係とプログラム係を置き、クルーへの理解推進プログラムの提供や、チャレンジクルーとして活動に携わるうえでの悩みや問題を解消するためのカウンセリングを中心に、6人の班員で以下の業務を行った。

◆事前研修

今大会では、クルーへの事前研修に加え、安藤センター長による全ての本部スタッフ全員に対する理解推進プログラムの提供も行った。

事前研修Ⅰ	8月11日 14:00～16:00	オリエンテーション チームビルド
事前研修Ⅱ	8月11日 19:00～21:00	本部スタッフおよびチャレンジクルー全員を対象とした研修
事前研修Ⅲ	8月12日 9:00～11:00	導入訓練

◆技能章講習会

ベンチャースカウトを対象として、以下の技能章講習会を行った。看護章については、時間的な制約もあったため、履修細目を限定した講義内容とした。

コース	主任講師		受講者数	
	所属	氏名	午前	午後
手話章	愛知	新川智康	36	23
看護章	静岡県	斉藤珠美	24	26
介護章	大阪	上島敦子	27	18

◆クルーディスカッション

8月15日の19:00～21:00に実施した。

過去の大会においては「クルーフォーラム」として実施していたプログラムだが、『討議』によって『クルー相互の理解』と『共生社会への理解』を深めることを主眼に、ユニットごとにプログラムを実施した。

成果は、閉会式に各ユニット代表者がステージで発表を行った。

野営管理班

業務内容

班内にクルーサポート係とサイトマネジメント係の2つを置き、10人の班員で、クルーの野営生活に関する支援と管理を主とする以下の業務を行った。

◆クルーサポート

野営生活におけるクルーの健康と安全管理指導、親善プログラムの企画立案実施など、生活面におけるクルーへのサポート業務を行った。

◆サイトマネジメント

チャレンジクルーセンター本部・クルーサイトの管理・整備、野営資材の管理運用。

準備状況について

◆評価

係長へ事前に情報を提供できたため、現地ですぐに担当作業を行っていただく事が出来た。また事前に班員へ宿題を出し、班の一員としての意欲を高めることができた。

会期中の状況

◆評価

〈サイトマネジメント〉

- ・サイト内を見てクルーへのアドバイスや激励をすればよかった
- ・緊急避難時の安全確保に力を注げなかった
- ・貸出確認表は有効

〈クルーサポート〉

- ・RSに責任や企画を立案させることで運営側とクルーとの衝突もなく無事終わることができた
- ・運営側のRSがクルーとフレンドリーになることは良いが、本来の業務が疎かになり全体が見えなくなっていた
- ・各ユニット担当者を配置することでキャプテンへの負担は軽減された反面、ユニット全体への目配りが薄くなった
- ・インフォメーションボード設置により、定期スケジュールと刻々と追加される情報をクルーが把握できた

課題

- ▶ 事前にクルーサイトの詳細情報を確認することが必要
- ▶ チャレンジクルーの障がいの有無の情報共有

- ▶ クルーのテントサイトが狭かった、大きな広場が必要（会場の選定とも関連）
- ▶ RSの自主的参画の促進と先輩RSと若手RSの継承

4. 総評（センター長 安藤正紀）

● 「チャレンジクルーは参加者です」

チャレンジクルーは、以前のジャンボリーでの奉仕隊とは違います。

将来の日本の共生社会を担う、ベンチャースカウトたちは、自分の意思でアグーナリーに参加し、障がいのある子どもたちと共にキャンプ生活をし、障がいを理解しようとしているのです。

だから、かれらのプログラムは3つの側面から成り立っています。①「基礎的知識を学習することを通して、障がいを理解する」②「共にキャンプ生活する体験を通して、障がいや支援の仕方を理解する」③「大会の運営の支援を通して、障がいや支援の仕方を理解する」

各SCのスタッフの皆さんや参加隊の指導者の皆さんは、この意義を理解していただき、クルーを見守り、指導していただけましたでしょうか？

● 「教育団体は多様なすべての人間の人権を尊重します」

それには学習が必要です。「障がい者」はその多様なすべての人間のほんの一部です。「子ども」「女性」「高齢者」「患者等」「同和問題」「外国籍」「ホームレス」「犯罪被害者等」「アイヌの人々」「拉致問題」。地域や文化によって、支援の必要な方々や、共生社会の在り方は違います。従って、障がいの理解には「知識」と「共に生活する中で、一人ひとりの困り感やニーズを体験的に学ぶこと」が必要となります。今回のアグーナリーでは、大会スタッフとチャレンジクルー全員による研修を実施しました。これを機会に、学びを積み重ねていきましょう。

● 「共生社会は協働作業」

大会の企画と実施には、さまざまな方の困り感とニーズを知る必要があります。障がい当事者の方の意見を伺うことから、共生社会が始まります。



実行委員会

1. 名称：第12回日本アグーナリー実行委員会
2. 任務：1. 12NAの準備ならびに運営に必要な事項の審議と議決、具体的諸計画の推進に関すること。
2. 部門別専門事項の準備ならびに実行・運営に関すること。
3. 関係官庁・機関、諸団体および地元県・市・町との連絡調整に関すること。
4. 12NA特別予算の編成ならびに執行に関すること。
5. その他12NAの準備・実施に関する一切の事項。
3. 任期：事業を終了し、所定の報告を終わるまで（平成29年3月末）
4. 会議の開催
 - 第1回 平成27年6月27日（土）～28日（日）静岡・県立富士山麓山の村
委員長他委員8人、参席1人
主な協議事項 基本構想／会場利用計画／予算／委員の役割分担／大会シンボルマーク公募／今後の準備
 - 第2回 平成27年10月4日（日）東京・ボーイスカウト会館
委員長他委員10人
主な協議事項 シンボルマークの決定／基本実施要領の策定／申込み手続き／現地説明会の開催／会場利用計画／専門部会の編成／今後の準備内容
 - 第3回 平成28年2月11日（木・祝）東京・ボーイスカウト会館
委員長他委員10人
主な協議事項 確定申込み／一般募集／デイビジター／現地説明会／安全管理体制およびセーフ・フロム・ハームの取り組み／各種会議体／富士のタバ／製作物／専門部会の進捗状況および提案・調整事項 他
 - 第4回 平成28年4月3日（日）東京・ボーイスカウト会館
委員長他委員9人、参席1人
主な協議事項 大会規模・会場利用計画の見直し／来場手段および駐車場／確定申込／一般参加・サポートスタッフ募集／デイビジター募集／現地説明会／富士のタバ／安全管理ハンドブック／専門部会の進捗状況および提案・調整事項
 - 第5回 平成28年4月17日（日）静岡・富士山麓山の村
委員長他委員6人
主な協議事項 現地説明会を受けて各専門部会での取り組み事項確認／大会規模の確定／安全管理 他
 - 第6回 平成28年6月26日（日）東京・ボーイスカウト会館
委員長他委員11人、参席1人
主な協議事項 会場利用計画／大会予算／識別帽／参加者への配慮／本部スタッフの配属／参加者への送付物／デイビジター募集／参加者アンケート／報告書・記録映像の作成／各専門部会からの提案・調整事項／今後の会議日程
- 正副実行委員長会議 平成28年7月21日（木）東京・ボーイスカウト会館
正副実行委員長3人、参席1人
主な協議事項 準備状況（参加者・デイビジター・通知・来場者・会場利用計画・備品）／今後の予定／その他調整事項（参加費の返金・安全管理ハンドブック・行方不明対策）

第7回 平成28年12月3日（土）東京・ボーイスカウト会館

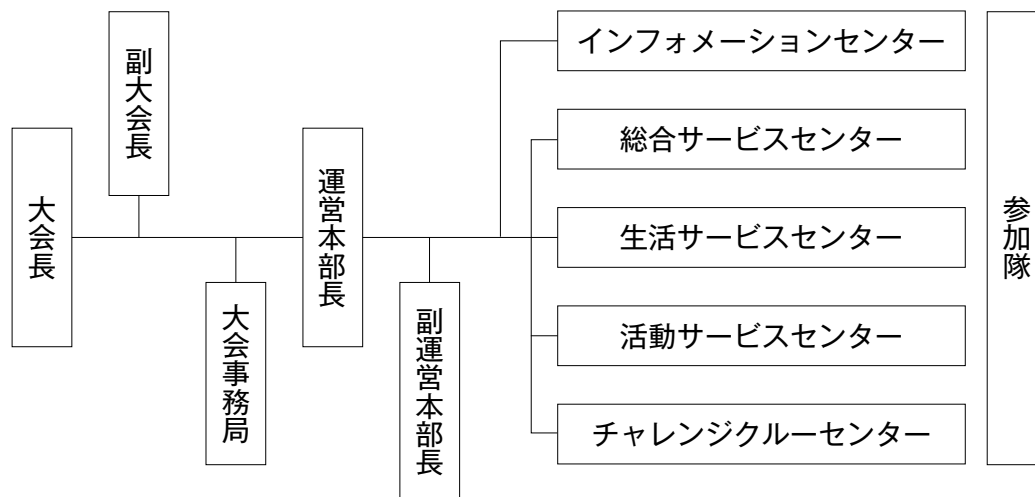
委員長他委員9人、参席1人

主な協議事項 報告書／記録映像／報告書・記録映像の配布先／収支決算／評価
／次回大会へ向けての提言

5. 実行委員会委員

No.	役 務	氏 名	県連盟	役務等（※委嘱時の役務）
1	委員長	膳 師 功	大 阪	日本連盟理事・日本連盟コミッショナー
2	副委員長	津 田 繁	京 都	日本連盟安全委員会委員長
3	副委員長	仲 田 始	静 岡	静岡県連盟副理事長
4	委 員	安 藤 正 紀	神奈川	神奈川連盟理事
5	委 員	植 田 明 子	静 岡	県連盟副コミッショナー
6	委 員	鬼 頭 宏	神奈川	神奈川連盟理事
7	委 員	櫻 井 康 博	東 京	地区副協議会長
8	委 員	中 川 玄 一	神奈川	神奈川連盟理事長
9	委 員	西 田 俊 幸	大 阪	地区コミッショナー
10	委 員	増 子 恵 二	福 島	日本連盟理事、福島連盟理事長
11	委 員	村 松 武 博	静 岡	静岡県連盟副理事長
12	委 員	村 山 大 介	東 京	県連盟副コミッショナー

6. 大会本部組織図



部署	所掌業務
インフォメーションセンター	参加者への情報提供ならびに各種調整に関すること 一般参加者の支援に関すること
総合サービスセンター	総務、広報、国際、輸送、施設・資材に関すること
生活サービスセンター	参加者の野営・舎営生活、配給・本部食堂、応急手当に関すること
活動サービスセンター	全体行事、場内外プログラム、信仰奨励、参加者の交流
チャレンジクルーセンター	大会本部各センターの支援と参加隊の支援に関すること 本部スタッフの事前研修に関すること

7. 現地説明会の実施

第12回日本アグーナリーへの参加を希望する指導者が集い、会場施設の視察と生活やプログラム等の計画について説明を行うとともに、障がい児スカウティングに関する情報交換ならびに相互理解を深め、12NAへの参加や活動の取り組みについて意見交換を行うために、下記の通り現地説明会を実施した。

日 時：平成28年4月16日（土）～17日（日）

会 場：静岡・富士山麓山の村

参加者：参加指導者15県連盟32こ団 41人、12NA実行委員会・専門部会委員 20人、
日本連盟事務局7人の計68人

内 容：

<4月16日(土)>

時間	内 容
14:00～14:30 (30)	概要説明1 (1)実行委員長挨拶 (2)実行委員自己紹介(および参加者) (3)概要説明(資料確認、日程、会場利用計画)
14:30～16:30 (120)	会場視察 多目的ホール→浴室棟→管理棟→給食棟→第1緑陰広場→各宿泊棟→多目的広場→ 野外炊事棟→第2緑陰広場→各宿泊棟→大駐車場→多目的ホール
16:30～18:00 (90)	概要説明2 (1)副実行委員長挨拶 (2)参加者自己紹介 (3)総合サービスセンター説明 (4)チャレンジクルーセンター説明 (5)質疑応答
18:00～19:30	オリエンテーション・チェックイン・夕食
19:30～20:50 (90)	概要説明3 (1)生活サービスセンター説明 (2)活動サービスセンター説明 (3)質疑応答
21:00～	就寝準備・懇親会・シャワー・就寝

<4月17日(日)>

時間	内 容
07:00～09:00	起床・洗面・寝具片付け・朝食・チェックアウト
09:00～10:00	概要説明4 (1)予定申込状況 (2)参加確定申込から資料等の事前送付について (3)質疑応答 解散

第12回日本アグーナリ－専門部会編成（ ◎：部会長 ○：副部会長 ）

専門部会	役 職	氏 名	所属県連盟
インフォメーション センター	センター長	櫻 井 康 博	東 京
	副センター長	柴 田 潤 二	静 岡
	副センター長	宮 崎 賞 人	静 岡
総合サービスセンター	センター長	◎ 村 松 武 博	静 岡
	副センター長	○ 鬼 頭 宏	神奈川
	副センター長	○ 増 子 恵 二	福 島
	総務班長	脇 坂 英 子	静 岡
	広報班長	大 里 葉 子	京 都
	広報班次長	川 島 一 郎	静 岡
	国際班長	松 田 茂	静 岡
	輸送班長	鈴 木 均	静 岡
	施設資材班長	野 田 由 男	静 岡
	施設資材班次長	諫 山 清	東 京
生活サービスセンター	センター長	◎ 西 田 俊 幸	大 阪
	副センター長（舎営・野営班担当）	○ 中 川 玄 一	神奈川
	副センター長（食堂・庶務・救護班担当）	○ 黒 田 茂	兵 庫
	野営管理班長	池 口 毅	大 阪
	舎営管理班長	井 上 裕 雄	奈 良
	食堂班長	富 田 光 一	大 阪
	庶務・救護班長	兵 井 く み	大 阪
活動サービスセンター	センター長	◎ 村 山 大 介	東 京
	副センター長	○ 植 田 明 子	静 岡
	総務班長	○ 鈴 木 武	兵 庫
	全体行事班長	山 本 慎太郎	東 京
	全体行事副班長	高 橋 克 広	埼 玉
	場内プログラム班長	比地原 直 美	東 京
	場内プログラム副班長	笹 淵 真 子	千 葉
	場内プログラム副班長	平 野 嘉 彦	愛 知
	場外プログラム班長	杉 山 邦 宏	静 岡
	場外プログラム副班長	白 井 豊 章	静 岡
チャレンジクルー センター	センター長	◎ 安 藤 正 紀	神奈川
	副センター長（総務班長）	○ 河 村 賀 久	山 口
	参加隊・SC支援班長	風 間 博 行	神奈川
	理解推進支援班長	中 村 之 一	愛 知
	野営管理班長	小笠原 佳名子	静 岡



1. 参加者から届いた手紙

福岡県連盟福岡第27団 団委員 藤田 良

今回アグーナリーに初めて参加をしました。

いつもの気持ちでスタッフとして活動をしました。僕の担当場所は総合サービスセンターを担当として皆さんと一緒に活動を致しました。

総合サービスセンターでは参加者 見学者 来賓者の受付や駐車場誘導などを行っていました。当日、参加隊の方が貸切バスでこれ僕らはバスに行き、受付の案内や自分たちで荷物を持って行く参加者もいれば、業務用の車に荷物を乗せて運ぶその車に乗せるお手伝いをしました。

朝食に行く時、通る時に笑顔な気持ちで「おはようございます」と言うと「おはようございます」と言って来て勇気が貰えるぐらい嬉しくなり今日も活動を頑張るぞと思いました。

そして、朝御飯を食べ終わって担当のテントの場所へ行きました。班長さんが僕に昨日の全体の会議で僕が参加者の荷物を乗せてた事を日本連盟の方が話していたと聞いた時、僕は嬉しくて今日も頑張ろうと思いました。その日は参加者の受付 業務用の電話の対応もしていましたらその時電話の対応が上手いね、と言われ嬉しかったです。それで1日テントで受付や案内業務などをやっていました。

夕方 国際の夕べへ行きました。ここでは海外の参加者の出し物で演奏や踊りなどがあり、中にはみんなで肩を持って皆さんと一緒に踊りながら楽しみました。その後、筋ジストロフィーの方の1人の方が歌をご披露しました。2曲目の歌はその方が以前入院をされていた病院で同じところの方が歌を作ったが長くは生きられないので代わりにその歌を歌っていました。その曲を聴いて心にジーンと来ましてとても良かったです。最後に障がい者のスカウト方達によるアグーナリーの曲を手話をしながら歌いましたが、僕は手話が出来ないので歌うだけでした。僕は演奏をした方達の演奏を聴いて本当に上手くて感動をしました。

最後の夜に富士の夕べ盆踊り大会があり時間を貰って見に行きました。その時皆さんと一緒に踊りながらその時いろんな障がい者の方とあって交流をしました。最後の夜は楽しい夜を過ごせて良かったです。

最終日の朝、スタッフ用の服に着替え朝食へ行った時、今日は閉会式なので最後は制服に着替え気持ちよく閉会式を迎えたいと思着替えテントへ行きましたらスタッフの方がせっかくだったら閉会式行ったらと言われありがたく受け取め、閉会式に参加を致しました。

閉会式では、障がい者の参加者がステージに上がり今回の感想を発表していました。その中である障がい児の感想が印象に残りました。今回はいろんなブースがあり作ったり体験をする中で、次回のアグーナリーはチャレンジクルーのスタッフをやりたいと思ったと発表していました。え〜すごい、スタッフになってみんなに教えるほ

うになりたいという言葉聞いてすごく感動しました。そして、みんなで手を繋ぎ大きな輪を作り最後に皆さんで手を繋いでアーチを作り参加者をお見送りしました。僕は笑顔で挨拶をしていましたが段々僕まで涙がでました。この5日間アグーナリーの中で障がい者がいろんなチャレンジをしたこと、そしていろんな方にアグーナリーの良さが伝わり学べたと思います。

そして、最後まで頑張りがかったのですが、九州なので時間がかかるのでちょっと早めに帰ることの許可を言われていたので、帰りの準備をして皆さんに挨拶をしようと思ったら、僕が呼ばれみんなが集まり何か〜と思ったら「今から感謝状を授与します。」と言われ皆さんの前で感謝状を頂きました。

貰ったとき今回、スタッフとして参加をして嬉しかったと思いました。最初は、自分には障がいがあって、一番の心配な事は障がい者だからしないで良いと、言われ僕がなにも出来なくなるのが心配でした。でも皆さんが本当に同じ仲間として一緒にやってくださりました。アグーナリーでいっぱい学べました。

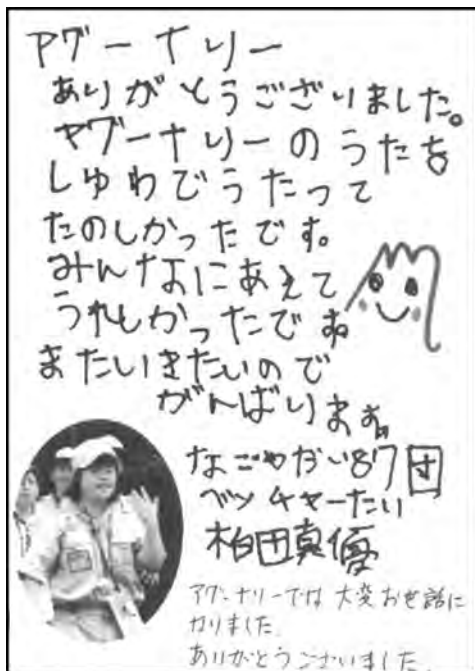
今回、皆さんと楽しく頑張る事が出来て良かったです。

人間は必ずできる事がある
人間はできない事もある
できる事は積極的にやっていきたい
できる事を増やしていきたい
「障がい」者だからといって、
できない事はない

参考：藤田良さんの平成27年
久留米市報に掲載された
「人権メッセージ」

愛知連盟名古屋第87団
ベンチャースカウト
柏田 真優

一般参加者の保護者



今回、学校から配られたアグーナリーのパンフレットを拝見し、子供には色々な事を体験させてあげたいと思う気持ちが常に強くあったので、すぐに参加させたいと思ったが、子供は障がい（知的・多動・衝動性など）や持病があり、旅行なども大変なため、キャンプなどにも行ったことがないので、正直、不安もかなりあったが、参加させていただくと、スカウトやスタッフの方々が、障がいのある子や親にまでも本当にきめ細かい心のこもった配慮をしてくださり、どれだけ助けられ、安心して毎日を過ごすことができたか、はかり知れません。無事に4泊5日を、子供の笑顔と共に過ごせたことを本当にうれしく思った。そして、この経験を通して、子供もほんの少しですが「お兄さん」になった感じがした。

2. 会場でのインタビュー

(1) 参加目的は？

- チャレンジクルー 岐阜県連盟岐阜第8団 後藤 真実
特別支援教育を勉強しているので、そのための体験をしたいと思い参加しました。
- 大会スタッフ 愛知連盟一宮第5団 佐藤 愛来
今、看護学部の学生で、将来看護師になりたいと思っているので、いろいろな人と関わって行って、たくさん学びたいと思って参加しました。
- 大会スタッフ 神奈川連盟横浜第30団 田丸 りほ
将来、教育関係に携わろうと考えているので、たくさんスカウトと交流したい。また、大会は特別支援活動にも関係しているので、それを学びに来ました。
- 参加隊 兵庫連盟尼崎第25団 橋本 幸
友だちを作りたい。外国隊との交流が楽しみ。
- 参加隊 兵庫連盟尼崎第25団 船谷 有花
オーストラリアやシンガポールのスカウトと友だちになる。
- 参加隊 兵庫連盟尼崎第25団 谷口 壮一
みんなと仲良くしたい。
- 参加隊 兵庫連盟尼崎第25団 鈴木 千遥
みんなと友だちになりたかった。

(2) 将来の夢は？

- 大会スタッフ 京都連盟京都第24団 吉村 和馬
今、社会福祉の勉強をしていて、将来は社会福祉士になりたいです。
- 参加隊 シンガポール リム
たくさん国を訪問したいし、将来はキャビンアテンダントになりたいです。
- 参加隊 岐阜県連盟多治見第1団 富井 睦子
アグーナリーのチャレンジクルーをやりたいです。

(3) チャレンジクルーが考える共生社会とは？

- 大阪連盟堺第25団 永野 朱音
実際に障がいがある方と話し、何もできない訳じゃなく、少しだけできないことがあるだけということを学びました。困っている時お互いに声をかけやすい工夫、例えば、サポーターバッジやリングを作ることなどが必要だと感じました。
- 神奈川連盟川崎第46団 高橋 主樹
理解を深めることがすごく大切だと思います。見ること、聞くこと、実際に触れ合っ
て交流したり経験することを通して、みんなと一緒に生活できる共生社会に近づいてい
けるのではないかと思います。
- 奈良県連盟北葛城第1団 松田 明音
その人の個性をもっと大事にするのと、その人のペースにちゃんと合わせてあげることが一番大事だと思いました。共生社会というのも、そのようなことを大事にしたらもつ
と良くなると思います。

■大阪連盟大阪第140団 小傳茂 元貴

今回参加するまでは、障がい者は違う世界の住人のような感覚でいましたが、実際には意思疎通もちゃんとできるし、もっと身近な存在だと気がついたので、それぞれがもっと知っていく必要があるのかなと思います。

■大阪連盟枚方第9団 川口 義之

共生社会に必要なのは、優しさとか、人間性とか、いわゆる人間らしさだと思います。優しさとか親切とか、スカウトのおきてにも関わってくるので、今後もスカウト活動を頑張っていこうと思います。

■大阪連盟高槻第4団 小馬 加奈子

一人ひとりが思いやりの心を持って支援し、そして、障がい者と関われる機会がもっとたくさんあれば、気持ちも分かって、いい社会になっていくと思います。

■滋賀連盟蒲生第2団 平田 嘉佑

障がい者と呼ばれる方々も健常者と呼ばれる方々も、ほとんど変わらないことがこの大会を通じて分かりました。個性を大事にして、理解を深めることが大事だと思いました。

■大阪連盟大阪第11団 中島 稜

普段の生活から、身の回りの人の助けになればよいと思っている。

■長野県連盟立科第1団 中谷 朋輝

一人ひとりが相手にどう接したらよいか、優しさの心を持って、自分たち一人ひとりが考えていったら、よい社会になると思います。

■静岡県連盟大仁第1団 山口 登也

参加隊の奉仕として障がいのある方と関わりましたが、障がいのある方は伝えることが難しいので、何をしたいかなど、僕たちが理解し、自分から歩み寄ることが必要だと思いました。

■神奈川連盟横浜第30団 菊池 光政

いろんな障がいがあることを理解することが一番大切だと感じています。本大会も個性を大切にできる、理解できるということで開催されています。理解を深めたうえで、みなさんと活動していくことが大切だと感じています。



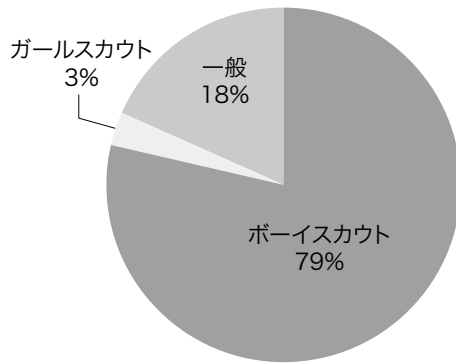
3. 参加隊長アンケート集計

対象者：大会に参加した参加隊長66人に郵送

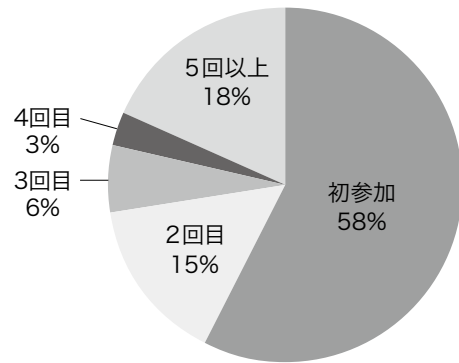
提出人数：33人（回収率50%）

※自由記述のご意見は紙面の関係で抜粋させていただきました。

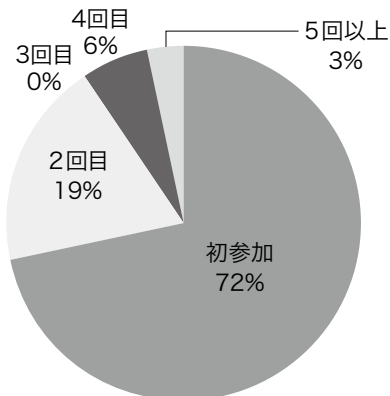
問1 あなたの団は



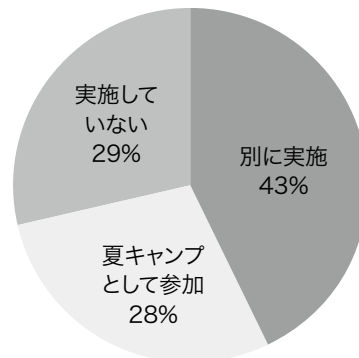
問2 あなたの団(隊)のアグーナリー参加回数



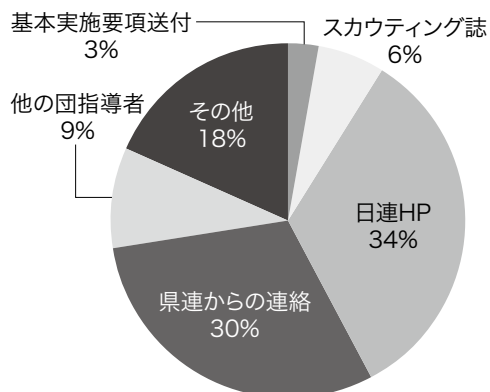
問3 あなたのアグーナリー「参加隊長」としての参加回数



問4 あなたの団(隊)はアグーナリーと別に夏期キャンプを実施しましたか

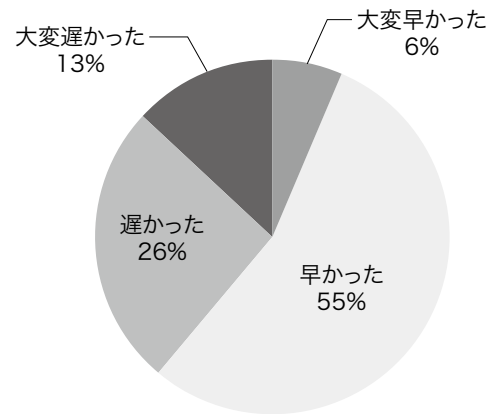


問5 あなたの団(隊)は第12回日本アグーナリーの開催を何で知りましたか



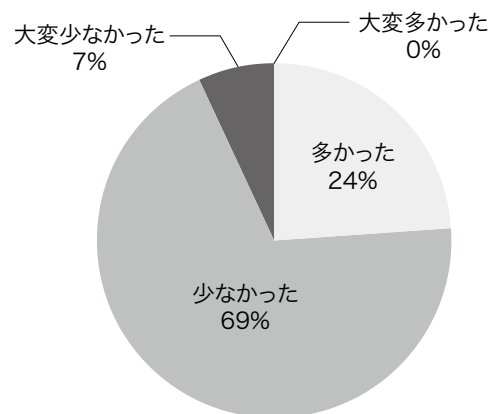
問6 事前情報の提供時期について

- 配慮の必要な子には長い準備期間がほしい。
- ホームページでの内容が充実。
- 日本連盟の発表は早いですが、県連、団と伝達されて、末端の指導者やスカウトに伝わるのが遅い。
- ホームページで見、下見参加の日程などを調整した。
- ホームページを見て、更新されていないかチェックするが、更新されていなくて心配した。
- 特に、場外プログラムの情報などが出発前には把握できなかった。
- 特に不都合は感じなかった。



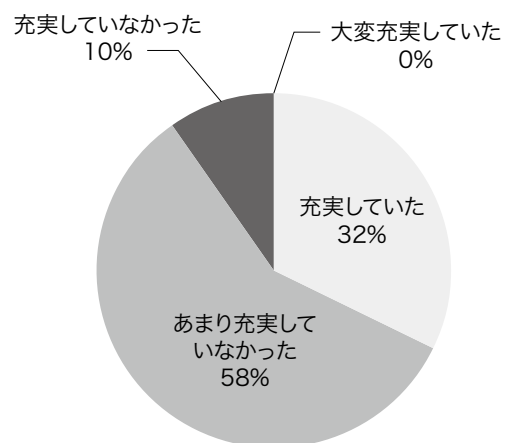
問7 事前情報の量について

- 配慮の必要なスカウトへの主なサービスが書いてあると良い。
- 移動サービス、チャレンジクルーの手伝いが事前に分かっていたらもっと良かった。
- ホームページでの内容が充実。
- 「移動」と「周辺情報」この2つをお願いする。最終日の弁当事件等、言葉が足りない。
- 事前情報の量は普通と思う。
- 特に不都合は感じなかった。
- 場外プログラムに関してもう少し詳しい説明が欲しかった。



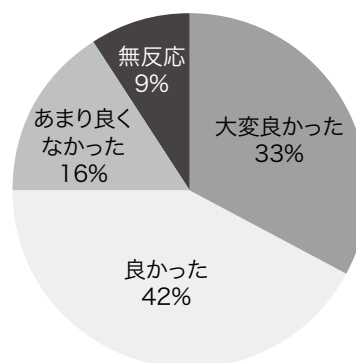
問8 事前情報の内容について

- ホームページでの内容が充実。
- 会場が冬期閉鎖されていたのでしかたないですが、現地見学会も済まないうちに申込期限はきつい。
- 確定情報が直前（大会中?）でした。
- 内容について細かく理解しやすく。
- 場外プログラムの内容や、配給等については少なかったように思う。
- 大会の概要が解るものだった。
- 事前説明会に参加し、情報・意見を聞けた。



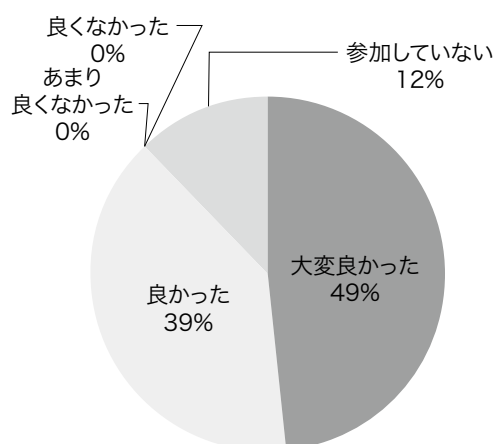
問9 開会式・閉会式について

- ・開会式は良かったが、閉会式での輪は意味不明だった。(写真の為?)
- ・各隊の隊旗入場、とても素晴らしかった。
- ・手話の必要な方が少なかったのかもしれないが、手話もあるべきだと思う。
- ・閉会式は、ボーイスカウトの連帯感を感じることができ良かった。
- ・隊旗入場で旗がじゃましてステージ上が見えにくかった。
- ・共生する大会と考えるうえで、誰が主人公というアピールに不足する(開会式)。
- ・特に閉会式のフィナーレは感動的だったと思う。



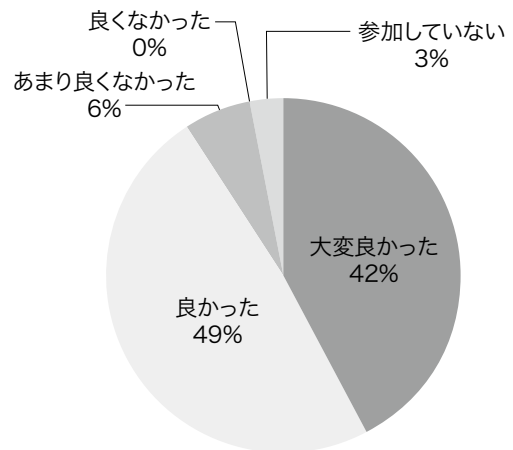
問10 国際交流の夕べについて

- ・出演団体としては、直前まで何の情報もなく、せめて待ち時間だけでも知らせてほしかった。
- ・国による違いがよく分かり、日本のスカウトにとっても多様なスカウトの姿がみられてよかった。
- ・手話通訳か要約筆記などはあっても良いのではないか。
- ・海外スカウトを初めて見る子ども達ばかりで楽しんでいた。
- ・プログラムの内容は、工夫次第でもっと良くなるが、進行がスムーズで、何よりも各国のスカウトの演技は見ていて楽しかった。
- ・障がい児スカウトが非常に楽しく参加できた。
- ・一方通行になっていた面があったのではないか。外国スカウトに日本を理解してもらうような取り組み(日本からも1~2グループの出演)があっても良かったのではないか。



問11 富士の夕べについて

- 数に限りがあるのはわかりますが、せめて引率リーダー分くらいは用意していただきたい。
- 内容は非常に充実。天気だけ残念。
- 雨の中、そうそう楽しめるものではない。チケット方式にして、並ぶ時間を短くしないと。
- スカウト達は、それなりに楽しんでいましたが、配慮の必要なスカウト、特に発達障がいなどの精神的障がい者に対する配慮が不十分だった。
- お金のやり取りなく、どのコーナーも楽しめるなんて、スカウトたちには夢のような時間でした。それを見ているだけでも充分大人も楽しめた。関わられた皆様に感謝。盆踊りやステージも良かった。
- 地元の方々が一生懸命盛り上げてくださり、スカウトも喜んでいました。
- 雨で最後が少し残念ではあったが、多くの方々が楽しんでいました。特にクルーたちが解放され楽しんでいる感じがあった（ご苦労様という気持ちになった）。



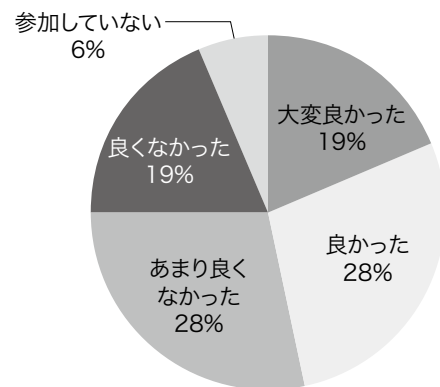
問12 場外プログラムについて

<A：富士山のおへそ辺りを歩いてみよう>

- 障がいのあるスカウトも皆さんの支えもあって歩ききることができた。宝永山ルートとはいえ、富士山に来たという実感をみんな感じた。
- 昼食のお弁当がハイキング前に配付された。輪ゴム1本でふたがされていたので、何人かは中身がザック内にこぼれていた。おにぎり等への変更が必要では？と感じた。

<B：第13回世界ジャンボリーの地めぐりと牧場体験>

- 牛とのふれあいや、搾乳体験などがあると期待していたが、大人向けの企業説明のようで、子供には不向きに思えた。
- 世界ジャンボリー記念碑は、年配の者にとっては感慨深いものであるが、一般参加者には「？」レベル。45年前開催の大会を懐かしく思う人は、ほとんどいなかったように思う。



<C：富士山、やっほー！と叫ぼうと大自然の中で遊ぼう>

- ・コースごとの装備の説明を詳しくしたらどうか？川遊びの場合、水着の着用など具体的アドバイスを入れることでサポートしている方が楽になるのではないのでしょうか。
- ・魚のつかみ取りがあるとは…

<D：世界遺産と盲導犬に出会う旅>

- ・ゆっくり楽しむことができた。
- ・初めて盲導犬の施設を見学できた。

<E：世界遺産に出会う旅>

- ・企画・運営が良く、スカウトのみならず、指導者にとっても学びがあり、良かった。

<F：こどもの国で元気にあそぼう！>

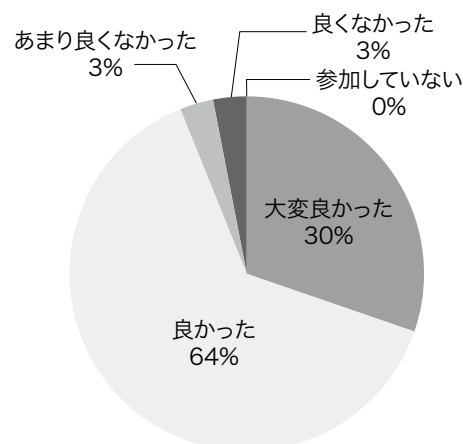
- ・快晴ではなかったが、やまめのつかみどりやゴザ渡りなど、限られた時間のなかで楽しむことができた。
- ・天候不順時の代替プログラムがあると良かった。

<その他>

- ・奉仕の引率リーダーが段取りを把握されていなかったもので、混乱した。特に出発時、雨のなか何の説明もなく、バスに乗車すらさせてもらえず結局出発がおくれ、後の行事がすべて短縮になった。
- ・集合時間と朝食時間が重なっていた。

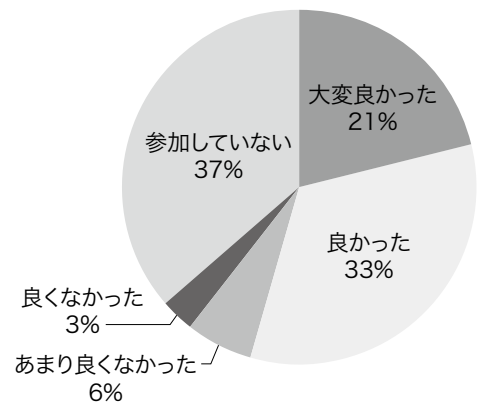
問13 場内プログラムについて

- ・車いす移動の手伝いや楽しませてくれるクルーが多く良かった。
- ・指導者も一緒に作ることができたら良かった。
- ・障がい者理解、共生への取り組みにつながるプログラムが少ない。
- ・学習型、体験型、取りまぜてのプログラムに開催地の特色を織り込んで、よく練られたプログラムと感じた。
- ・なかでもロボット操作には、スカウト達が目を輝かせていた。
- ・種類もたくさんあり、スカウトも満足していました。
- ・「キャップハンディ」楽しみながら障がいに対する理解を深める取り組みは評価したい。地区のプログラムに取り入れていきたい。



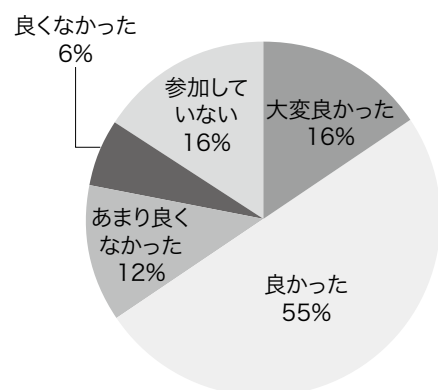
問14 フォーラムについて

- BS・VSは、もっとグループを分けた方が話しやすかったのでは？
- 知的障がいのスカウトが参加したが、進行担当の理解がなかったのか、発言する機会がなく、残念でした。発言はできなくても、質問に答えたり返事をするにはできるので、重度知的障がいのスカウトにも参加できるようなフォーラムにしてほしい。
- 大変有意義な時間なので、もっと時間をとってほしかった。
- 普段聞けない情報交換の場がもてて良かった。
- 参加スカウトが、他のスカウト達の刺激を受けて成長していくきっかけになったと思った。
- 上手く話せなくても司会の先生がしっかりフォローしてくれた。
- 他のプログラムがテーマに取り組むタイプであったのに対し、唯一、自分の考えや思いを表現するというプログラムで、参加スカウトの気持ちに触れることができた。その真摯さに感動した。
- いつも発言しないスカウトも皆の前で発言できるような機会を得られてよかったのではないかと思う。



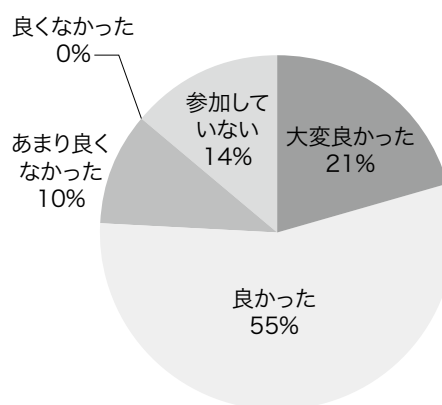
問15 奉仕プログラムについて

- カブ、車椅子でできそうなプログラムがない。
- 奉仕プログラム増やして、みんなが何か手伝える様にしてほしい。
- プログラムをクリアするために奉仕するという事に違和感はあるが、動機付けという意味では良かったかも。
- 丁寧な奉仕説明であり、スムーズに行えている。
- 障がいのある子でも参加できる内容で、自分のできる範囲で精一杯頑張っていた。
- 何か1つでも役立つことをしようと、考えて行動していた。
- 一方的にサービスを受けるのではなく、提供する側になることも必要。奉仕員の大変さを理解させることができたのではないか。



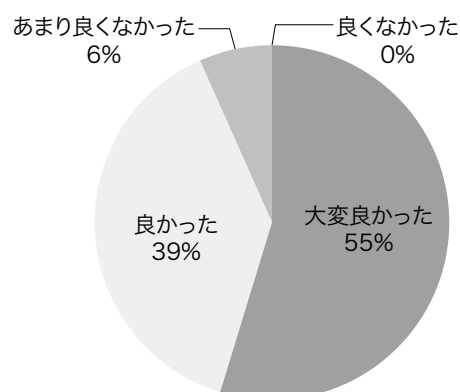
問16 スカウトタウンについて

- 通常通りのスカウトタウンを行ったが、大会・会場の雰囲気が良いので、気持ちがこもっていた。
- チャレンジクルーにスカウトタウンを実施してもらうことができた。
- 役割を分担して、毎日、サイト内で実施した。
- 「スカウトタウンとはかくあるべき」という概念にとらわれることなくできたため、活動中のちょっとした時間にも取り入れたりした。
- 改めて大切さを知った。
- どこで、どんなグループでしているかわからなかった。
- 同じ部屋の方と合同で行ったりして普段と違うスカウトタウンになったのがよかった。



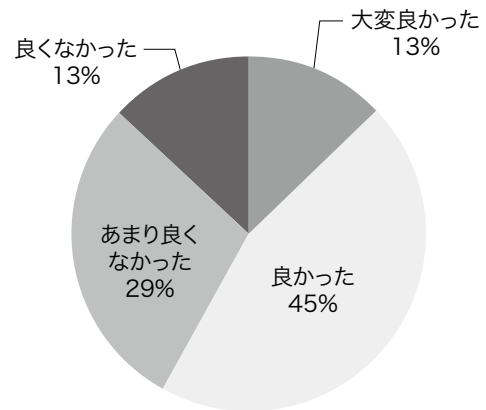
問17 デイアワード・ドリームアワードの取り組みについて

- 日々の活動の喜びと、完修した時の達成感があり、良かった。
- デイアワード、ドリームアワード、両方があることで、効果があがったと思う。
- 1日のしめくくりを行ったあと、授与できたピンバッジはスカウトたちの励みとなっていたようです。
- せっかくがんばったので弥栄以外にアワードのサインも連盟の方で行われるともっと良かった。
- スカウトの状態に応じて選択的に実施できるように工夫されている。達成感を味わえる内容だった。アワードのメダルをじっと見つめているスカウトの姿がとても感動的だった。
- 障がいスカウトの励みになり、各プログラムに挑戦することが楽しく、各プログラムに取り組みをしていた。
- 奉仕では一人ひとりに細かく所感が記入されており、スタッフの意識の高さを感じた。



問18 プログラム申込み・参加方法について

- Web申込みにすれば良いと思う。
- FAXでの申し込みは、今の時代にあっていないと思う。
- 色々な提出物書類が統一されてなく、送付方法もバラバラで混乱し、手間がかかった。
- 申し込みが必要なプログラムの内容がわかりにくく、どんなスカウトに向いているのか判断できなかった。
- 特に不都合は感じなかった。
- 指導者の申込みできないプログラムは納得できず。
- やむを得ないこととは思うが、場外プログラムの事前通知（参加前）があれば良かった。

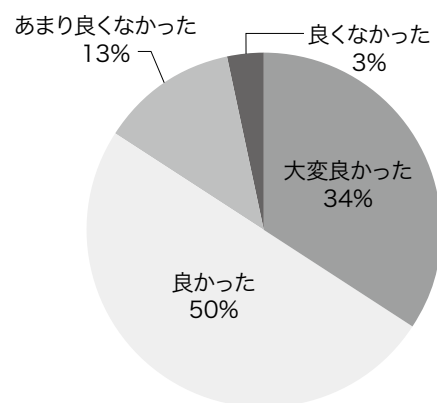


問19 次回大会に望むプログラム

- 登山（会津磐梯山） ・ロングハイク ・オリエンテーリング ・キャップハンディの拡大
- 企業プログラム ・大学プログラム ・先端技術を生かしたプログラム
- 点字えほんづくり ・手話ではなそう ・「ダイアログインザダーク」簡易バージョン
- 福島の自然と文化、歴史が感じられるプログラム
- 「スカウトだけです」と言われないプログラム
- 障がいのある方と健常者と一緒に行うプログラム（他国との交流も含め）

問20 会場の「富士山麓山の村」について

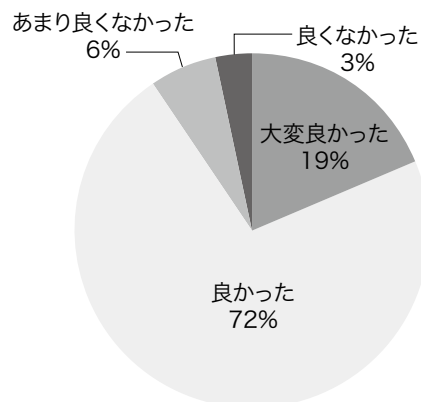
- 舎営と野営がうまく共存出来ていてよかった。
- 富士山を真近で見れるのは、この会場ならではの良さだった。
- 障がいのあるスカウトにとって、どこに行くのも坂道と足場の悪い道は良くない。
- 自然豊かで空気も良く、運が良ければ富士山が見えるという場は過ごすだけでたくさんの学びがあった。車いすなど、特別な配慮を必要とするスカウト、介添えの方には、とても大変な場所だったかもしれないが、お手伝いできることをできる人ができるときにやることでもっと快適にできるのではないかという問題提起にもなり良かった。
- 参加隊のテントスペースがない。ロッジ前に傾斜がある。狭い。全体に人数的にキャパオーバーだったと思う。



- ・車両通行の不便さ、モバイル使用ができない。
- ・コンパクトな会場だが、各施設が完備されており、好感がもてた。

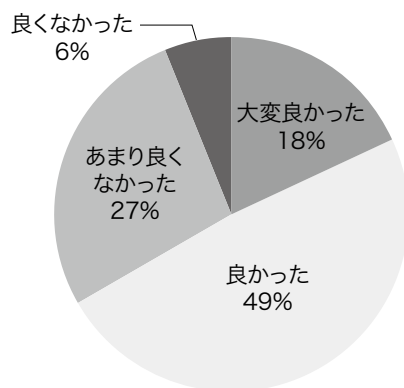
問21 会場の利用計画、浴場・トイレなどの既設設備について

- ・シャワーを工夫してくれてよかった。シルエットが丸見えなのは次回工夫してほしい。
- ・浴場もトイレも混雑もなく良かったと思う。
- ・試行錯誤のあとが垣間見えるサイト割り。→ありがたかった。
- ・事務局は大変だったと思うが、良く検討されており、不便は感じなかった。
- ・障がい者について、衛生的な水回りが必要。
- ・限られたなかで、うまく運用されていた。
- ・部屋割りが、子どもといえど、男女同室はどうかと思った。



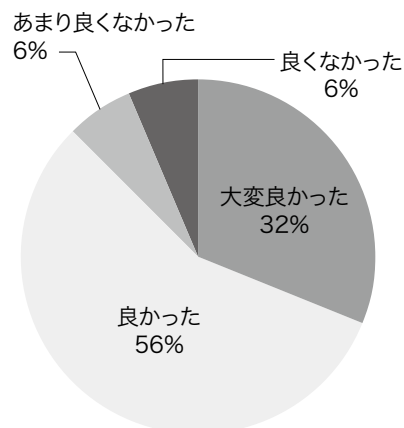
問22 食事について

- ・みんなでワイワイしたり、いろいろな人と話ができ食事が楽しかったのは良かった。
- ・並んでいる時、雨降りで待つのはつらかった。雨が苦手な子もいるので（障がい者）なにか対策してほしい。
- ・地元ならではの献立もあり、おいしくいただいた。
- ・野菜が少なく、体調管理が心配だった。
- ・最終日の昼食もあると思っていた。
- ・1日目夕食のカレーライス以外は良かった。
- ・スタッフ・アイルランドローバーも良かった。
- ・牛乳などを出していただきたい。お茶も色がついているだけでなく。



問23 インフォメーションセンターの対応について

- ・元気が良く、あいさつにいやされた。
- ・相談に行くと、生活サービスセンターに行ってくれと言われた。実際には生活サービスセンターがほとんどやっていた。
- ・丁寧に対応いただき、話しかけやすかった。
- ・「ここに行けばなんでもわかる」という訳ではなかった。いらっしゃる人によって、情報の

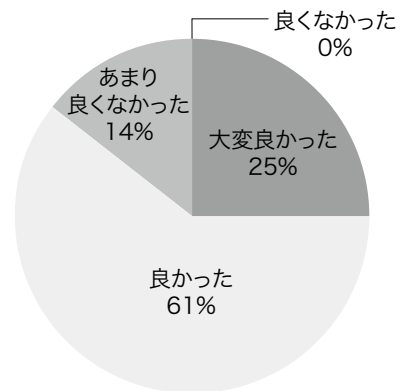


はばや、対応のしかたに違いを感じた。

- いつも笑顔の対応で良かった。
- たらい回しにあった。
- どこにいて何をされていたのかわかりません。
- 笑顔で対応してもらえて、たいへん好印象。

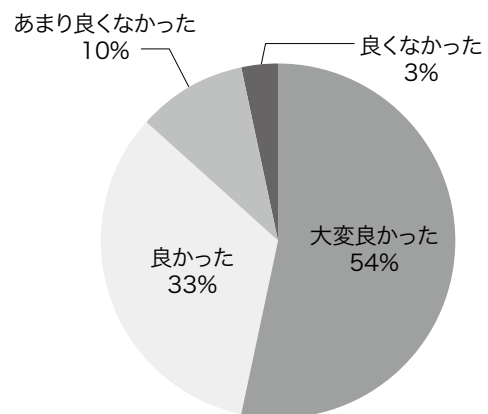
問24 大会本部各センターの対応について

- 各部工夫しながら改善してくれて助かった。
- スカウトに親しみをもって声をかけてくれてありがたかった。
- 情報の混乱があったが、一部の方をのぞいては、ていねいに対応していただいた。
- 隊長会議の時にいろいろな疑問にしっかり答えていただけたので良かった。
- 各部の窓口がバラバラで横の連携がなされていなかったのが残念。
- ちぐはぐな対応があった。たとえば受付とか場内新聞の配布具合とか。
- みんなで12NAを成功させよう！という全員参加型のコンセプトが良かった。



問25 チャレンジクルーのスカウトの支援について

- 同じ人が続けて来てくれたので、スカウト達ともうちとけて大変良かった。
- 人と関わるのが苦手な息子に根気強く接していただき、参加スカウトにとって、いい交流となった。
- できれば事前に「クルー配属リスト」などをいただくと受け入れ側もクルーの最大限の関わりができたのではないかと思います。
- チャレンジクルーがきちんと動けるようになるまでたいへんだったと思う。クルーに何をしてもらえば良いのか正直悩んだ。
- 参加したベンチャースカウトの報告から、彼の達成感を感じることができた。
- ボーイの参加者の中から、次回はチャレンジクルーでぜひ参加します！という感想文を書いたスカウトがいた。
- 一生懸命さが伝わってきた。本人たちも得るものは多かったと思うが、地区のスカウトにもこのような経験をさせていと感じた。



<自由記述>

- ・障がいスカウトが少ないのに、健常スカウト、スタッフが多い。元々障がいスカウトが少ないのか？
- ・見える障がいと見えない障がいの差を大きく感じた大会だった。具体的には、車いすには手が差し出されるが、隣の手にし少し障がいのあるスカウトには何も無い。配慮の必要なスカウトには目印が必要（例：名札の色が違う）。
- ・最後の人のアーチ、いっぱい笑顔いただきました力をもらった。
- ・障がい者への対応についてもっと勉強していただきたい。
- ・ボランティアに入っている人たちに、障がい者（児）の状況を説明しておいてほしい（時間を早めたり、短くしたり、、、に合わせられない等）。
- ・アンケートが紙ベースだけでなく、パソコンで回答しやすいよう、エクセルやワード等の資料でいただきたい。
- ・必ずこのアンケートが次回の大会に活かされていることを希望する。
- ・自隊の睡眠障がいのスカウトが、初めてキャンプ全日程に参加できたのが良かった。
- ・「We Can」というテーマでしたが、車いすや聾のスカウトなど、目に見える障がいをもつ人だけではなく、参加者全員がそれぞれの目標に向かって共に過ごすことで得たものは本当に大きかったと思う。
- ・ドリームアワードを授与される時のスカウトの達成感に満ちた笑顔に感動した。あのよう一人ひとりが認められる機会がスカウト活動の中でも珍しくなりつつあることに危惧していたところでもあったので、これからも是非つづけてほしい。
- ・カウンセリングルームのような場所、次回に期待！
- ・参加スカウト達も、他隊のスカウト、リーダー、本部スタッフとの交流を通じて一回りも二回りも成長した印象を受け、参加して良かったなど実感している。
- ・広報の新聞が内容充実していて次の日の朝届くのが楽しみだった。最後の日の富士の夕べの新聞もほしかった。
- ・アグーナリーを楽しみにされている方たちもいるのでがんばって次回もきちんと開催できるように、いろいろな問題を解決できるようにできるだけお手伝いしたいと思った。
- ・チャレンジクルーの隊への支援時間を長くしてもらいたい（朝食～夜のプログラム終了まで）。
- ・外国スカウトの参加が前回より多かったので良かった。次回以降、もっとたくさん参加してほしい。我が隊のスカウト達、特にカブたちは、新鮮味が大きかった。
- ・会場内では、障がいのあるスカウトも、そうでないスカウトも関係なく、笑顔で元気よくあいさつを交わし、キャンプを楽しんでいる姿を見ることができた。会場外、日常生活の中でも同様にできるように、自分ができることから実行したい。

4. チャレンジクルー（未成年スカウト） アンケート集計

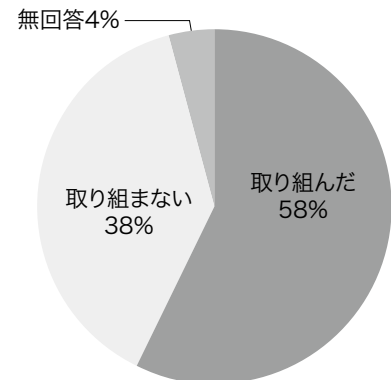
対象者：チャレンジクルーとして大会に参加したベンチャースカウトおよび20歳未満のローバースカウト・同年代指導者112人からCJKプログラムで参加者したスカウト26人を除いた86人を対象とした。

提出人数：45人（回収率52%）

※自由記述のご意見は紙面の関係で抜粋させていただきました。

問1 プロジェクトの取り組み

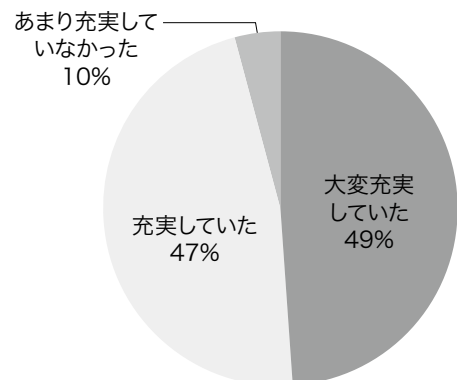
- 回答者45人のうち、26人（58%）が個人のプロジェクトを取り組んだと答えて、17人（38%）は取り組まなかったと答えた。2人はローバースカウトだったため回答しなかった。



活動チームと配属先について

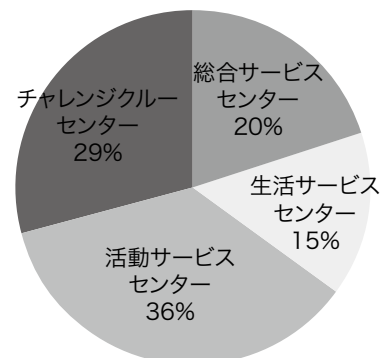
問2 クルーの編成と活動状況について

- 何事にも全力で協力して取り組むことができた。
- 問題なくユニットで楽しめたので大変充実していた。
- 韓国人スカウトがいるところに韓国語を話せる人を配属してくれてよかった。
- いろいろな地域の人と関わられた。
- とても楽しく活動できた。
- 仲良くできたしクルー全員で活動できた。
- 自分のやるべきことがわかってよかった。
- 参加隊の奉仕は楽しく有意義だった。
- 面白いユニットとチームですごく楽しかった。
- 運営側との連携をもっとしっかりしてほしい。



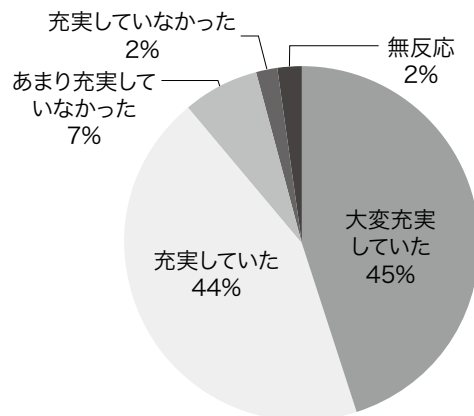
問3 どのサービスセンターを支援したか

- 総合サービスセンターに配属された人は9人（20%）、生活サービスセンターに配属された人は7人（15%）、活動サービスセンターに配属された人は16人（36%）、チャレンジクルーセンターに配属された人は13人（29%）でした。



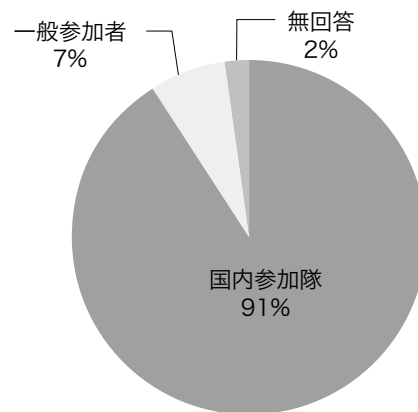
問4 センター支援業務は充実していたか

- 外国の人と接する機会があった。
- 色々な経験ができた。
- 普段できないような業務を体験できた。
- 空き時間を有効に使えなかった。
- 色々な人と交流できた。
- ポイントラリーの受付けをやっていて、いろんな人がきて楽しかった。
- 大変だったけど、いろんな仕事を学べてよかったです。でも連携を少ししっかりしてほしい。
- 今回は広報と食堂の奉仕に行き、今までは参加隊として参加したが本部スタッフとして業務ができてよかった。



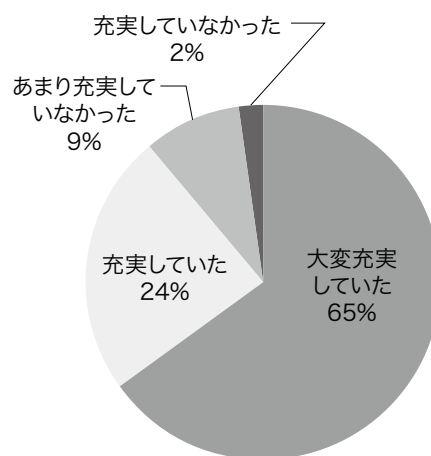
問5 どの参加隊を支援したか

- 国内参加隊を支援した人は41人 (91%)
- 一般参加者の支援は3人 (7%)
- 1人無回答



問6 参加隊支援業務は充実していたか

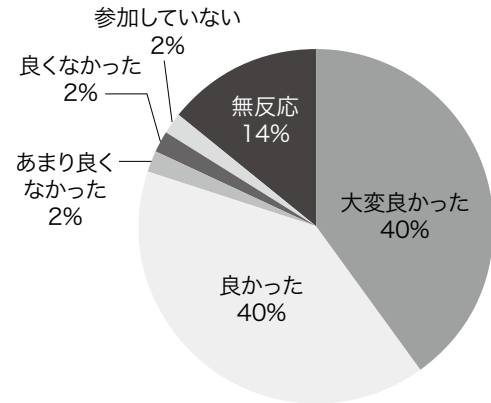
- 多くの人としっかりとコミュニケーションがとれてとても楽しめた。
- 障がいのある方への理解が深められた。
- 参加者と交流を深められた。
- 支援する時間が短かった。
- 何をすればいいのかわかりやすくしてほしい。
- 無理といってもできそうなことは「できる!」と言ってあげると頑張ってくれて、本当に今回参加できてよかったと思えた一つになった。
- 障がい者の方とこれだけ密接に過ごせて多くを学べたことは本当にいい経験だった。
- 元気をもらった。



大会のプログラム・生活について

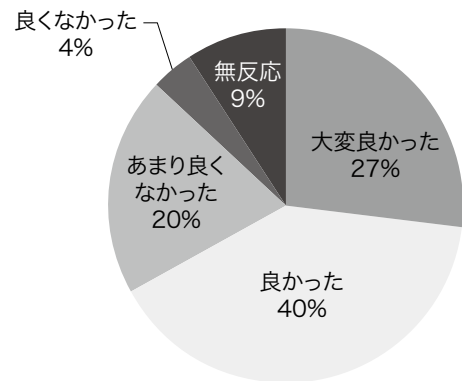
問7 全体行事（開会式・国際交流の夕べ・富士の夕べ・閉会式）について

- ・雨が降ったのが残念だった。
- ・とても盛り上がった。
- ・特に富士の夕べがよく楽しめた。
- ・国旗掲揚をすることができたり、富士の夕べでずっと踊ったり本当に楽しかったけど、雨はつらかった。
- ・眞子内親王殿下に会えてうれしかった。
- ・どの行事も楽しかった。
- ・詳細はあまり伝わってこなかった。



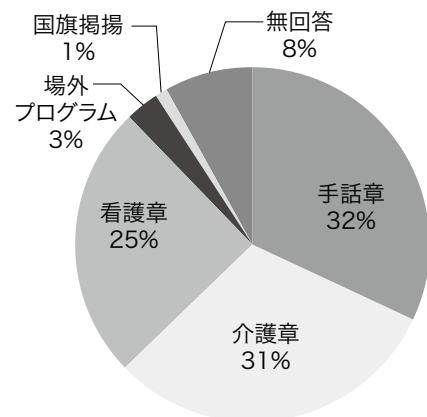
問8 事前研修について

- ・障がい者についてしっかり学ぶことができた。
- ・事前研修でいろんな人とかわりをもてたと思う。
- ・参加スカウトに接する前にいろんな事を知れて心構えができてよかった。
- ・専門的なこと、社会に出ても生かせることを学べた。
- ・もう少し勉強したかったし、グループ分けで混乱した。



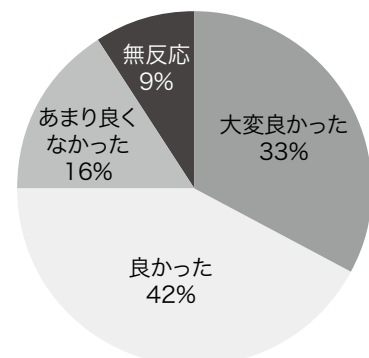
問9 期間中の研修・講習について（参加した研修・講習） ※複数回答あり

- ・手話章23人
- ・介護章22人
- ・看護章18人
- ・その他の回答として2人が場外プログラムに奉仕し、1人が国旗掲揚と回答
- ・無回答6人



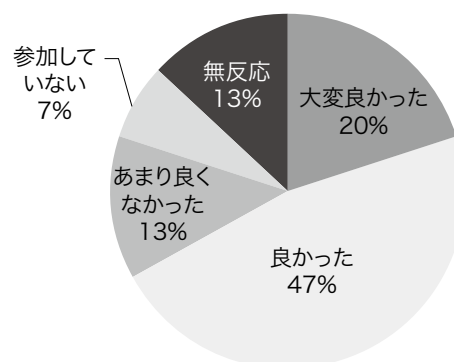
問10 フォーラムについて

- ・時間が短くて話が回りきらなかった。
- ・ユニットでしっかり話し合いができたと思う。
- ・いろんな人の意見を聞くことができた。
- ・とても楽しかった。
- ・ローバーの方が考えてくださったゲームで、ユニット全体で協力できた。
- ・このようなベンチャープログラムに参加したことがなかったなので今回すごく楽しめた。



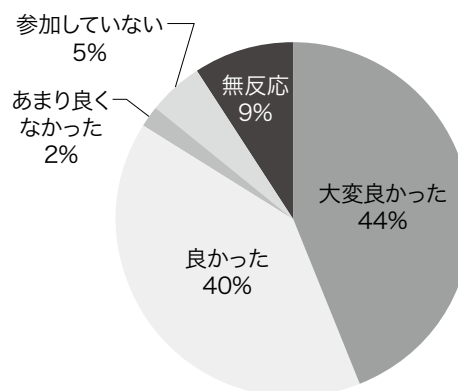
問11 クルーハンドブックについて

- 細かい時間を書いてほしかった。
- 小さいけど分かりやすかった。
- トラブルの対応や困ったときの対応が書いてあるとよかった。
- 日々のことについてまとめやすかったです。
- 情報が多すぎてよく分からなかった。
- 毎日の日記も書くところがあり、団に帰って報告するのに役立つと思うのでよかった。



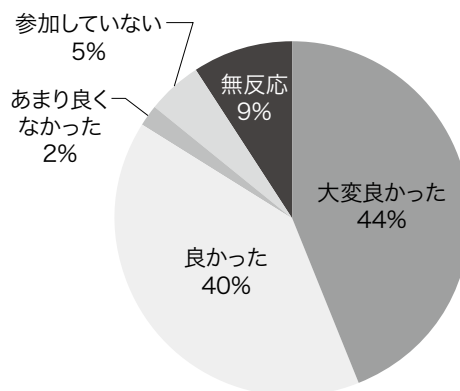
問12 生活について

- 雨が降りすぎて洗濯ができなかった。
- トイレが臭かった。
- 要望に応じ答えてくれた。
- 規則正しい生活ができた。
- 仲良くなった人たちがいてよかった。
- 不便なことはなかったけど、雨が降った時のテントサイトが大変だった。
- テントも広く、寝やすかった。
- 雨ばかりで大変だったけど楽しかった。



問13 食事について

- 揚げ物が多かった。
- 少し量が多かった。
- とてもおいしかった。
- 要望に対する改善のよさに感動した。
- 食事時間が少し早い。
- いろいろなものが食べられてよかった。
- すべておいしく残すことなく食べた。



問14 自由記述

- すごく楽しかった。
- 6日間ありがとうございました！ 弥栄。
- 本部の対応が悪かった。
- 不満だらけの大会だった。
- 外国の方とも交流できて、障がい者の方には楽しんでもらって、とても良い6日間だった。

第12回日本アグーナリー報告書

2017年3月



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟

〒113-8517 東京都文京区本郷1丁目34番3号

電話 03-5805-2561 (代表)

ホームページ URL:<http://www.scout.or.jp>



この報告書は、適切に管理された森林で生産されたことを示すFSC® 森林認証紙を使用しています。



印刷には生分解性や脱臭性に優れ、印刷物のリサイクルが容易なベジタブルインキを使用しています。



そなえよつねに
ボーイスカウト